

綾瀬市公共施設調査報告書



平成25年3月
綾瀬市

目 次

第1章 公共施設調査報告書について

- 1 調査報告書の位置づけ … 2
- 2 調査の対象となる公共施設 … 2
- 3 (仮称) 公共施設
有効利用促進計画の策定 … 4

第2章 公共施設を取り巻く現状と課題

- 1 人口の推移と推計 … 6
- 2 財政の推移 … 8
- 3 公共施設の面積と建築年度 … 12
- 4 施設の更新費用の見込み … 14
- 5 下水道施設の更新費用の
見込み … 16
- 6 地域ごとの主な公共施設と
年齢階層別の人口分布 … 17

第3章 各施設の現状

- 1 庁舎等
 - (1) 市役所(本庁舎・議会棟) … 27
 - (2) 消防施設 … 28
 - (3) リサイクルプラザ … 30
 - (4) 浄水管理センター … 31
 - (5) 保健医療センター … 32
- 2 福祉施設
 - (1) 保育園 … 33
 - (2) 児童館 … 36
 - (3) 高齢者福祉会館 … 40
 - (4) 綾西高齢者憩の家 … 42
 - (5) 障害者自立支援センター … 44
 - (6) もみの木園 … 47
 - (7) ふれあいの家 … 49
 - (8) 福祉会館 … 51

3 生涯学習施設

- (1) 公民館 … 57
- (2) コミュニティセンター … 75
- (3) 文化会館 … 81
- (4) 図書館 … 83
- (5) 文化財収蔵施設 … 86
- (6) スポーツ施設 … 87

4 学校教育施設

- (1) 小学校 … 92
- (2) 中学校 … 93
- (3) 学校給食センター … 95
- (4) 適応指導教室 … 96

5 その他の施設

- (1) 市営住宅 … 98
- (2) 公園 … 100
- (3) 本蓼川墓園 … 102
- (4) 自治会館 … 103
- (5) 地区会館 … 105

第4章 有効利用の方向性

- 1 施設総量の削減 … 110
- 2 多目的利用の推進 … 110
- 3 適正な受益者負担 … 110
- 4 施設の長寿命化 … 111

巻末資料

- ・参考資料の出典 … 112
- ・取得価格に基づく建物コスト … 113

第 1 章

公共施設調査報告書について

第1章 公共施設調査報告書について

1 調査報告書の位置づけ

わが国では、戦後の復興期から高度経済成長期にかけて、また平成初期のバブル経済崩壊後の経済対策を通じて、学校、公民館などの公共施設や道路、上水道、下水道などのインフラ資産が集中的に整備されてきました。しかし、これらの資産が一斉に更新時期を迎え、多額の費用が必要になると見込まれています。

その一方、平成7年に発生した兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）において多くの方が建物の倒壊で亡くなった反省から耐震改修促進法が施行され、施設の耐震診断や改修が急務とされたほか、少子化・高齢化の進行やライフスタイルの多様化に伴う市民ニーズの変化など、公共施設を取り巻く環境は大きく変わってきています。

公共施設は、市民に利用いただくために設置したのですが、社会構造や情勢の変化を無視し、ただやみくもに施設の維持を続けていけば、将来の市民負担を増やす結果となります。

この調査報告書は、これからの公共施設のあるべき姿を市民と共に考えていくため、本市の公共施設を取り巻く現状と、将来に予測される課題を明らかにしたものであり、今後策定を予定している「（仮称）公共施設有効利用促進計画」の基礎資料として活用するものです。

2 調査の対象となる公共施設

調査報告書の作成にあたっては、福祉施設や生涯学習施設など、市民にサービスを提供する全ての施設を調査の対象としました。また、道路、橋りょう、下水道といったインフラ施設についても、将来の更新費用を算定しています。

調査の対象とした公共施設の具体的な種類と名称は、次のとおりです。

施設の種類	施設の総称	施設の名称
庁舎等	市役所	市役所（本庁舎・議会棟）
	消防施設	消防本部、北分署、南分署、中央分団車庫、綾北分団車庫、寺尾分団車庫、早園分団車庫、綾西分団車庫、綾南分団車庫
	リサイクルプラザ	リサイクルプラザ
	浄水管理センター	浄水管理センター
	保健医療センター	保健医療センター

福祉施設	保育園	綾南保育園（子育て支援センター）、大上保育園
	児童館	ながぐつ児童館、寺尾児童館、小園児童館
	高齢者福祉会館	高齢者福祉会館
	綾西高齢者憩の家	綾西高齢者憩の家
	障害者自立支援センター	ばらの里、希望の家
	もみの木園	もみの木園
	ふれあいの家	深谷大上ふれあいの家
	福祉会館	福祉会館、綾北福祉会館
生涯学習施設	公民館	中央公民館、中村地区センター、早園地区センター、吉岡地区センター、綾南地区センター、北の台地区センター
	コミュニティセンター	寺尾いずみ会館、南部ふれあい会館
	文化会館	文化会館
	図書館	図書館
	文化財収蔵施設	文化財収蔵施設
	スポーツ施設	市民スポーツセンター、早川城山多目的広場、本蓼川テニスコート、蓼川スポーツ広場
学校教育施設	小学校	綾瀬小学校、綾北小学校、綾西小学校、早園小学校、綾南小学校、天台小学校、北の台小学校、落合小学校、土棚小学校、寺尾小学校
	中学校	綾瀬中学校、綾北中学校、城山中学校、北の台中学校、春日台中学校
	学校給食センター	学校給食センター
	適応指導教室	適応指導教室
その他の施設	市営住宅	蓼川住宅、寺尾釜田住宅
	公園	都市公園（124箇所）
	本蓼川墓園	本蓼川墓園
	自治会館	大上自治会館、蓼川自治会館、寺尾北自治会館、寺尾天台自治会館、寺尾綾北自治会館、寺尾南自治会館、小園自治会館、早川自治会館、綾西自治会館、吉岡自治会館、上深谷自治会館、中村自治会館、上土棚自治会館、落合自治会館
	地区会館	綾南会館、鶴島会館、大上会館

※平成24年度から利用を開始した「子育て支援センター大上サロン室」と「落合ふれあいの家」は、年間利用実績が無いため調査対象から除いています。

3 （仮称）公共施設有効利用促進計画の策定

調査報告書で示す公共施設の有効利用の方向性に基づき、「（仮称）公共施設有効利用促進計画」を策定することで、財政負担を軽減しながら、将来にわたる公共サービスの提供を図ります。

なお、（仮称）公共施設有効利用促進計画は、それぞれの施設の維持や運営について策定された個別計画に優先する計画として位置づけます。

第 2 章

公共施設を取り巻く現状と課題

（第2章中のグラフや表などの参考資料の出典は、巻末資料に記載しています。）

第2章 公共施設を取り巻く現状と課題

1 人口の推移と推計

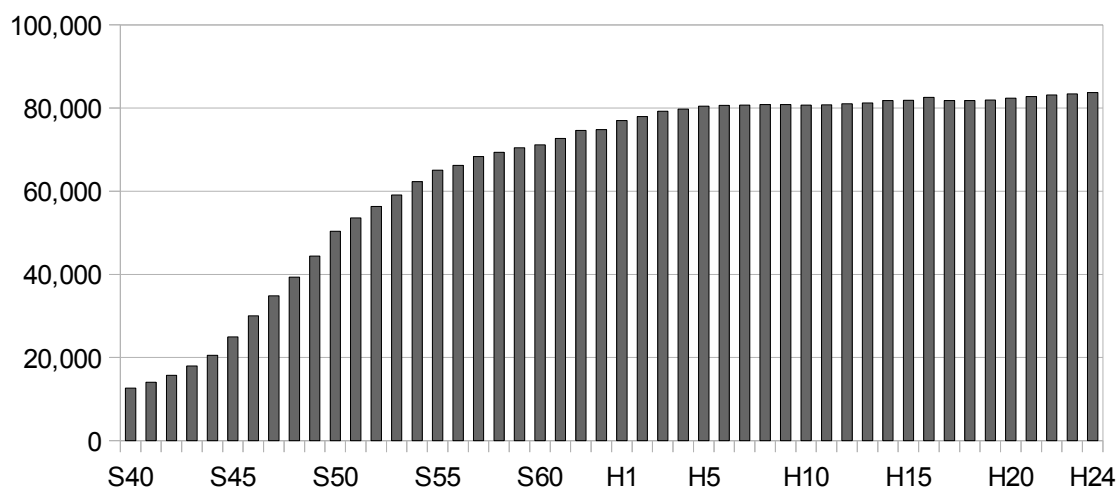
昭和30年代には1万人以下だった本市の人口は、昭和40年代から急増しました。

市制を施行した昭和53年に約6万人に達した人口はその後増加を続け、平成7年に実施された第16回国勢調査で8万人を超えたことが確認されました。

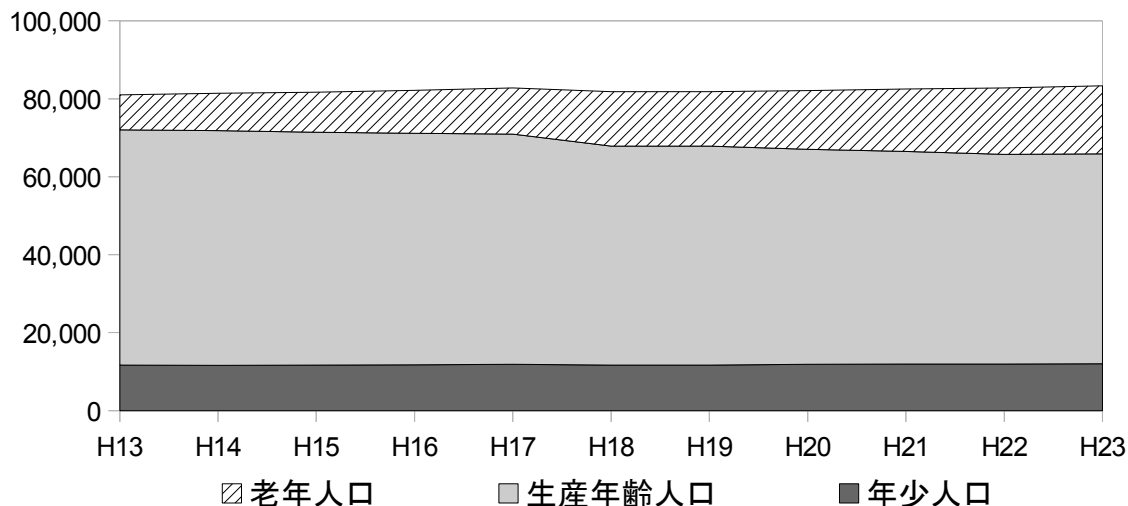
現在も人口は少しずつ増加を続けており、平成24年度の人口は8万3,845人（12月1日時点）となっています。

ただし、年少人口（14歳以下）は横ばい、生産年齢人口（15～64歳）は減少しており、老年人口（65歳以上）のみ増加していることを忘れてはなりません。

【総人口の推移(人)】



【年齢階層別の人口推移(人)】

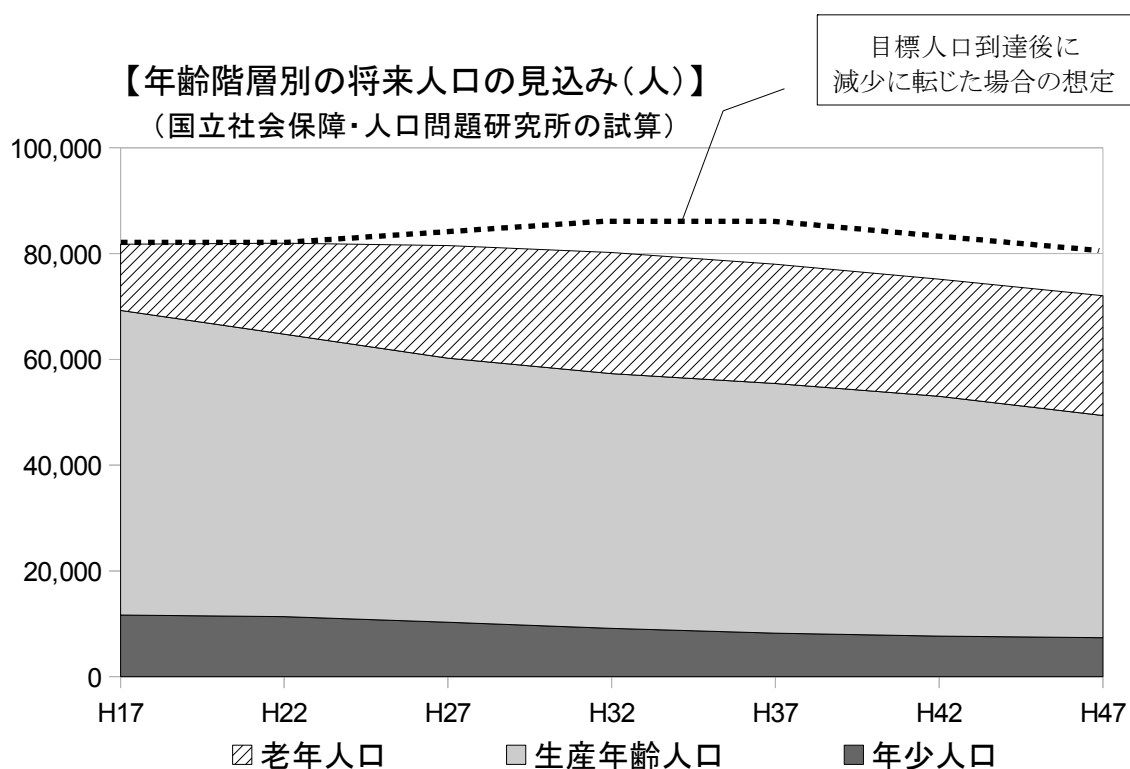


既に知られているように、わが国は人口減少時代に突入しています。

国立社会保障・人口問題研究所によれば、今後、本市の人口は減少し、平成32年には約8万人に、平成42年には7万5千人にまで減少すると予測されています。

一方、平成22年に策定した「新時代あやせプラン21後期基本計画」では、タウンセンター計画の完成や企業誘致による人口流入を見込み、平成32年度時点の目標人口を8万7千人と定めています。

現在のところ、研究所の予測に反して、本市の人口は微増を続けています。しかし、仮に将来の人口が減少に転じた場合は、いずれ現在の人口を下回ることも想定されます。将来に備えるためには、より厳しい状況を想定する必要があるでしょう。



2 財政の推移

平成23年度の本市の一般会計歳入の総額は、約280.6億円でした。

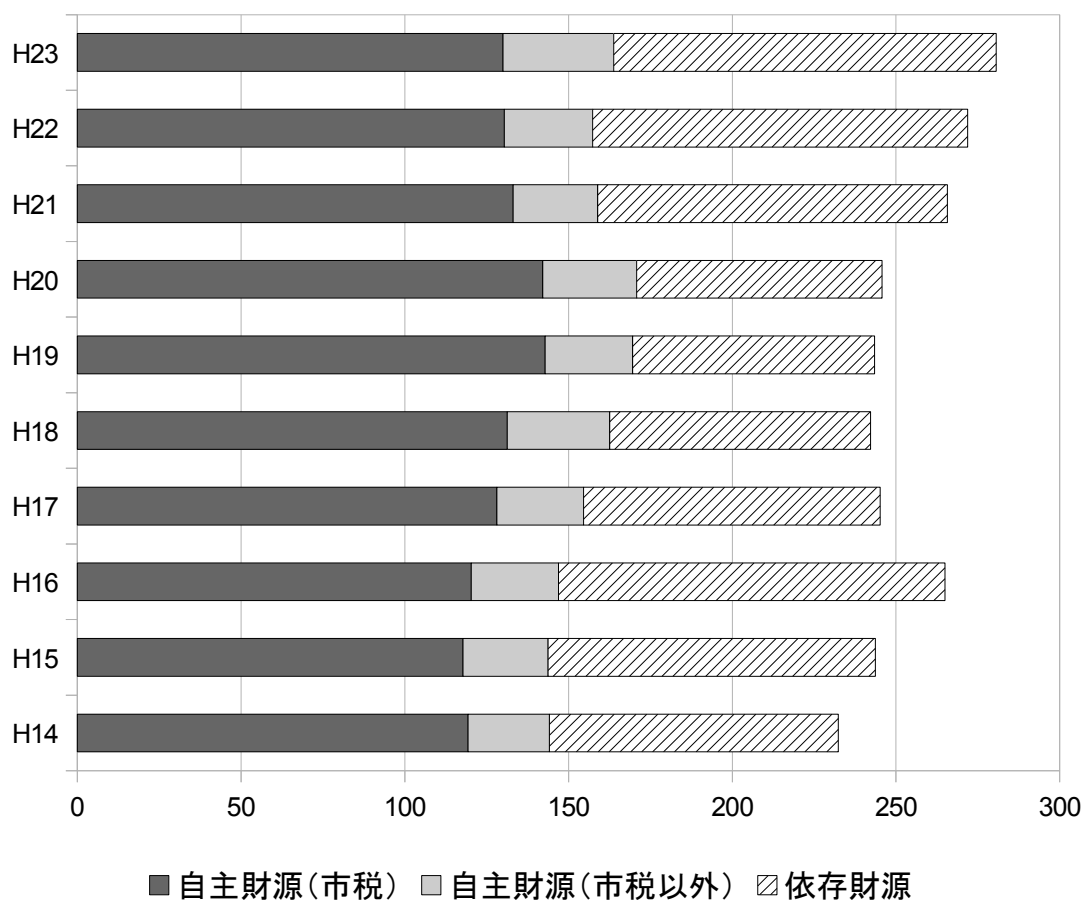
このうち、約116.8億円（41.6%）が依存財源（地方交付税や国庫支出金など、国や県に依存する財源）、約163.8億円（58.4%）が自主財源（市税や手数料など、市の独自の財源）となっています。

平成14年度の歳入総額（約232.4億円）に比べて約48.2億円増加していますが、そのうち約28.6億円は依存財源の増加によるものです。

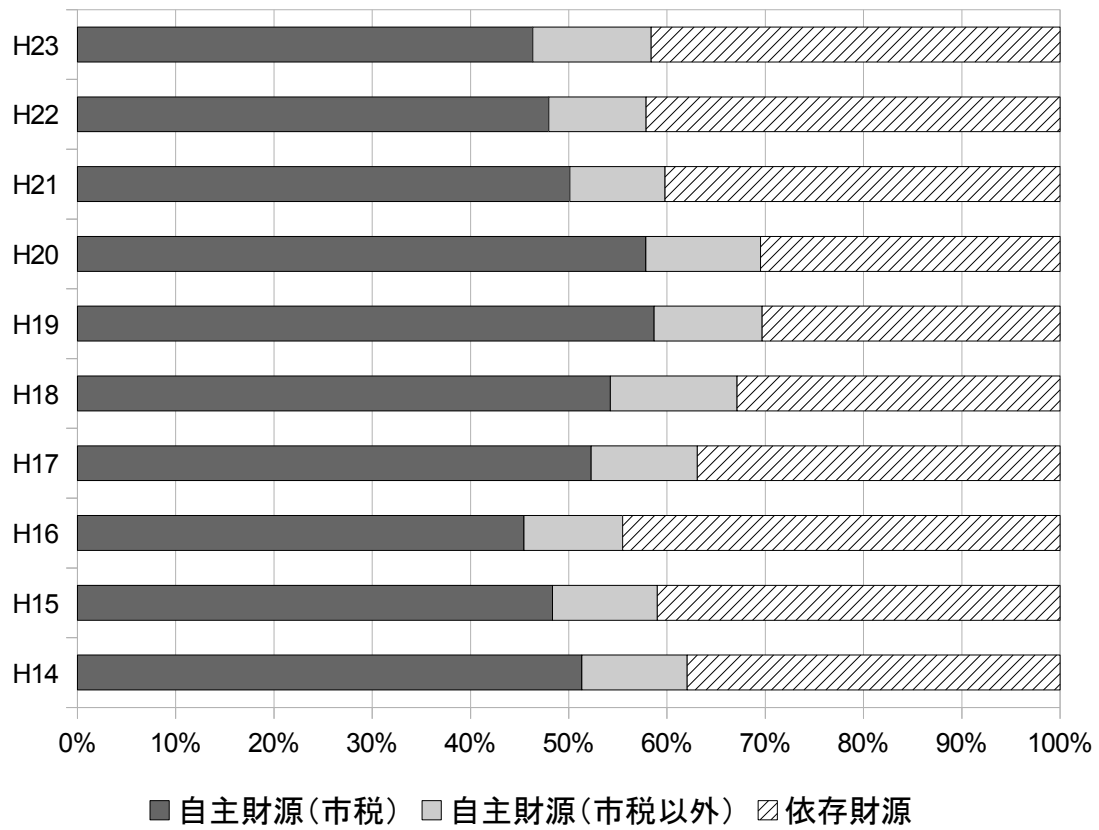
どの年度においても、自主財源の大半は市民税や固定資産税などの「市税」が占めています。また、市税収入のおおむね3分の1は、市民が納める「個人市民税」で賄われています。

平成23年度の個人市民税収は約44.3億円でした。将来、生産年齢人口（15～64歳）が減少すれば、市に収められる個人市民税額は確実に減少します。仮に生産年齢人口が1割減少した場合、税収も1割（約4.4億円）減少する可能性があります。

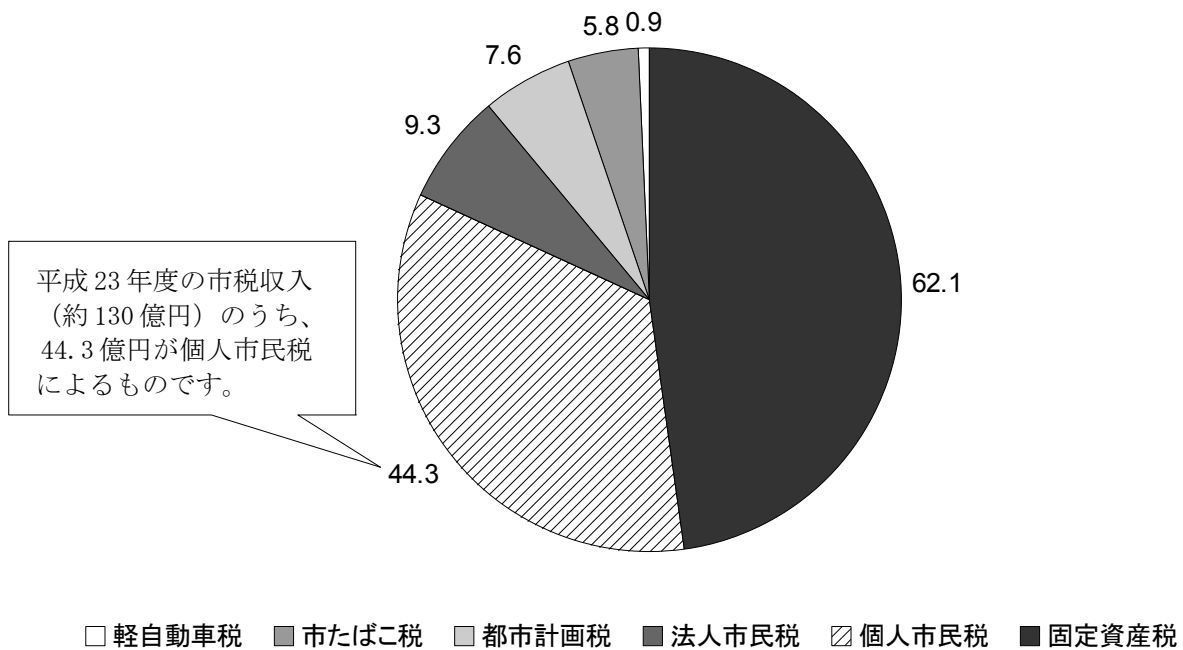
【財源別の一般会計歳入額(億円)】



【一般会計歳入の財源割合】



【平成 23 年度市税収入の内訳(億円)】



平成23年度の本市の一般会計歳出の総額は、約271.4億円でした。

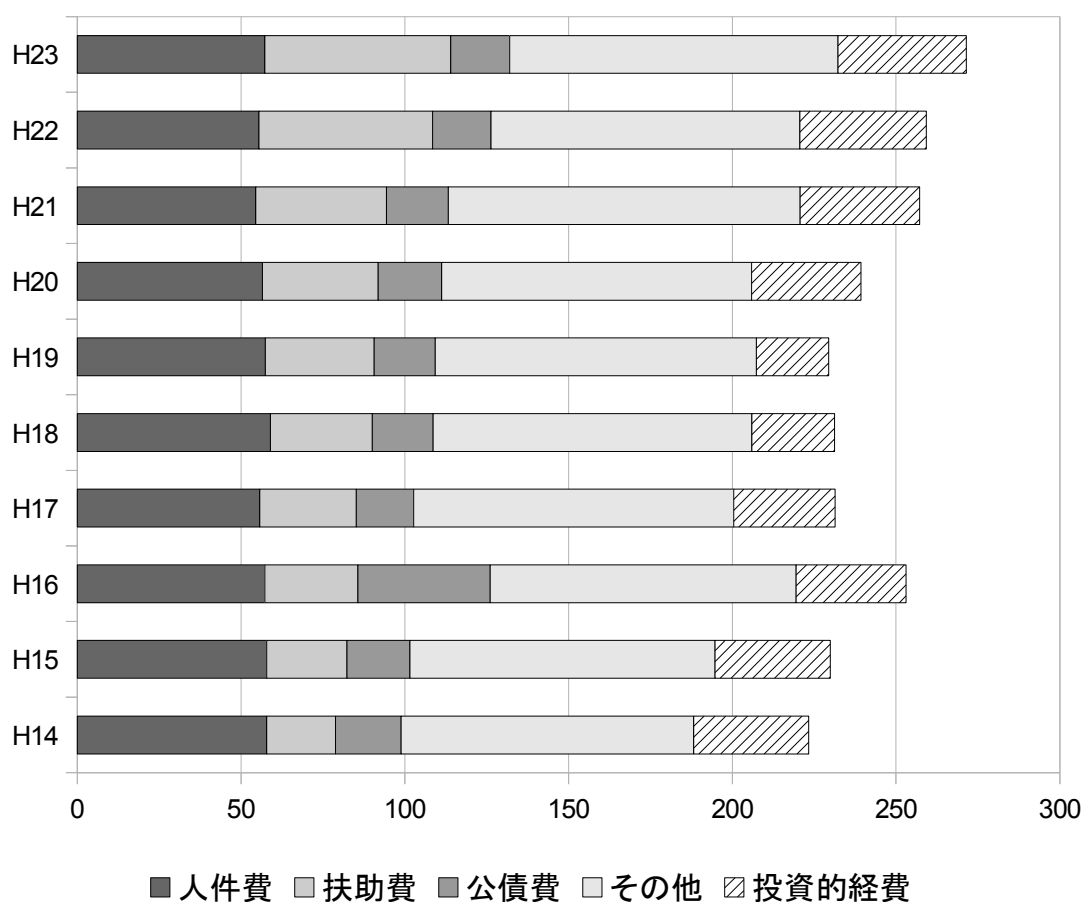
平成14年度の歳出総額（約223.3億円）に比べて約48.1億円増加しており、その4分の3が生活保護事業費や子ども手当などの扶助費の増加（約35.8億円増）によるものです。

総務省から発表されている「地方財政白書」によれば、公共施設の設置や更新などに使われる「投資的経費」の全国自治体の決算総額は、平成13年度が約23.0兆円なのに対し、平成22年度が13.5兆億円と、10年間で41%も減少しています。

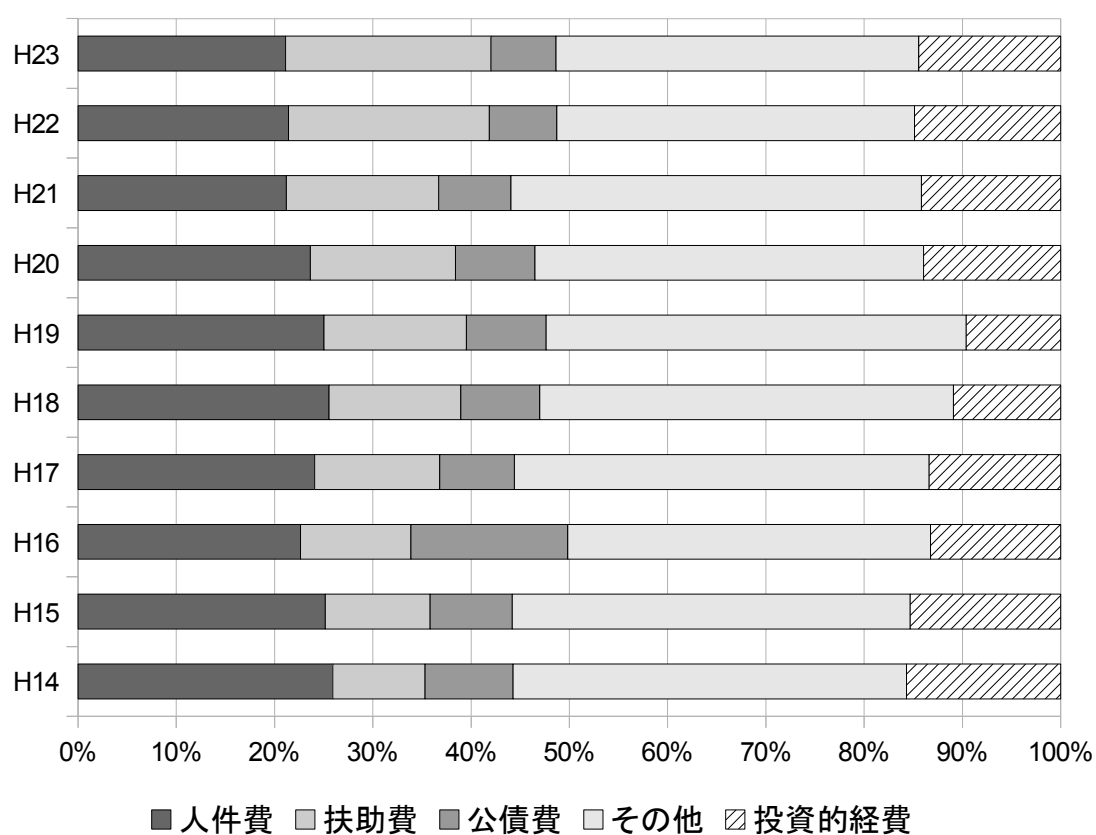
その一方で、本市の投資的経費には目立った減少は見られず、10年間の平均では約33億円の支出規模を維持しており、また、特別会計分も含めた市債（借金）の年度末残高は、この10年間で100億円以上減少しています。

しかし、今後、扶助費の増加や生産年齢人口の減少による税収減が予想されます。将来も同じ規模の投資的経費を確保できるとは限りません。

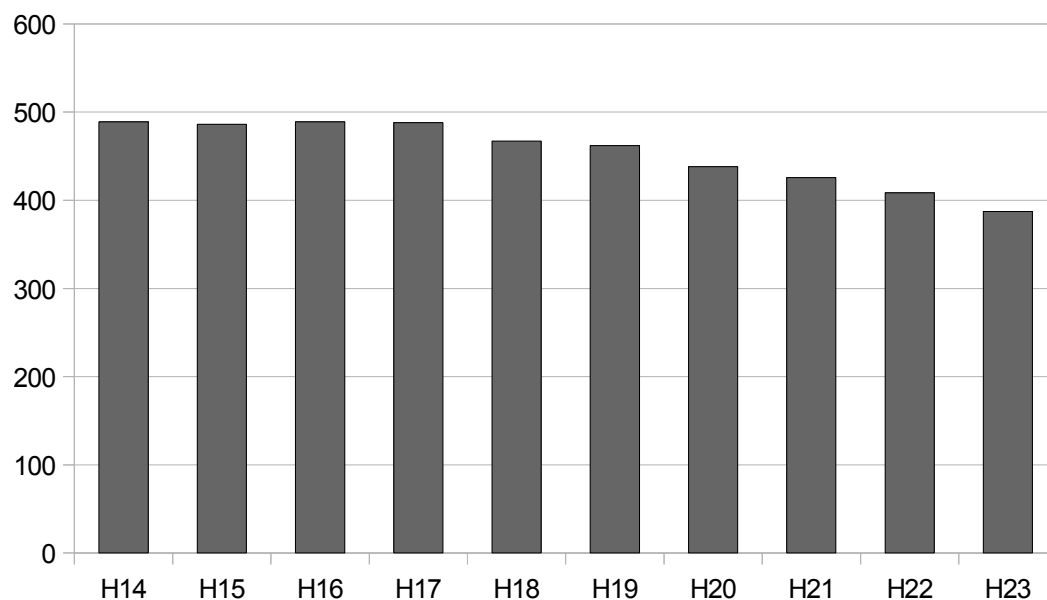
【性質別の一般会計歳出額(億円)】



【一般会計歳出の性質割合】



【市債の年度末残高の推移(億円)】



3 公共施設の面積と建築年度

本市の公共施設は、人口の急増に併せて昭和60年頃までに集中して整備されました。延床面積で比較すると、現存する公共施設のほぼ半分（約47％）が、昭和50年代に建設されています。

道路・橋りょう・下水道などのインフラ施設を除いた公共施設の規模は、平成25年1月現在では、延床面積で約19.1万㎡、敷地面積が約106.7万㎡となっています。市民一人当たりで換算すると、延床面積は約2.28㎡、敷地面積は約12.72㎡になります。

本市の公共施設の中では、学校教育施設の割合が大きく、延床面積では公共施設全体の約59％（約11.2万㎡）、敷地面積では約33％（約35.0万㎡）を占めています。

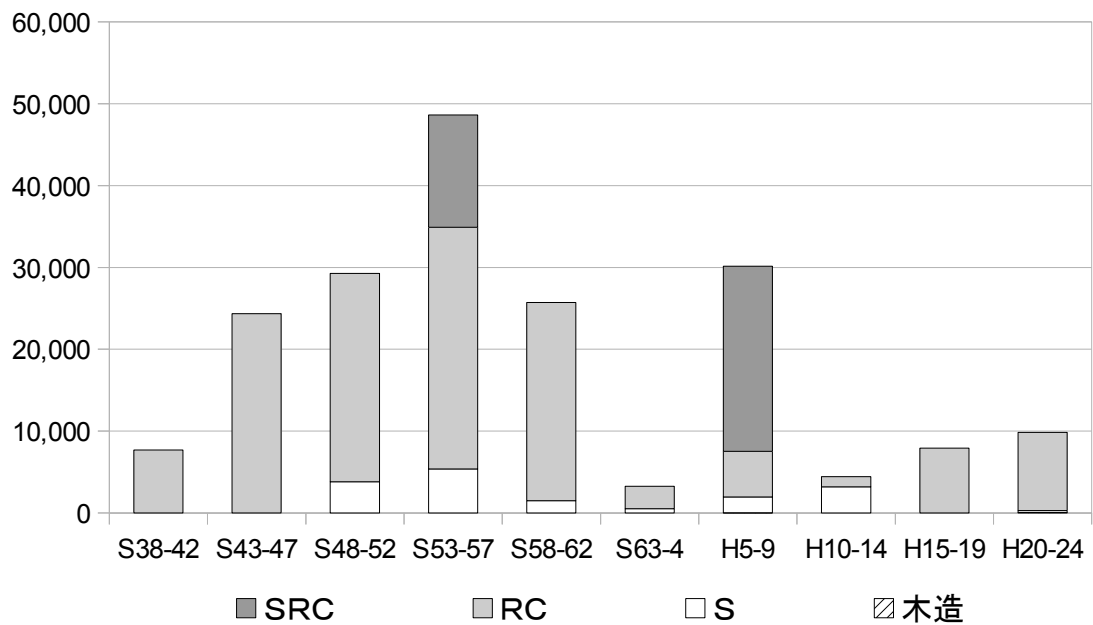
また、敷地面積について最も大きな割合を占めるのは公園であり、市内124箇所の合計は約47.9万㎡になります。これは、公共施設全体の約45％にあたります。

平成23年度に東洋大学P P P研究センターが全国981自治体を調査したところ、住民一人当たりの公共施設の延床面積の平均は3.42㎡との調査結果が出されています。この調査が行われた人口規模が8～9万人の39都市のうち、住民一人当たりの延床面積が大きい順で綾瀬市は31番目でした。

この結果によれば、全国と比較して本市の公共施設は少ないことにはなりますが、人口規模が8～9万人の39都市の中には平成の大合併を行った市が多数含まれており、単純に比較できない一面もあります。

また、同調査の結果からは、神奈川県内の市民一人当たりの延床面積は2.38㎡であることが示されています。近隣市では、秦野市2.08㎡、座間市1.98㎡、大和市1.92㎡、海老名市1.84㎡などが、本市より市民一人当たりの延床面積が低い結果となっています。

【公共施設の建築年度と延床面積(m²)】



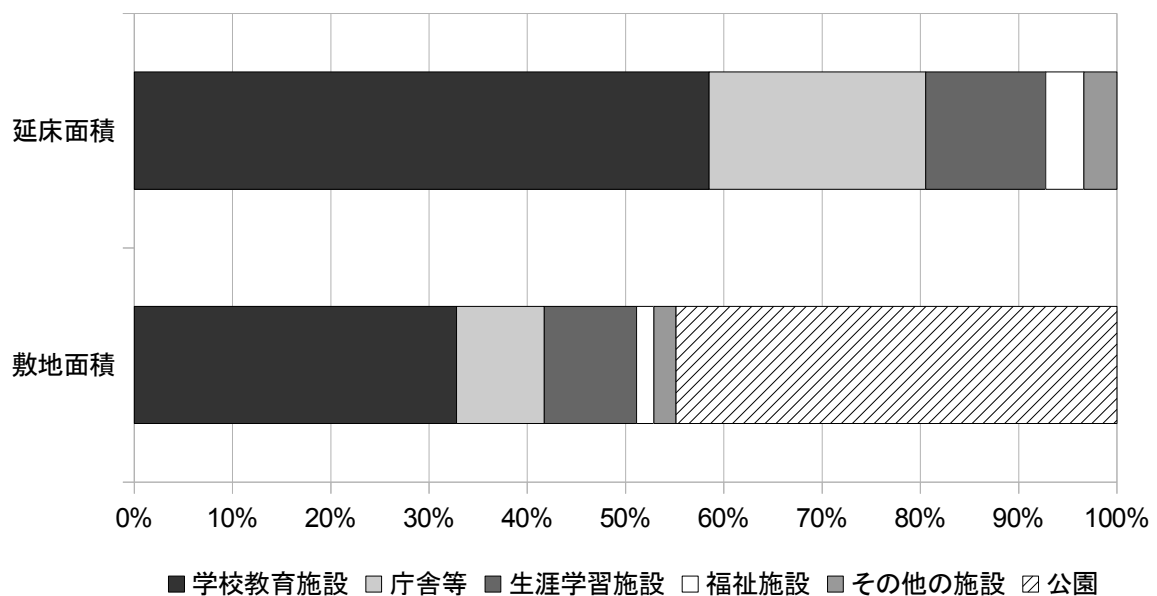
SRC：鉄骨鉄筋コンクリート構造

RC：鉄筋コンクリート構造

S：鉄骨構造

※木造の公共施設は小規模で数も少ないため、グラフに表示されません。

【公共施設の種類の面積割合】



4 施設の更新費用の見込み

下のグラフは、今後40年間に必要と見込まれる施設の更新費用の概算額を、下水道以外の施設について算定したものです。

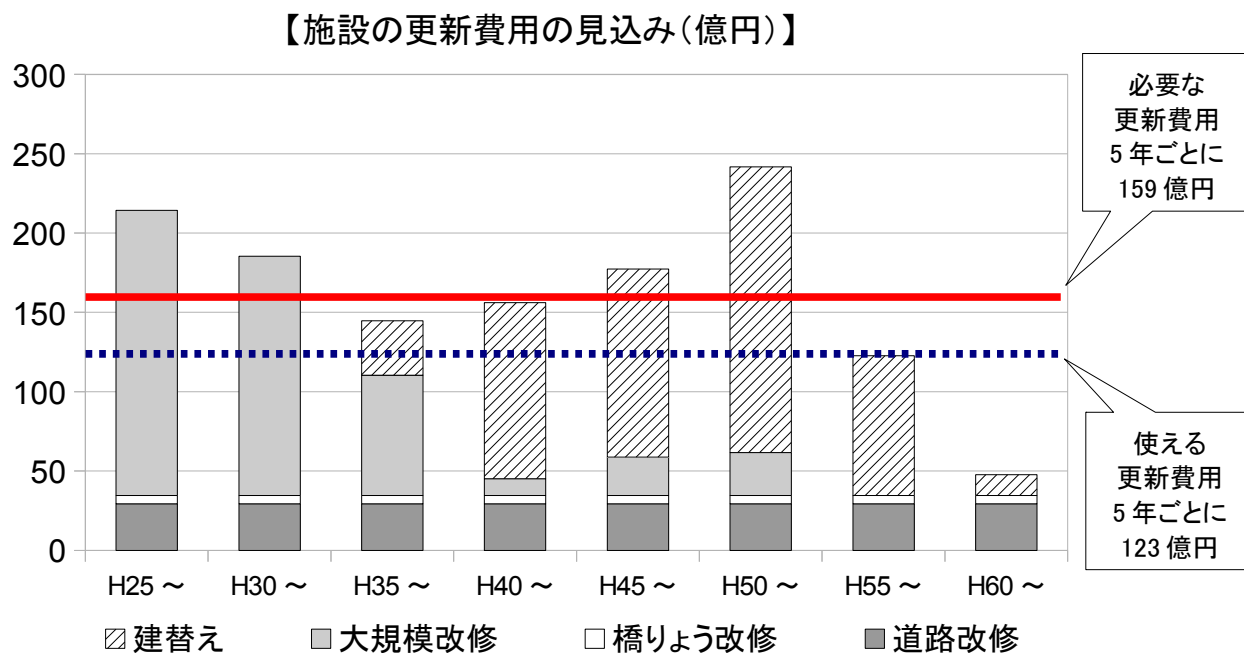
本市は小中学校をはじめ、昭和50年代に建設した公共施設が多いため、今後施設の大規模改修に多額の費用が必要となります。

その後しばらくの間、必要とされる更新費用は徐々に少なくなっていますが、昭和50年代に建設した公共施設が一斉に建替え時期を迎えるため、平成50年頃に再び更新費用のピークが訪れます。今後40年間に必要と見込まれる施設の更新費用の総額は約1,272億円に達し、5年間当たりの平均額は約159億円になります。

一方、平成19年～23年度までの5年間に使われた投資的経費のうち、公共施設や道路等の更新に使われた費用は約123億円でした。

同じ規模の投資的経費を今後40年間に渡って確保できたとしても、公共施設や道路等の更新に使える費用は約984億円に留まり、必要と見込まれる約1,272億円には288億円足りないことになります。

それどころか、扶助費の増加や税収の減少など、将来の投資的経費に回せる費用が少なくなる可能性があるのです。



《更新費用の算定方法》

施設の更新費用の概算額は、平成23年3月に財団法人自治総合センターから発表された「地方公共団体の財政分析等に関する調査研究会報告書」を参考に、次の基準により算定しました。

(1) 建替え費用

- ・施設の構造（鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造など）に関係なく、建築から60年後を建替え年度としました。
- ・延床面積1㎡当たりの建替え単価を40.0万円と仮定しました。
(建替え単価には解体、仮移転費用、設計委託料等を含みます。)

(2) 大規模改修費用

- ・施設の構造に関係なく、建築から30年後を大規模改修年度としました。
- ・既に大規模改修年度を過ぎている施設は、平成25年度以降の10年間で均等に改修することとしました。
- ・延床面積1㎡当たりの改修単価を25.0万円と仮定しました。
(建替え単価の約6割として単価設定しました。)

(3) 橋りょう改修費用

- ・橋りょうの耐用年数を60年とし、全橋りょう面積を60で割った面積を毎年度改修することとしました。
- ・橋りょう面積1㎡当たりの改修単価を44.8万円と仮定しました。

(4) 道路改修費用

- ・道路の耐用年数を15年とし、全道路面積を15で割った面積を毎年度改修することとしました。
- ・道路面積1㎡当たりの改修単価を4,700円と仮定しました。

5 下水道施設の更新費用の見込み

下水道施設は「下水道事業特別会計」という専用の予算によって管理されており、他の公共施設や道路を管理する「一般会計」とは予算が分けられています。

下水道施設については、現在「下水道長寿命化計画」の策定が進められていますが、「地方公共団体の財政分析等に関する調査研究会報告書」によれば、本市の管きょ（下水道管）の更新のために将来必要とされる費用は、毎年7.7億円になると試算されます。（更生工法により1mあたりの更新単価を12.4万円と仮定した場合）

本市の下水道施設は昭和62年度に供用が開始され、整備が進められてきました。

現在設置されている管きょの約80%は平成元年度以降に設置されており、管きょの更新予定年度は少し先になります。そのため、平成19年～23年度までの5年間に管きょの更新に使われた費用は約1.7億円、1年当たりの平均では約0.3億円で留まります。

将来、これまでより多額の更新費用が必要になりますが、この費用は下水道使用料の見直しなどで捻出しなければなりません。

下水道施設は他の公共施設と違い、予算が足りなければ数（量）を減らすということとはできません。どうしても予算が足りない場合は、特別に一般会計から予算を繰り入れることもできますが、その場合、他の公共施設や道路の更新に使う予算を圧迫することになります。

6 地域ごとの主な公共施設と年齢階層別の人口分布

地域ごとの主な公共施設の配置と、年齢別

（年少人口、生産年齢人口、老年人口）の人口分布は次のとおりです。

なお、ここでは「あやせ都市マスタープラン」と同様に、厚木基地を除いて、本市を6つの地域に分けています。



年齢階層別人口 (H25. 1. 1時点)	綾北 地域	寺尾 地域	早園 地域	綾西 地域	中央 地域	綾南 地域
年少人口（14歳以下）	1,621人	2,519人	2,192人	858人	2,647人	2,283人
生産年齢人口（15～64歳）	8,196人	12,427人	7,607人	4,007人	9,754人	11,335人
老年人口（65歳以上）	2,621人	4,724人	2,478人	2,152人	2,824人	4,173人
合計	12,438人	19,670人	12,277人	7,017人	15,225人	17,791人

年齢階層別人口割合 (H25. 1. 1時点)	綾北 地域	寺尾 地域	早園 地域	綾西 地域	中央 地域	綾南 地域
年少人口（14歳以下）	13.0%	12.8%	17.9%	12.2%	17.4%	12.8%
生産年齢人口（15～64歳）	65.9%	63.2%	62.0%	57.1%	64.1%	63.7%
老年人口（65歳以上）	21.1%	24.0%	20.2%	30.7%	18.5%	23.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

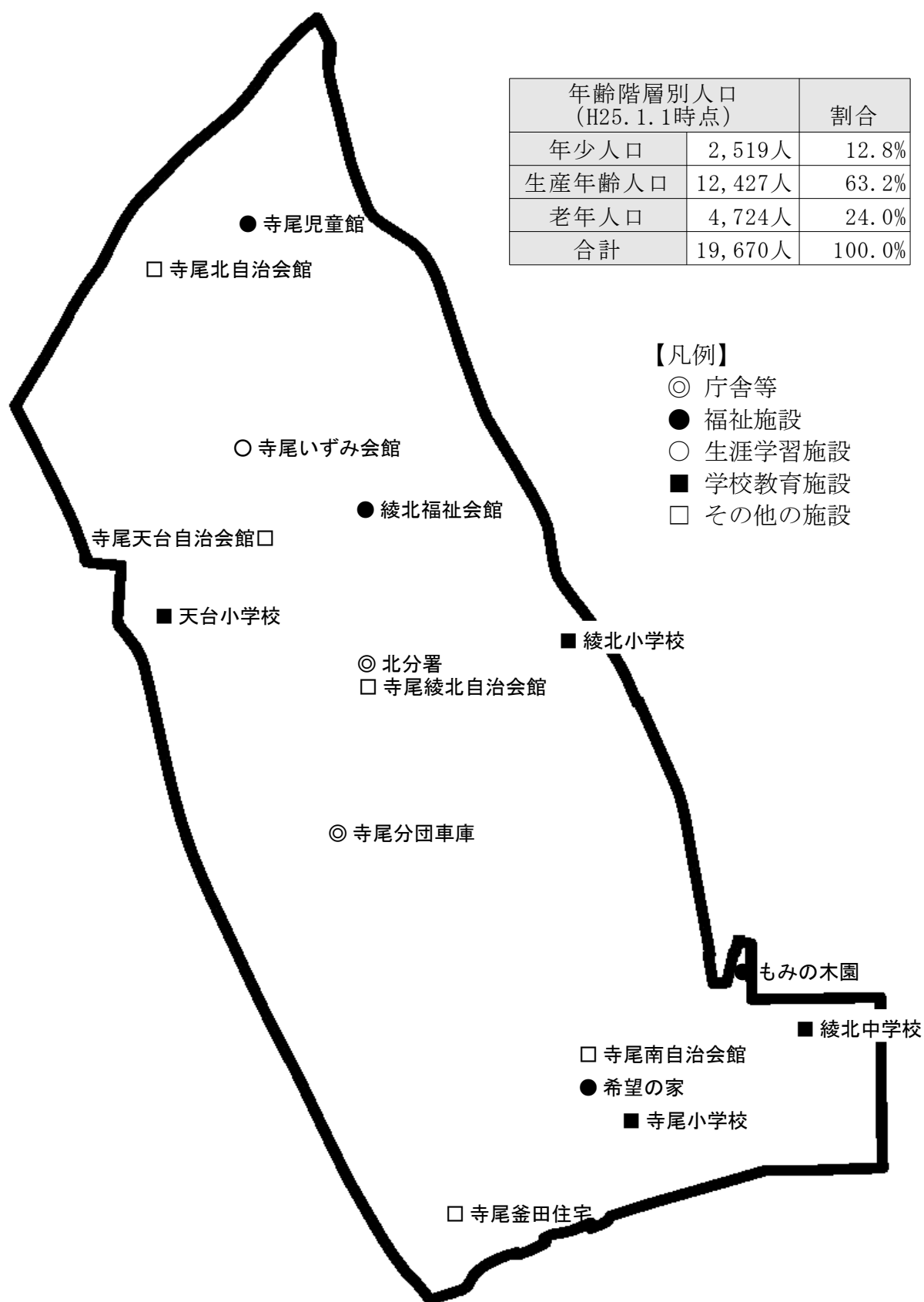
【綾北地域の主な公共施設の配置】



年齢階層別人口 (H25. 1. 1時点)		割合
年少人口	1, 621人	13. 0%
生産年齢人口	8, 196人	65. 9%
老年人口	2, 621人	21. 1%
合計	12, 438人	100. 0%

【寺尾地域の主な公共施設の配置】

年齢階層別人口 (H25.1.1時点)		割合
年少人口	2,519人	12.8%
生産年齢人口	12,427人	63.2%
老年人口	4,724人	24.0%
合計	19,670人	100.0%

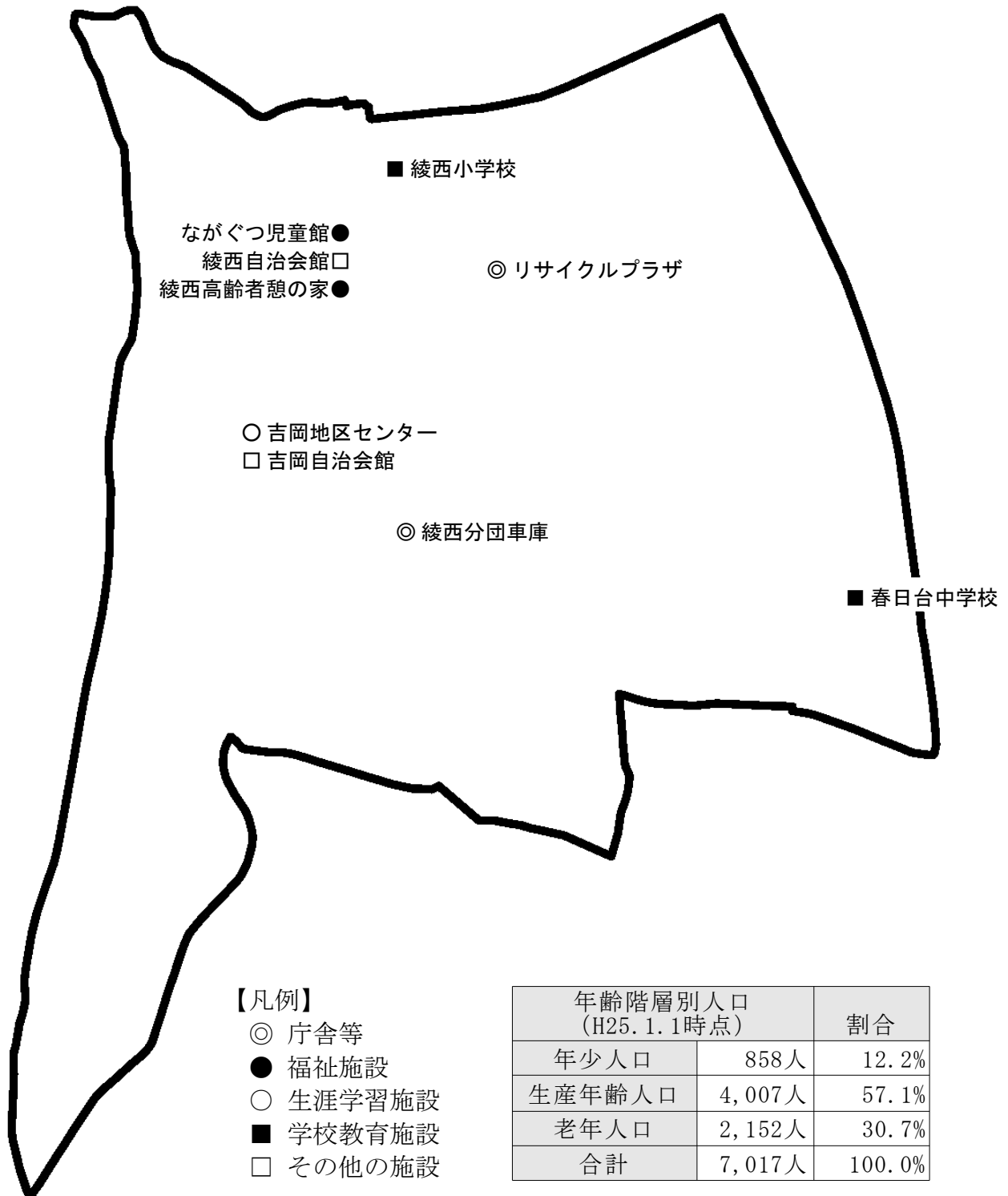


【早園地域の主な公共施設の配置】



年齢階層別人口 (H25. 1. 1時点)		割合
年少人口	2,192人	17.9%
生産年齢人口	7,607人	62.0%
老年人口	2,478人	20.2%
合計	12,277人	100.0%

【綾西地域の主な公共施設の配置】



【中央地域の主な公共施設の配置】

【凡例】

- ◎ 庁舎等
- 福祉施設
- 生涯学習施設
- 学校教育施設
- その他の施設



年齢階層別人口 (H25. 1. 1時点)		割合
年少人口	2,647人	17.4%
生産年齢人口	9,754人	64.1%
老年人口	2,824人	18.5%
合計	15,225人	100.0%

【綾南地域の主な公共施設の配置】



年齢階層別人口 (H25.1.1時点)		割合
年少人口	2,283人	12.8%
生産年齢人口	11,335人	63.7%
老年人口	4,173人	23.5%
合計	17,791人	100.0%

第 3 章

各施設の現状

第3章 各施設の現状

記載項目に関する補足説明	
建築年度	学校など複数の建物が集合している施設については、代表的な建物の建築年度を記載しています。
施設の構造	学校など複数の建物が集合している施設については、代表的な建物の構造を記載しています。 S R C : 鉄骨鉄筋コンクリート構造 R C : 鉄筋コンクリート構造 S : 鉄骨構造
延床面積	学校など複数の建物が集合している施設については、それぞれの建物の延床面積の合計を記載しています。
敷地面積	グラウンド等を含んだ施設全体の敷地面積を記載しています。
管理運営費の内訳	- 施設の維持や管理に要する費用のほか、設置目的に従って施設を運営するために最低限必要となる費用について記載しています。 - 原則として、平成23年度の実績を記載しています。
指定管理料	指定管理者制度を導入している施設にのみ記載しています。
人件費	施設の管理運営を担当する職員（再任用や非常勤を含む）の賃金のほか、施設運営委員への報償費などについて記載しています。
運営費	- 消耗品費や光熱水費のほか、清掃の委託料など、施設の運営に使われる諸費用について記載しています。 - イベント実施などの事業費については、施設の設置目的に従って最低限必要となる費用のみ運営費に含めています。
維持補修費	維持補修工事費や原材料費、工事委託料など、建物の維持補修に使われる費用について記載しています。
借地料	建物や駐車場を設置するために、土地を借りる費用について記載しています。
建物コスト	「1年で失われる建物の価値」をコストとして記載しています。 - 建物の再調達価格（建物を再建するのに必要な額）を耐用年数で割った額とし、耐用年数を過ぎた建物は0円としています。 - 学校など複数の建物が集合している施設については、それぞれの建物の建物コストを合計して記載しています。 ※一般的な建物コスト（減価償却費）は、建物の建築当時の取得価格を耐用年数で割った額を用いますが、その場合、同じ内容の建物でも建築時期によって建物コストに差が出てしまいます。そのため、本章では再調達価格から建物コストを算定しています。 ※取得価格に基づく建物コストは、巻末資料に記載しています。

1 庁舎等

(1) 市役所（本庁舎・議会棟）

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
平成8年度	S R C 地上7・地下1階建	22,621㎡	29,530㎡

【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
32,376.7 万円	2,398.9 万円	17,353.0 万円	96.9 万円	3,253.5 万円	9,274.4 万円

【市役所の現状】

- ・市役所は、消防施設やリサイクルプラザなどの出先機関を除いた全ての機関が集中し、本市の行政機能の中枢を担う施設です。
- ・本市で最も大きな公共施設であり、延床面積は22,621㎡、建物コストだけでも毎年9千万円以上になります。
- ・施設の清掃や警備なども含め、管理運営には多額の費用が必要となり、平成23年度には3億2千万円以上かかっています。
- ・平成8年度に建築されており、本市の中では比較的新しい施設になりますが、いずれ訪れる大規模改修の際には50億円以上、建替えの際には90億円以上の費用が必要になると見込まれます。

（２）消防施設

消防庁舎

【施設の概要】

庁舎名	建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積	建物コスト
本部庁舎	昭和 53 年度	R C 地上 2 ・ 地下 1 階建	2,737㎡	7,084㎡	1,356.0 万円
北分署	平成 2 年度	R C 2 階建	720㎡	1,722㎡	571.4 万円
南分署	平成 8 年度	R C 2 階建	813㎡	2,440㎡	682.9 万円

【管理運営費の内訳】※ 3 施設の合計

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
7,801.8 万円	2,992.5 万円	1,649.7 万円	116.1 万円	433.2 万円	2,610.3 万円

分団車庫

【施設の概要】

車庫名	建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積	建物コスト
中央分団車庫	平成 4 年度	R C 2 階建	131㎡	375㎡	96.1 万円
綾北分団車庫	平成 5 年度	R C 2 階建	131㎡	206㎡	91.5 万円
寺尾分団車庫	昭和 63 年度	R C 2 階建	110㎡	180㎡	62.1 万円
早園分団車庫	平成 2 年度	R C 2 階建	120㎡	303㎡	70.8 万円
綾西分団車庫	平成 8 年度	R C 2 階建	131㎡	583㎡	109.6 万円
綾南分団車庫	平成 3 年度	R C 2 階建	131㎡	280㎡	79.7 万円

【管理運営費の内訳】※6 施設の合計

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
3,965.6 万円	2,992.5 万円	94.4 万円	307.4 万円	61.5 万円	509.8 万円

【消防施設の現状】

- ・消防施設は、市民の生命や財産を火災や地震等の災害から守るほか、傷病者の適切な搬送を目的として設置された施設です。
- ・本部庁舎（消防署）と2つの分署のほか、消防団の活動拠点となる6つの分団車庫が設置されています。
- ・消防施設全体で、平成23年度には1億2千万円近くの管理運営費がかかっています。これは、施設を維持するのに最低限必要な費用の額であり、消防車両の維持費等は含まれていません。
- ・本部庁舎は昭和53年度に建築されてから34年経過しており、施設の老朽化が進んでいます。
- ・本市の中心市街地を創出し、まちの活性化を図る「タウンセンター計画」において、本部庁舎が建築されている場所は「中心商業施設地区」に指定されており、消防施設の設置を続けることが問題になっています。
- ・また、本部庁舎から消防車両が出場する際は、都市計画道路寺尾上土棚線を利用します。しかし、寺尾上土棚線が片側2車線に整備され、交通量も多いために出場の支障となっており、本部庁舎の移転が検討されています。

（３）リサイクルプラザ

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
平成 11 年度	S 2 階建	2, 806㎡	5, 051㎡

【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
4, 071. 7 万円	236. 5 万円	1, 268. 1 万円	77. 0 万円	0 万円	2, 490. 1 万円

【リサイクルプラザの現状】

- ・リサイクルプラザは、廃棄物の再利用を促進し、資源の有効利用を啓発するために設置された施設です。
- ・粗大ごみの搬入受付や、修理再生した家具等の販売のほか、研修室や展示ホールなどの市民利用の管理を行っています。また、ごみ収集車の拠点にもなっています。
- ・平成11年度に建築されており、本市の中では比較的新しい施設になります。
- ・平成23年度には4千万円以上の管理運営費がかかっています。これは、施設を維持管理するのに最低限必要な費用の額であり、ごみ収集車の維持費や、ごみの焼却施設を維持するための負担金などは含まれていません。

（４）浄水管理センター

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 59 年度	R C 地上 3 ・ 地下 2 階建	10, 338㎡	45, 334㎡

【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
56, 264. 1 万円	3, 990. 0 万円	41, 645. 6 万円	4, 585. 7 万円	518. 9 万円	5, 523. 9 万円

【浄水管理センターの現状】

- ・ 浄水管理センターは下水道施設の一部で、「終末処理場」と呼ばれます。
- ・ 本市の下水道は、東側の「東部処理区」と西側の「相模川流域関連処理区」という 2 つの処理区域に分かれています。
- ・ 浄水管理センターでは、東部処理区の汚水进行处理してきれいにし、蓼川に放流しています。また、相模川流域関連処理区の汚水は、茅ヶ崎市にある「相模川流域下水道左岸処理場」で処理されています。
- ・ 浄水管理センターの管理運営には多額の費用が必要となり、平成23年度には 5 億 6 千万円以上かかっています。
- ・ 昭和59年度の建築から28年が経過しており、設備の改修が必要になります。他の公共施設に比べ、終末処理場のような特殊な設備の改修には多額の費用が必要になると見込まれます。
- ・ 計画的な設備改修のために、「下水道長寿命化計画」の策定が進められています。

（５）保健医療センター

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 59 年度	R C 2 階建	1, 345㎡	2, 020㎡

【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
2, 404. 0 万円	199. 5 万円	931. 1 万円	233. 5 万円	0 万円	1, 039. 9 万円

【保健医療センターの現状】

- ・保健医療センターは、市民の健康管理や病気の予防、健康増進のために設置された施設です。
- ・昭和59年度の建築から28年が経過しており、いずれ施設の大規模改修が必要になります。
- ・平成23年度に必要とされた管理運営費は、約 2 千 4 百万円でした。これは、施設を維持管理するのに最低限必要な費用の額であり、予防接種等の事業の実施に必要な費用は含まれていません。

2 福祉施設

(1) 保育園

綾南保育園

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
平成 14 年度	R C 2 階建	1, 250㎡	2, 628㎡

【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
23, 716. 7 万円	19, 455. 7 万円	3, 211. 0 万円	22. 8 万円	0 万円	1027. 2 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
120 人（定員）	年額 197. 7 万円/人

子育て支援センター

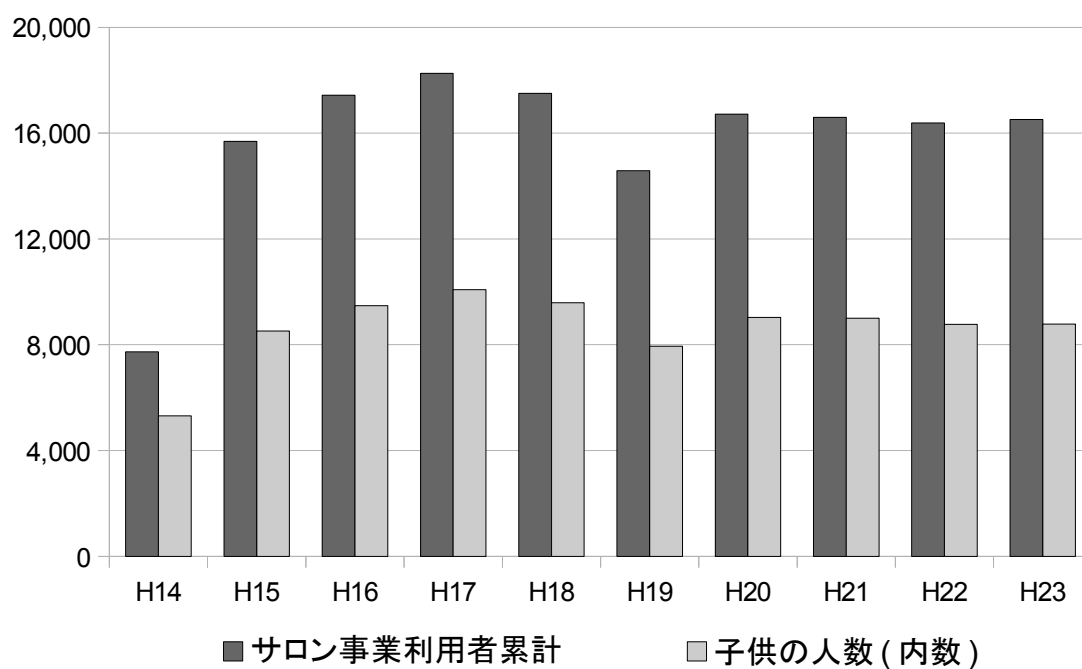
【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
2,174.4万円	2,124.9万円	49.5万円	綾南保育園 に含む	綾南保育園 に含む	綾南保育園 に含む

【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
16,518人	1,317円/人

【年間利用者の推移】



大上保育園

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
平成 23 年度	R C 2 階建	1, 229m ²	1, 854m ²

【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
17, 138. 7 万円	14, 396. 9 万円	2, 497. 6 万円	7. 6 万円	0 万円	236. 6 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
70 人（定員）	年額 244. 9 万円/人

※【施設の概要】は、建替え後の内容を記載しています。

※【管理運営費の内訳】【利用者一人当たりの管理運営費】は、建替え前の実績を記載しています。

なお、建替え後の施設の建物コストは904. 9万円、定員は110人となっています。

※平成24年度から利用を開始した子育て支援センター大上サロン室は、年間利用実績が無いいため調査対象から除いています。

【保育園の現状】

- ・保育園は、仕事などの理由で保育ができない保護者に代わり、児童を保育するために設置された施設です。また、子育て支援センターでは、育児不安などの相談・助言など、子育て家庭への育児支援を行っています。
- ・保育を行う保育士等の人件費を含めて、平成23年度には1億7千万円以上の管理運営費がかかっています。
- ・綾南保育園は平成14年度、大上保育園は平成23年度に建替えを行っています。
- ・平成24年度から、子育て支援センターは市の北部（大上保育園）と南部（綾南保育園）で利用可能になり、更に市の中央部への設置が求められています。
- ・核家族化の進展などにより子育て環境は変化しており、子育てに関する相談や事業を通じた、子育て支援策の一層の充実が求められています。

(2) 児童館 ながぐつ児童館

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
平成5年度	R C 2階建	327㎡	1,060㎡

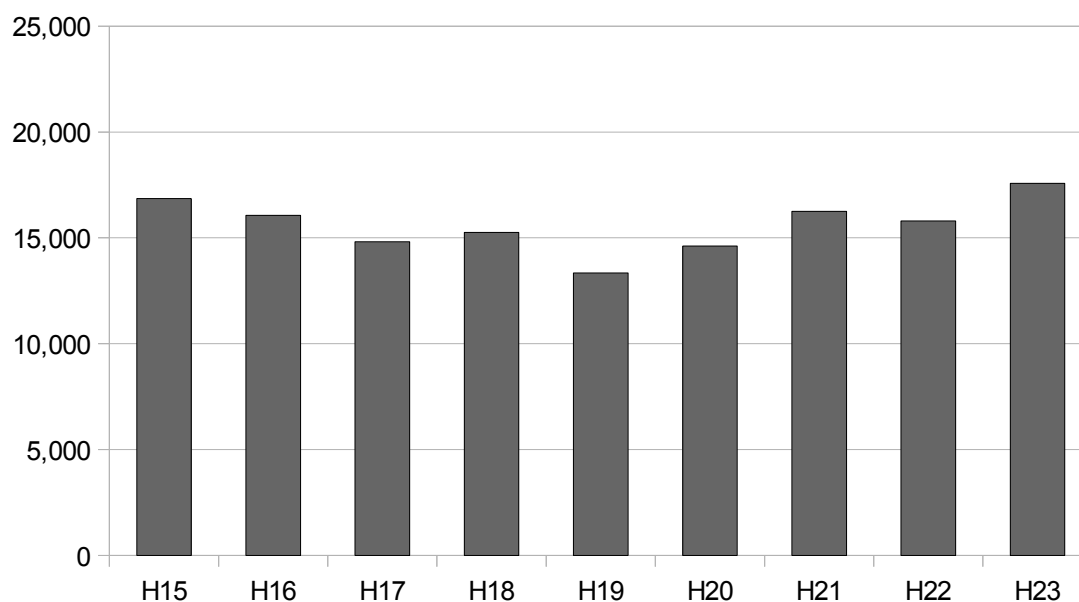
【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
1,159.1万円	636.0万円	103.1万円	97.5万円	0万円	322.5万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
17,572人	660円/人

【年間利用者の推移】



寺尾児童館

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 50 年度	S 2 階建	305m ²	1,633m ²

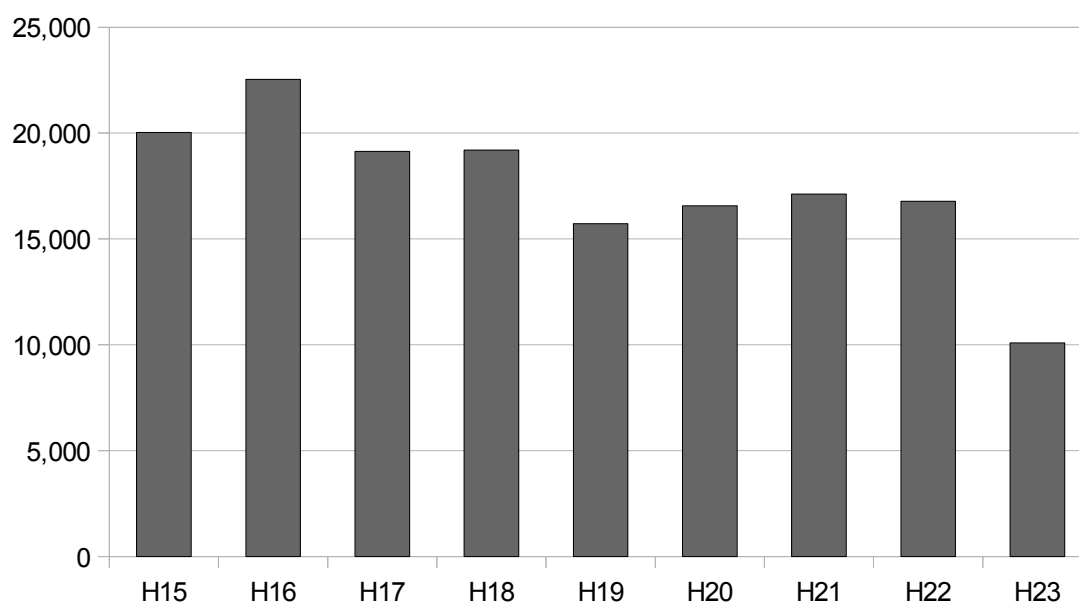
【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
910.4 万円	636.0 万円	125.9 万円	46.2 万円	0 万円	102.3 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
10,090 人	903 円/人

【年間利用者の推移】



小園児童館

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 52 年度	S 2 階建	289m ²	733m ²

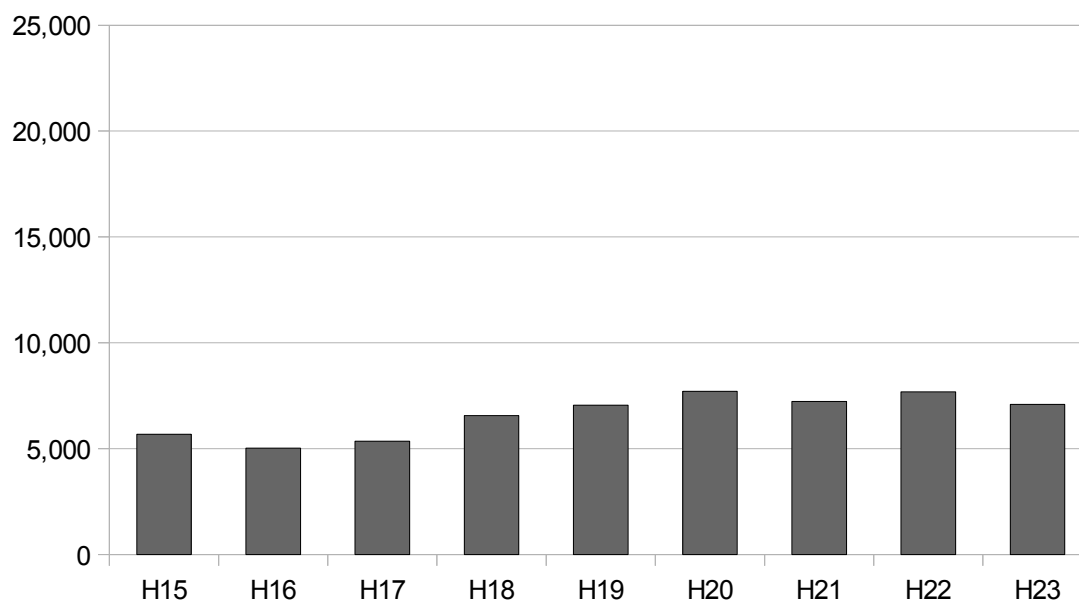
【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
1,033.8 万円	636.0 万円	97.6 万円	204.5 万円	0 万円	95.7 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
7,086 人	1,459 円/人

【年間利用者の推移】



【児童館の現状】

- ・ 児童館は、子供達が遊びを通じて健康を増進し、情操豊かに育つことを目的とした施設です。
- ・ 市内には3つの児童館があります。そのうち寺尾児童館と小園児童館は昭和50年代に建築されており、寺尾児童館は平成11年度に、小園児童館は平成13年度に大規模改修を行っています。
- ・ 3つの児童館の規模には大きな違いはありません。しかし、ながぐつ児童館や寺尾児童館に比べて小園児童館の年間利用者数は少なく、その結果、利用者一人当たりのコストも割高になっています。

（３）高齢者福祉会館

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 54 年度	R C 2 階建	1, 055㎡	17, 287㎡ (文化センター全体)

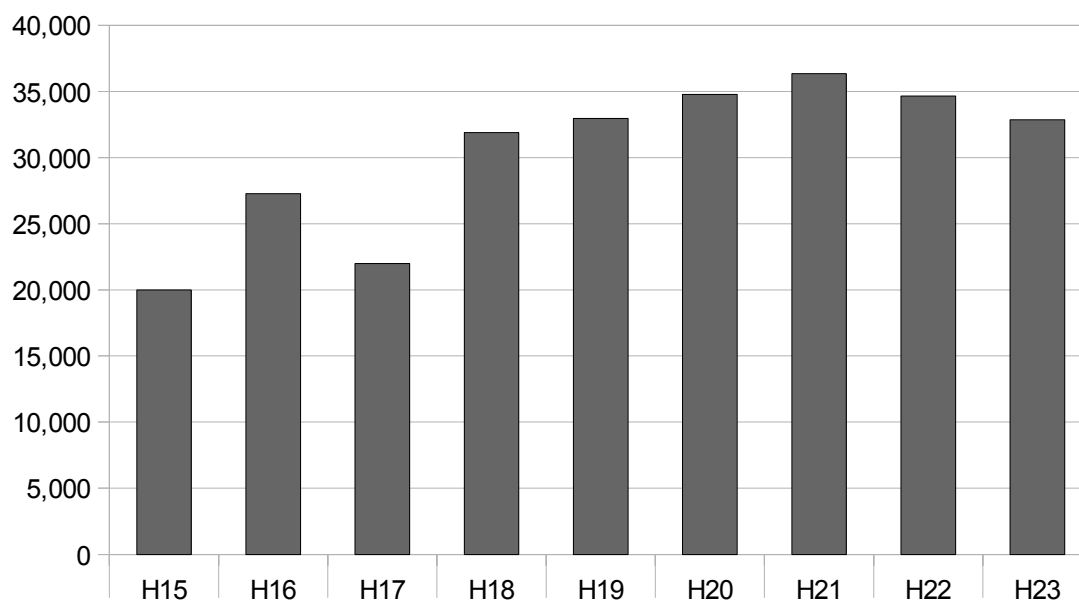
【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
1, 966. 8 万円	336. 1 万円	688. 2 万円	91. 1 万円	0 万円	851. 4 万円

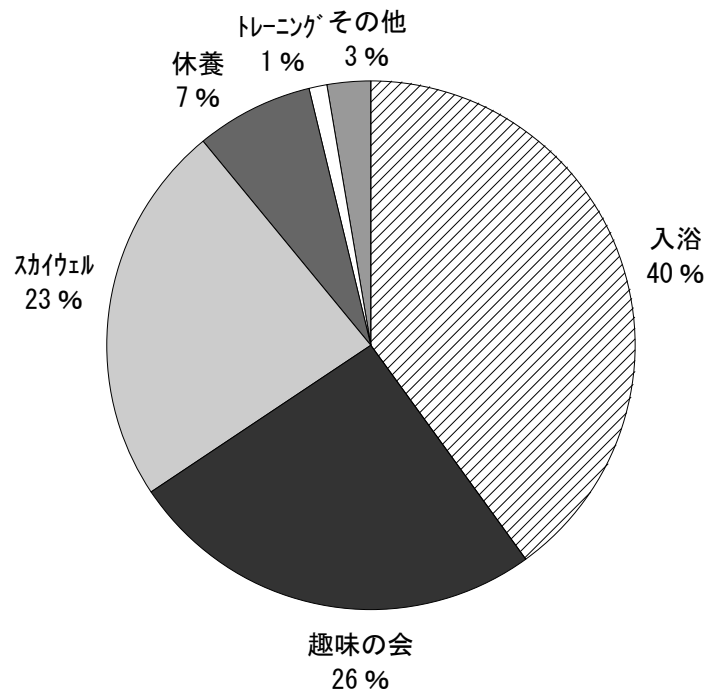
【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
32, 847 人	599 円/人

【年間利用者の推移】



【利用目的別の割合】



【高齢者福社会館の現状】

- ・ 高齢者福社会館は、60歳以上の方の健康の増進、教養の向上、レクリエーションを目的として設置された施設で、浴室や健康器具を利用することができます。
- ・ 昭和54年度に建築されてから33年が経過しており、施設の老朽化が進んでいます。
- ・ 年間3万人を超える利用者がいます。利用目的としては、入浴が最も多く40%を占めており、次いで趣味の会が26%、スカイウェル（血流を良くする健康器具）の利用が23%となっています。
- ・ 今後、高齢化の進展に伴い、利用者の増加が予想されます。

（４）綾西高齢者憩の家

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
平成 11 年度	S 1 階建	158㎡	785㎡

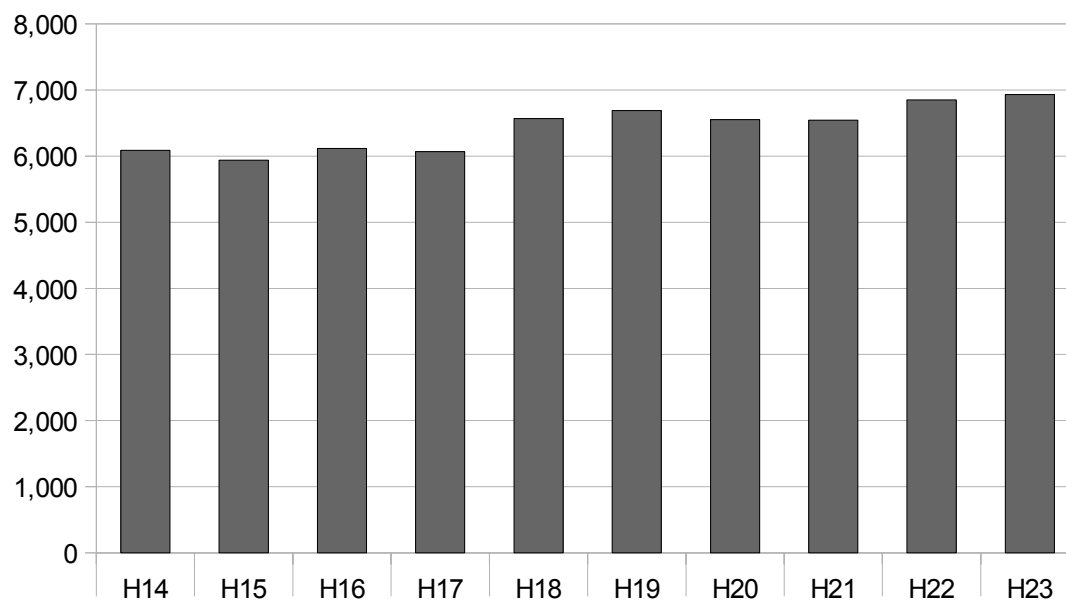
【管理運営費の内訳】

総額	指定管理料	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
317.9 万円	174.8 万円	0 万円	0 万円	0 万円	0 万円	143.1 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
6,930 人	459 円/人

【年間利用者の推移】



【綾西高齢者憩の家の現状】

- ・ 高齢者憩の家は、教養の向上やレクリエーション等の場を高齢者に提供することで、心身の健康の増進を図ることを目的とした施設です。
- ・ 市内には、23の憩の家があります。その多くは、地域の運営委員会が自治会館や集会所で運営している地域高齢者憩の家で、高齢者憩の家の専用施設として設置されている公共施設は、綾西高齢者憩の家だけです。
- ・ 過去には「(仮称)深谷大上高齢者憩の家」の設置計画がありましたが、高齢者の利用に限定しない施設にして欲しいという地元要望などを受け、地域のふれあいの拠点として幅広く使用できる「深谷大上ふれあいの家」に変更されました。
- ・ 現在、「高齢者憩の家」と「ふれあいの家」が市内に混在している状態です。今後の高齢者人口の増加を踏まえ、施設の在り方を整理する必要があります。
- ・ また、綾西高齢者憩の家は綾西自治会館やながぐつ児童館と隣接しています。施設の大規模改修や建替えにあたっては、統合や多目的化を視野に入れた、公共施設の効率的な運営方法を検討する必要があります。

（５）障害者自立支援センター ばらの里

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 63 年度	S 1 階建	322㎡	914㎡

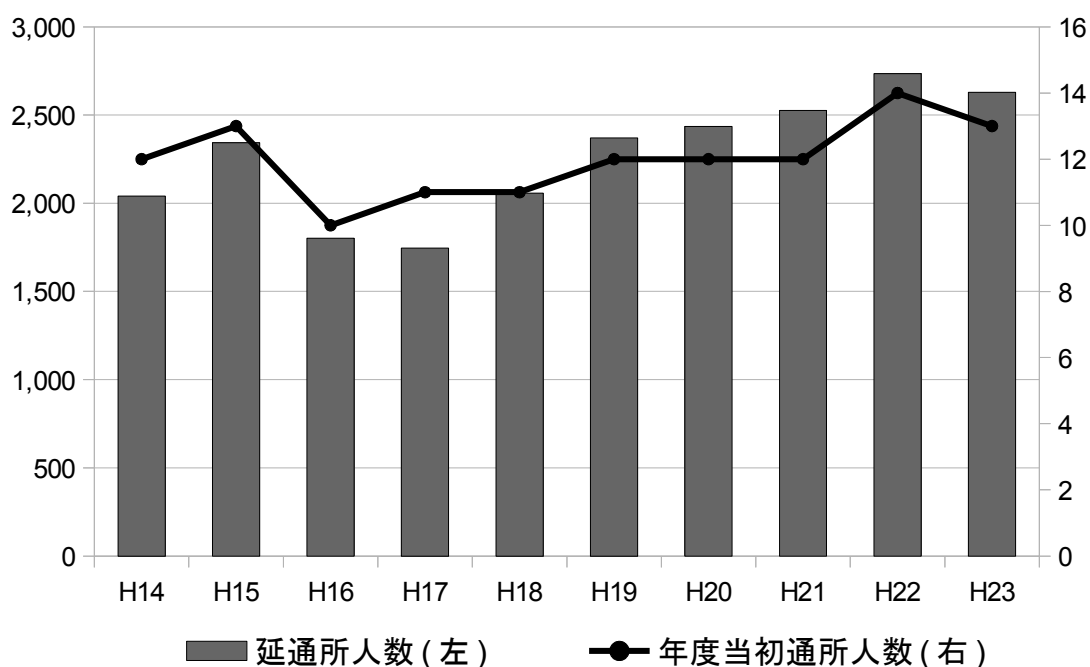
【管理運営費の内訳】

総額	指定管理料	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
4,051.0 万円	2,420.1 万円	0 万円	4.6 万円	1,413.4 万円	0 万円	212.9 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
2,629 人 (当初通所者 13 人)	15,409 円/人 (年額 311.7 万円/人)

【年間利用者の推移】



希望の家

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
平成 20 年度	S 1 階建	230m ²	660m ²

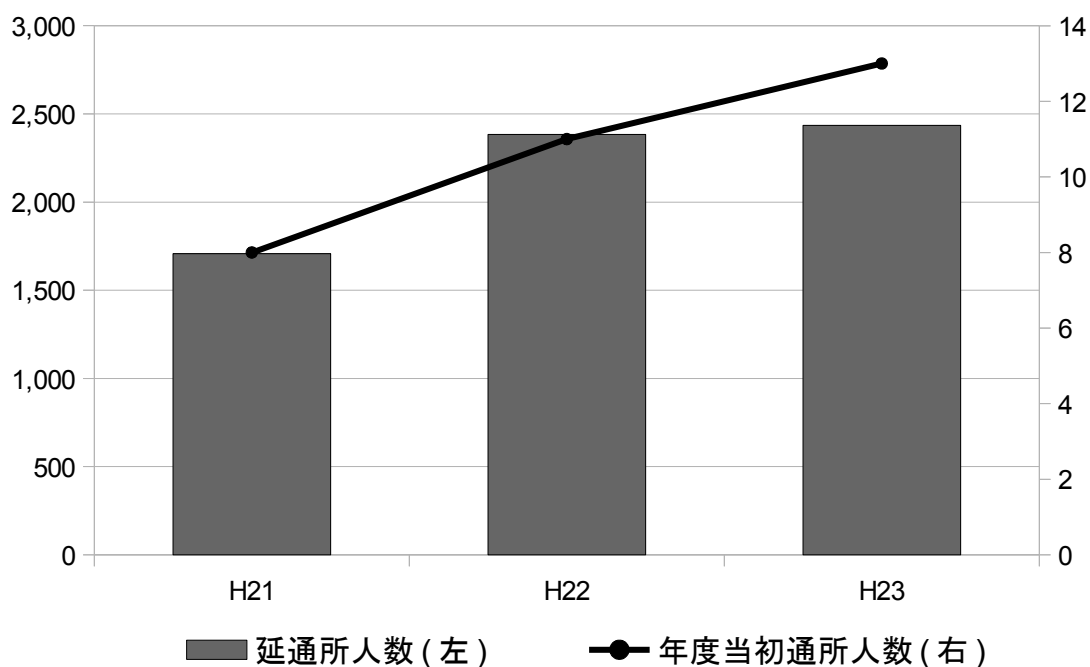
【管理運営費の内訳】

総額	指定管理料	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
1,700.9 万円	1,517.0 万円	0 万円	2.7 万円	3.2 万円	0 万円	178.0 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
2,435 人 (当初通所者 13 人)	6,986 円/人 (年額 130.9 万円/人)

【年間利用者の推移】



【障害者自立支援センターの現状】

- ・ 障害者自立支援センターは、障害者が自立した日常生活や社会生活を送れるように支援するための施設です。
- ・ 市内には2施設あり、指定管理者制度が導入されています。
- ・ 平成23年度に両施設にかかった管理運営費は約5千7百万円になります。施設の利用者が限定されているため、利用者一人当たりに換算すると極めて高額になります。

(6) もみの木園

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 54 年度	R C 1 階建	501m ²	4,184m ²

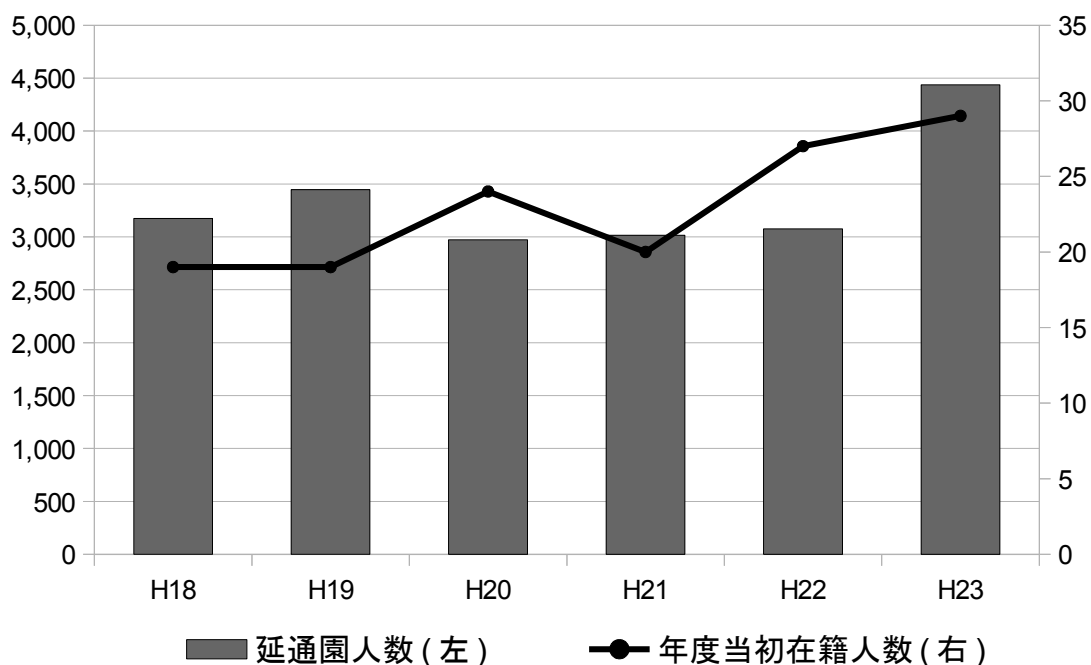
【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
9,762.2 万円	8,706.5 万円	600.9 万円	57.2 万円	154.3 万円	243.3 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
4,436 人 (当初在籍者 29 人)	22,007 円/人 (年額 336.7 万円/人)

【年間利用者の推移】



【もみの木園の現状】

- ・ もみの木園は、障害児の在宅生活の支援と生活の質の向上を目的とした施設です。
- ・ 昭和54年度に建築されてから33年が経過し、施設の老朽化が進んでいます。
- ・ 近年の利用者は増加傾向にあり、平成23年度の利用者数は4千人を超えました。
- ・ 平成23年度にかかった管理運営費は、もみの木園で働く保育士等の人件費を含めると9千7百万円以上になります。施設の利用者が限定されているため、利用者一人当たりに換算すると極めて高額になります。

（７）ふれあいの家

深谷大上ふれあいの家

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
平成 21 年度	木造 1 階建	63㎡	241㎡

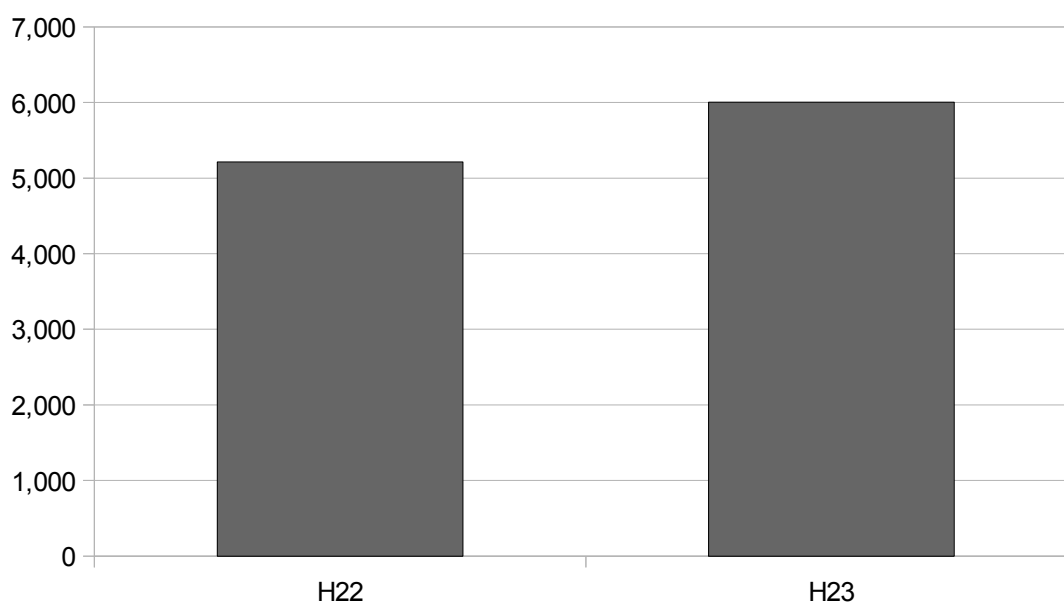
【管理運営費の内訳】

総額	指定管理料	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
98.9 万円	30.0 万円	0 万円	0 万円	0 万円	0 万円	68.9 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
6,006 人	165 円/人

【年間利用者の推移】



【深谷大上ふれあいの家の現状】

- ・ふれあいの家は、住み良い地域社会の形成と地域福祉の向上を目指して設置された施設です。
- ・深谷大上ふれあいの家は、もともと（仮称）深谷大上高齢者憩の家として設置予定でした。高齢者の利用に限定しない施設にして欲しいという地元要望を受け、地域のふれあいの拠点として幅広く使用できる施設に変更されました。憩の家は、施設の中で日時を定めて運営されています。
- ・延床面積で63㎡の小規模な施設ですが、指定管理者である大上地区社会福祉協議会の積極的な自主事業の実施により、年間約6千人の利用があります。
- ・現在、「高齢者憩の家」と「ふれあいの家」が市内に混在している状態です。今後の高齢者人口の増加を踏まえ、施設の在り方を整理する必要があります。

※平成24年度から利用を開始した落合ふれあいの家は、年間利用実績がないため調査対象から除いています。

（８）福祉会館

福祉会館

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 42 年度	R C 2 階建	826㎡	2,423㎡

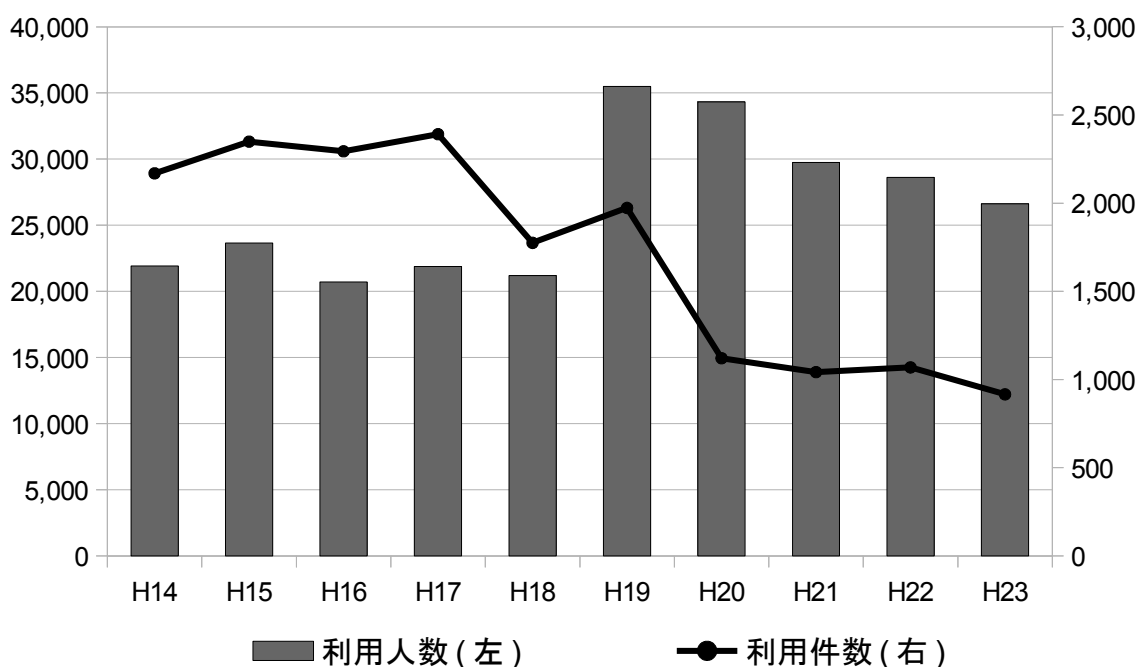
【管理運営費の内訳】

総額	指定管理料	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
876.1 万円	500.0 万円	0 万円	0 万円	0 万円	0 万円	376.1 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

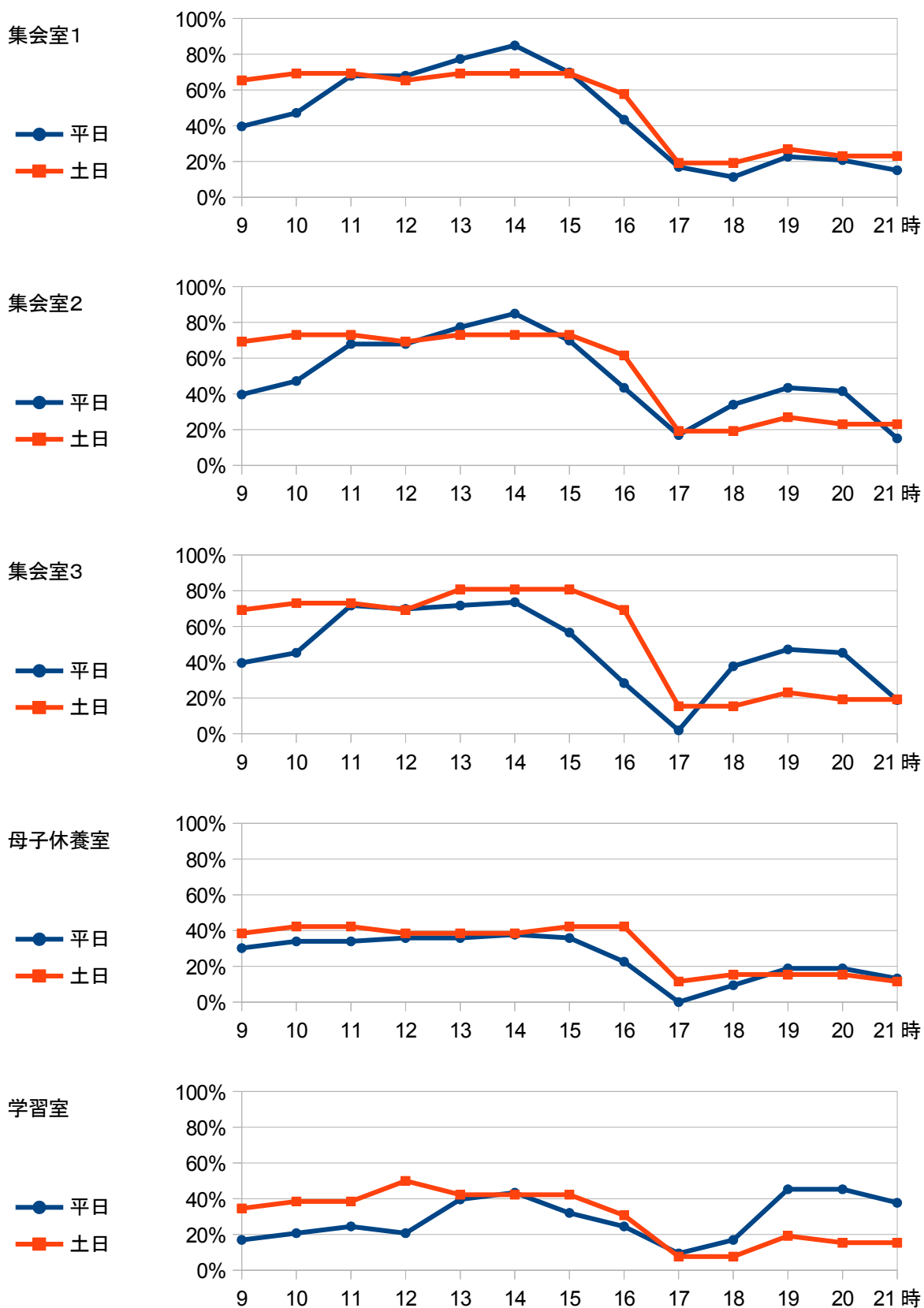
年間利用者数	一人当たりの管理運営費
26,621 人	330 円/人

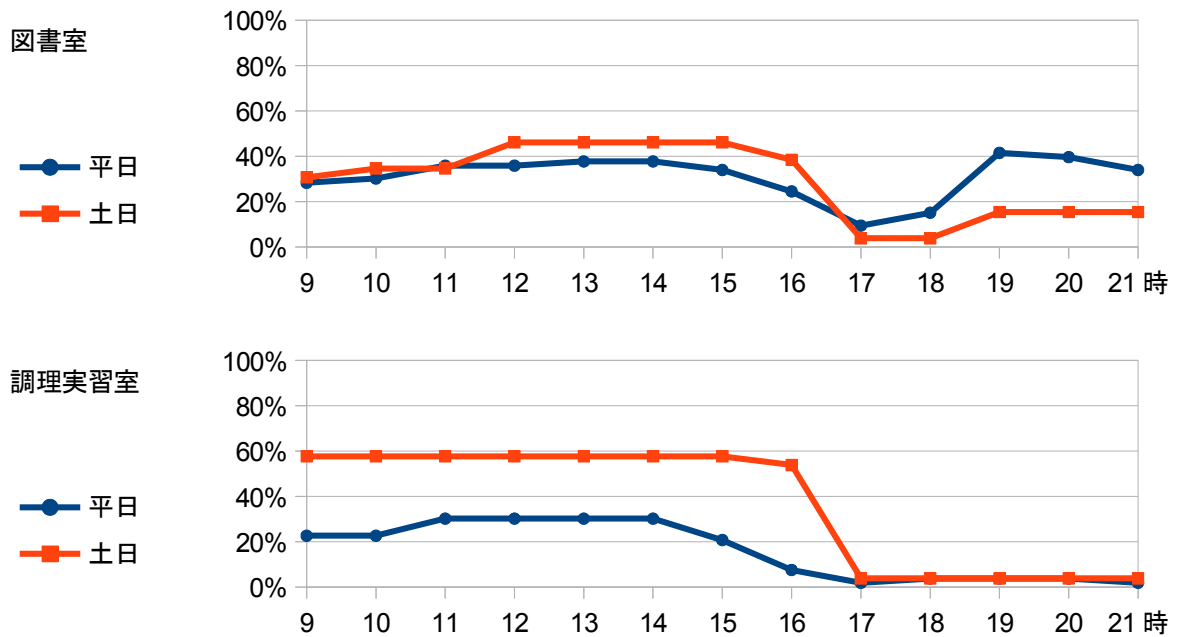
【年間利用者の推移】



【1日の利用率の変化】

※グラフの横軸は利用開始時間を表している。（例：9時の軸⇒9～10時の利用率）





【福社会館の現状】

- ・福社会館は、各種団体の連絡や住民の福祉増進のために設置された施設です。
- ・各部屋の利用状況を見ると、3つある集会室の利用率は70%程度である一方、他の部屋の利用率は総じて低く、おおむね40%以下となっています。
- ・土日の日中に一定の調理実習室の利用がありますが、集会室などと併せて利用している団体がほとんどで、給湯室として利用していると思われます。
- ・昭和42年度に建築されてから45年が経過したため施設の老朽化が著しく、様々な機能を集約した「総合福社会館複合施設」への建替え計画が進められています。
- ・各部屋の大きさは次のとおりです。

	面積
集会室 1	58.42m ²
集会室 2	58.42m ²
集会室 3	58.42m ²
母子休憩室	33.75m ²
学習室	34.86m ²
図書室	34.86m ²
調理実習室	40.86m ²

綾北福社会館

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 45 年度	R C 2 階建	703m ²	1,346m ²

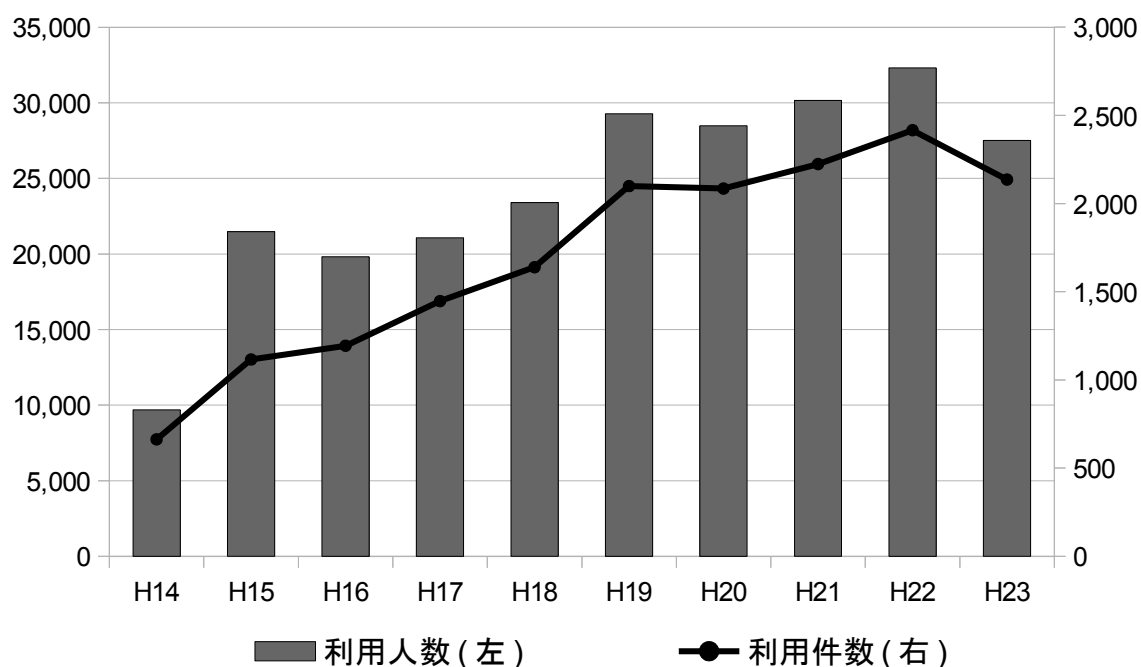
【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
1,810.3 万円	729.6 万円	202.2 万円	24.4 万円	407.1 万円	447.0 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

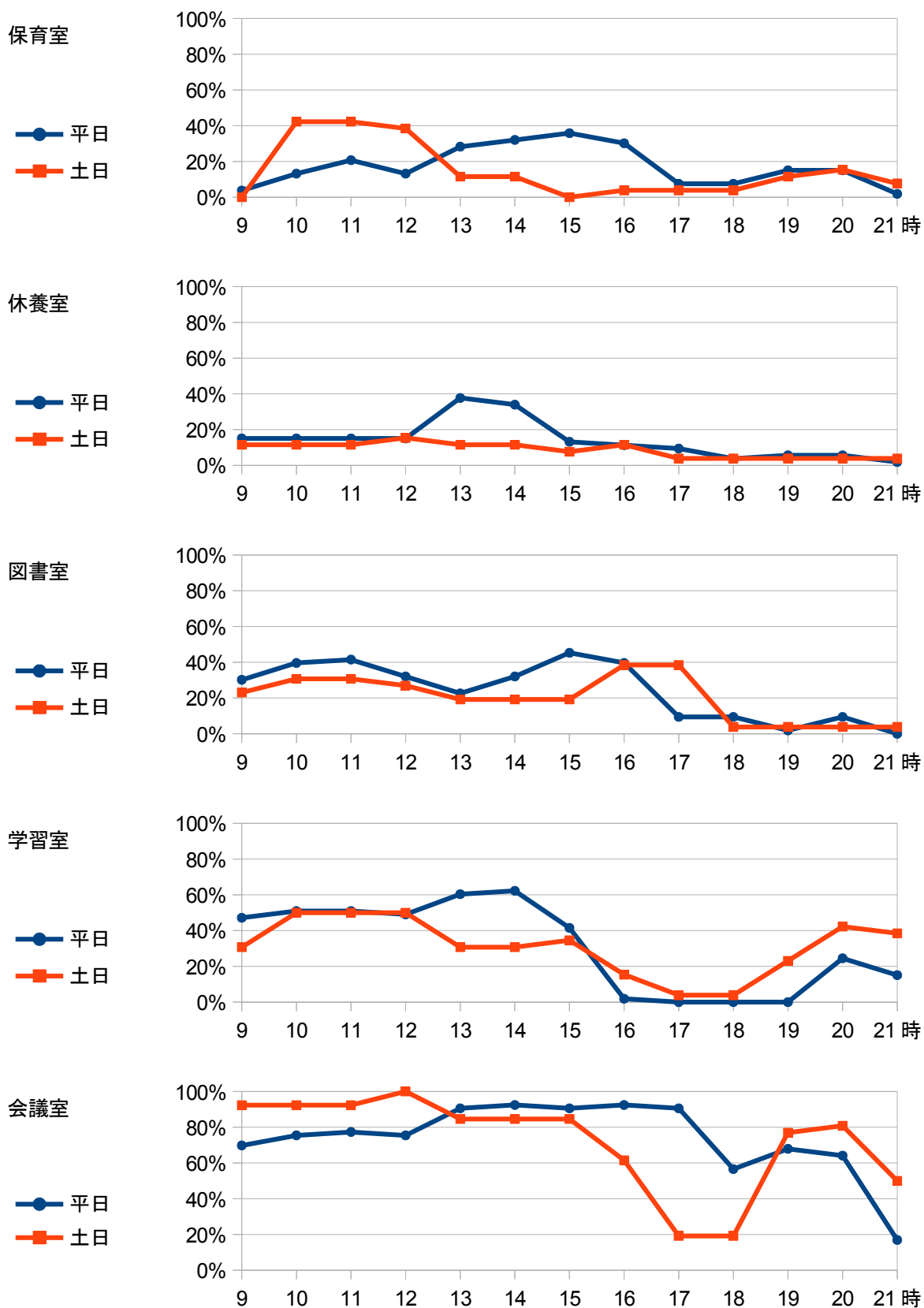
年間利用者数	一人当たりの管理運営費
27,515 人	658 円/人

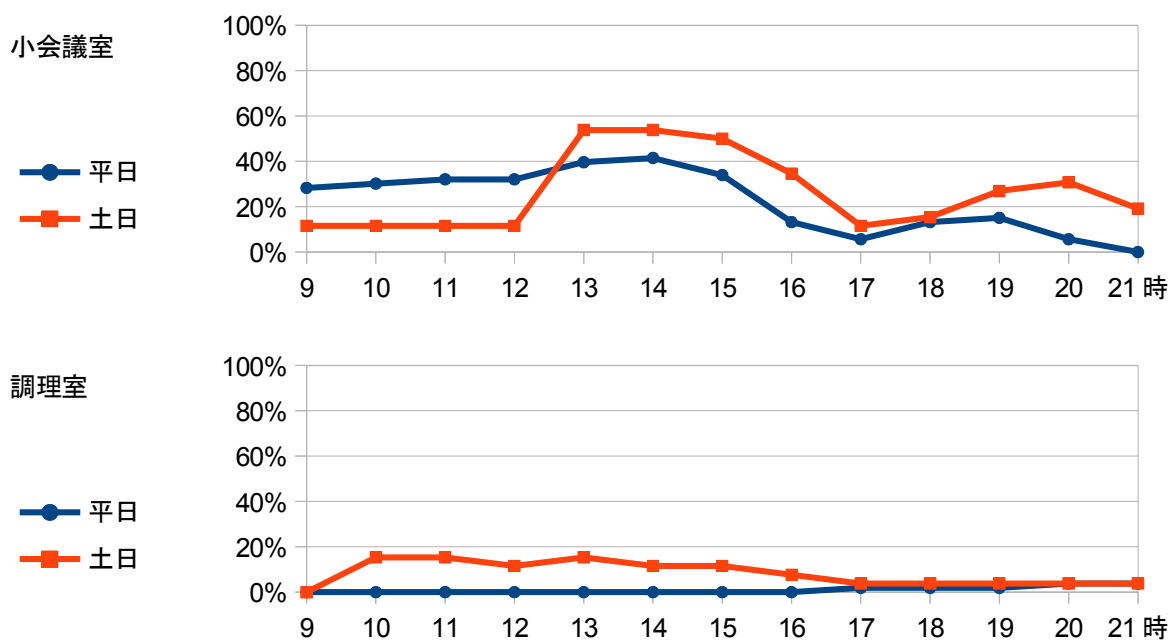
【年間利用者の推移】



【1日の利用率の変化】

※グラフの横軸は利用開始時間を表している。（例：9時の軸⇒9～10時の利用率）





【綾北福社会館の現状】

- ・綾北福社会館は、各種団体の連絡や住民の福祉増進のために設置された施設です。
- ・各部屋の利用状況を見ると、会議室を除き、利用率の高い部屋がありません。
- ・特に17時以降の利用率が低く、会議室のほかには学習室や小会議室が若干利用されているだけで、他の部屋はほとんど利用されていません。
- ・施設全体の在り方を見直し、より需要のある機能への転用を考える必要があります。
- ・近隣には寺尾いずみ会館が設置されています。施設の大規模改修や建替えにあたっては、統合を視野に入れた効率的な運営方法を検討する必要があります。
- ・各部屋の大きさは次のとおりです。

	面積
保育室	36.16m ²
休養室	36.16m ²
図書室	37.39m ²
学習室	36.16m ²
会議室	169.82m ²
小会議室	71.42m ²
調理室	18.08m ²

3 生涯学習施設

(1) 公民館

中央公民館

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 54 年度	R C 地上 4 ・ 地下 1 階建	1, 895m ²	17, 287m ² (文化センター全体)

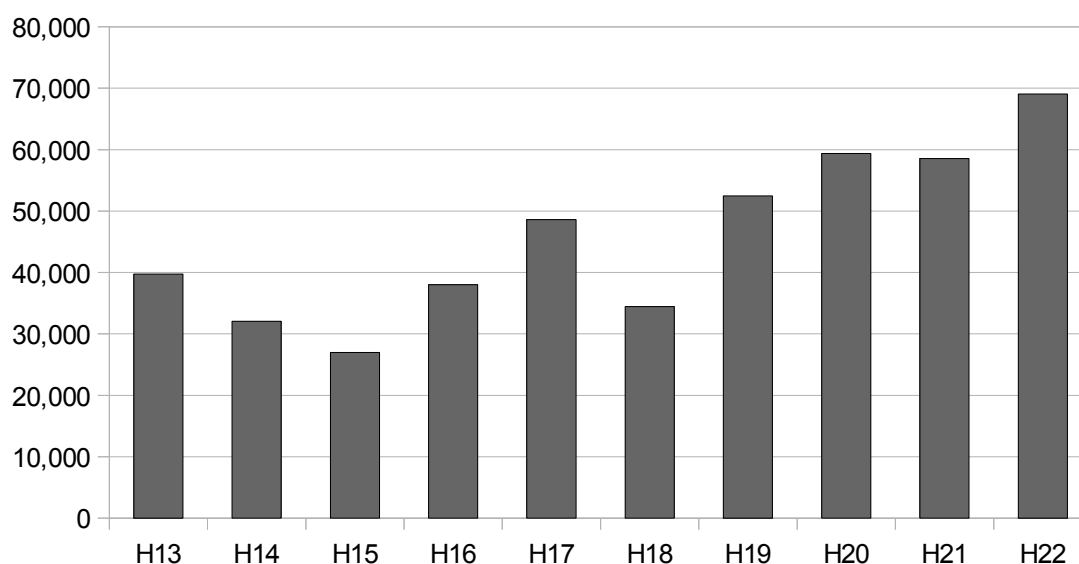
【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
4, 693. 4 万円	1, 981. 0 万円	1, 340. 9 万円	140. 3 万円	0 万円	1, 231. 2 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

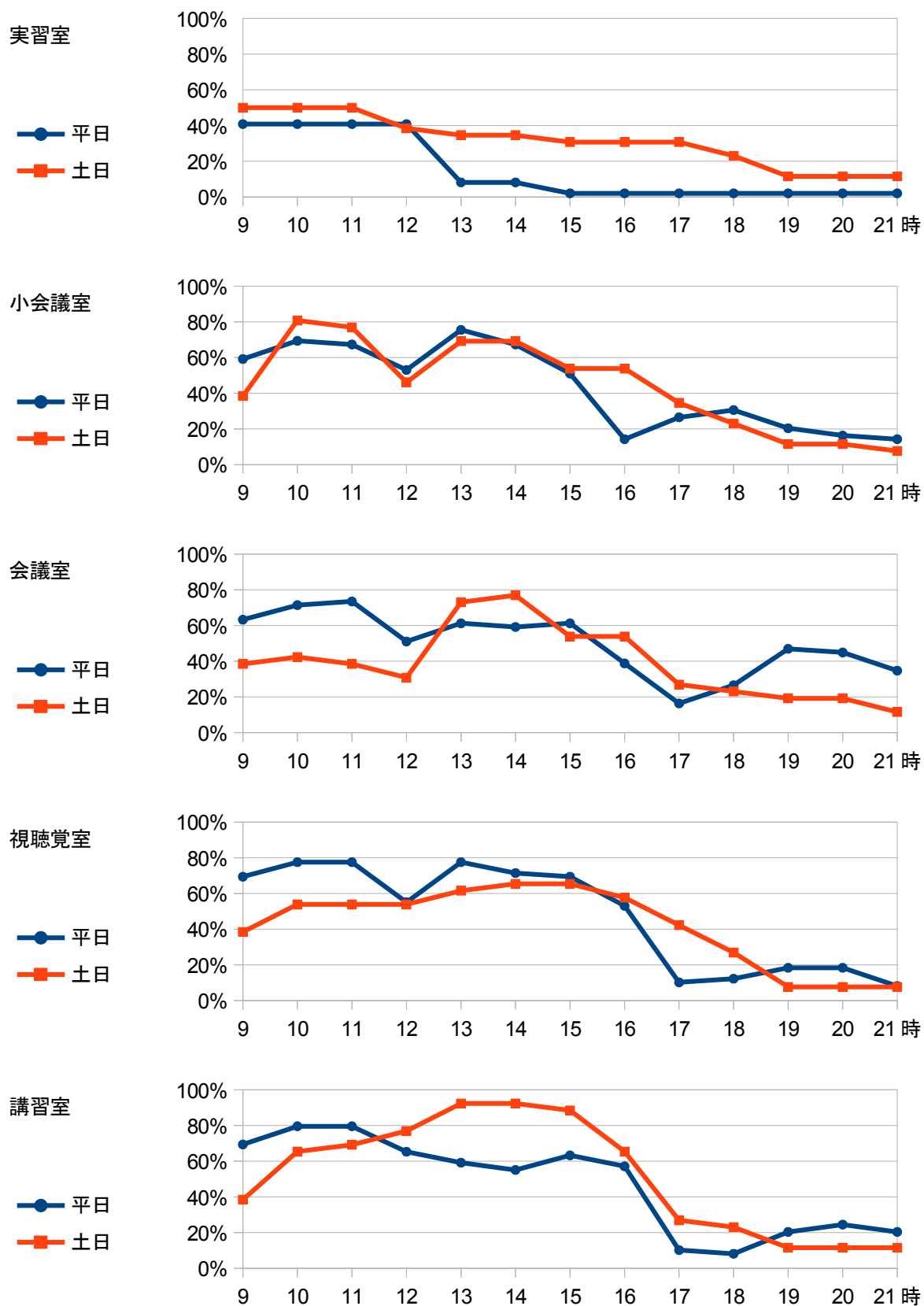
年間利用者数	一人当たりの管理運営費
69, 064 人	680 円/人

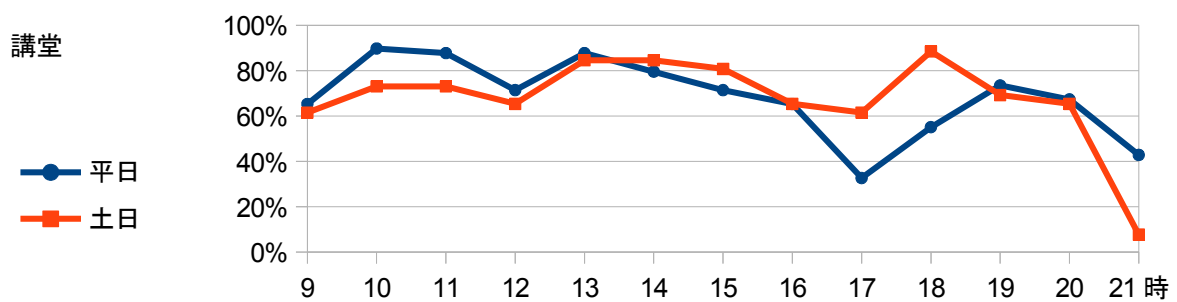
【年間利用者の推移】



【1日の利用率の変化】

※グラフの横軸は利用開始時間を表している。（例：9時の軸⇒9～10時の利用率）





【中央公民館の現状】

- ・中央公民館は、社会教育法に基づき設置されており、市民の教養の向上や健康の増進を目的として、教育、学術、文化に関する各種の事業を行うための施設です。
- ・昭和54年度に建築されてから33年が経過しています。
- ・年間利用者数は年度ごとに増減があるものの、全体的に見れば増加傾向にあります。
- ・延床面積は1,895㎡あり、施設が大きい分、管理運営費も年間4千7百万円近くかかりますが、年間7万人近くの市民に利用されているため、利用者1人当たりのコストは680円となっています。
- ・どの部屋の利用率も比較的高く、特に講堂や土日の講習室の利用は飽和しかかっています。一方、実習室の利用率は低く、利用の多い午前中でも40～50%の利用率となっています。
- ・17時以降の夜間の利用は極端に少なくなり、ほとんどの部屋が20%程度しか利用されていません。今後の有効利用を検討するにあたっては、この夜間の利用率の低さが課題になると思われます。
- ・各部屋の大きさは次のとおりです。

	面積	収容人数
実習室	56.5㎡	18人
小会議室（和室）	87.0㎡	50人
会議室	30.0㎡	14人
視聴覚室	60.6㎡	35人
講習室	84.4㎡	60人
講堂	230.0㎡	200人

中村地区センター

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
平成 3 年度	R C 2 階建	684m ²	1,767m ²

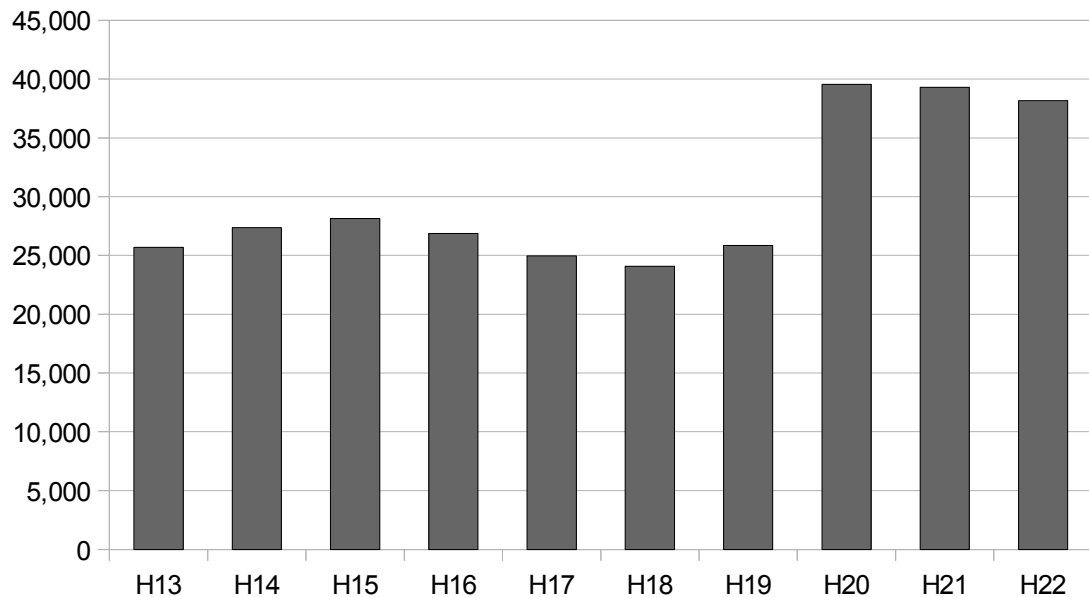
【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
1,723.2 万円	990.4 万円	195.4 万円	14.4 万円	0 万円	523.0 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

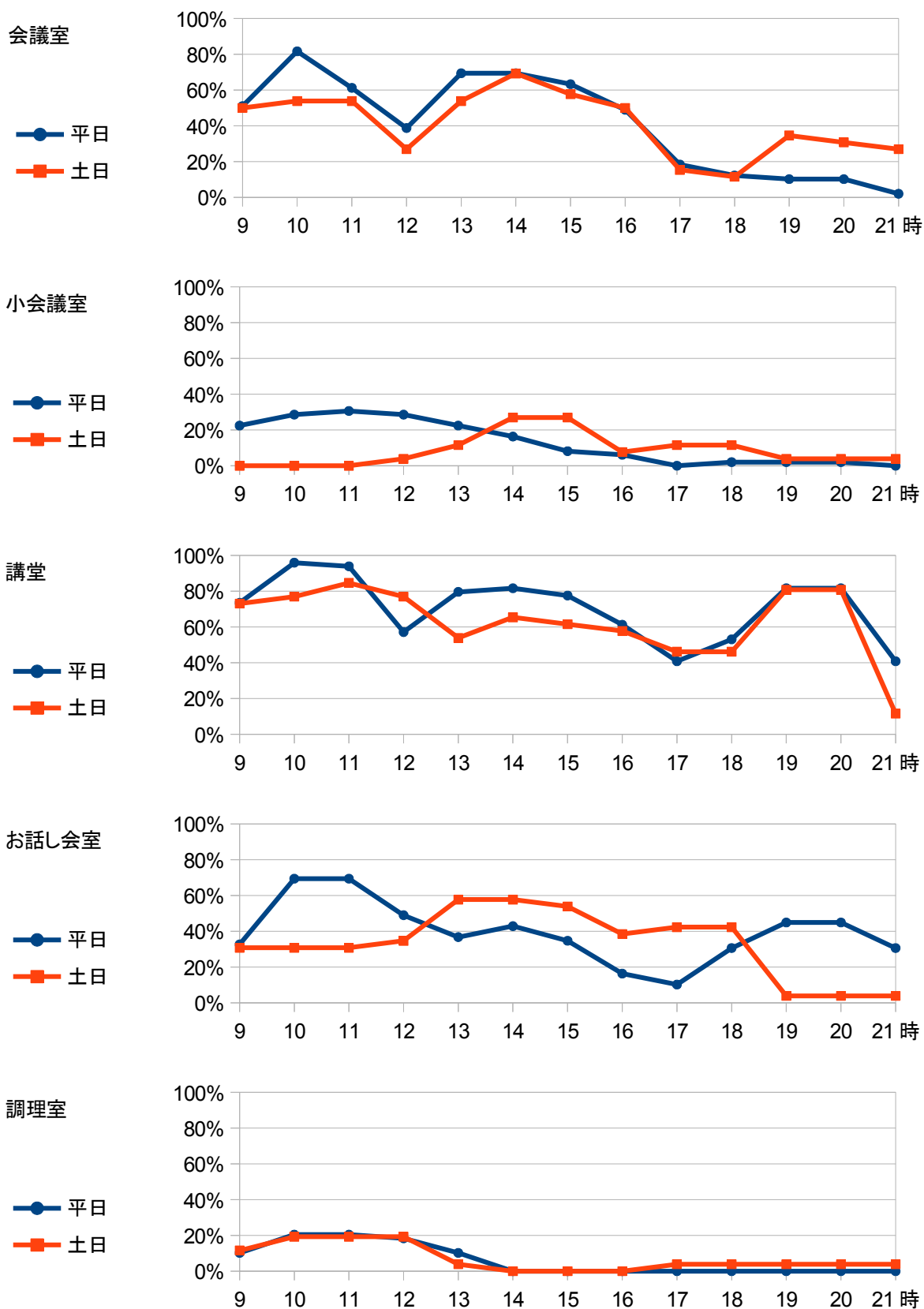
年間利用者数	一人当たりの管理運営費
38,154 人	452 円/人

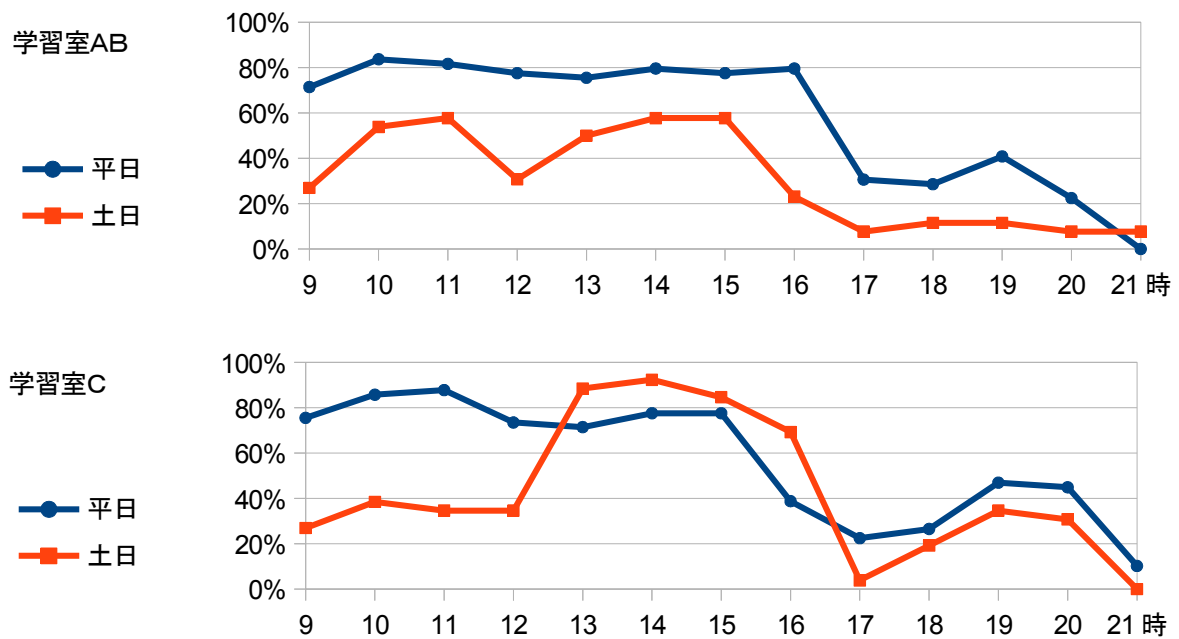
【年間利用者の推移】



【1日の利用率の変化】

※グラフの横軸は利用開始時間を表している。（例：9時の軸⇒9～10時の利用率）





【中村地区センターの現状】

- ・中村地区センターは、中央公民館の分館として設置された施設です。
- ・5つの地区センターの中では最も新しい平成3年度の建築です。規模も最も大きく、延床面積は684㎡あり、近年では年間3万8千人以上が利用しています。
- ・講堂の利用率が高く、17時以降にも利用率が80%の時間帯があります。
- ・学習室A B、学習室Cの利用率も高いですが、平日と土日で大きく差があります。また、17時以降は利用率が低下し、高くても40%程度の利用率に留まっています。
- ・小会議室や調理室は、1日を通じて利用率が低く、より需要のある機能への転用を考える必要があります。
- ・各部屋の大きさは次のとおりです。

	面積	収容人数
会議室	48.7㎡	18人
小会議室（和室）	13.7㎡	8人
講堂	79.2㎡	65人
お話し会室（和室）	32.4㎡	15人
調理室	30.8㎡	10人
学習室A B	36.9㎡	18人
学習室C	43.3㎡	20人

早園地区センター

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 41 年度	R C 1 階建	440㎡	2,695㎡

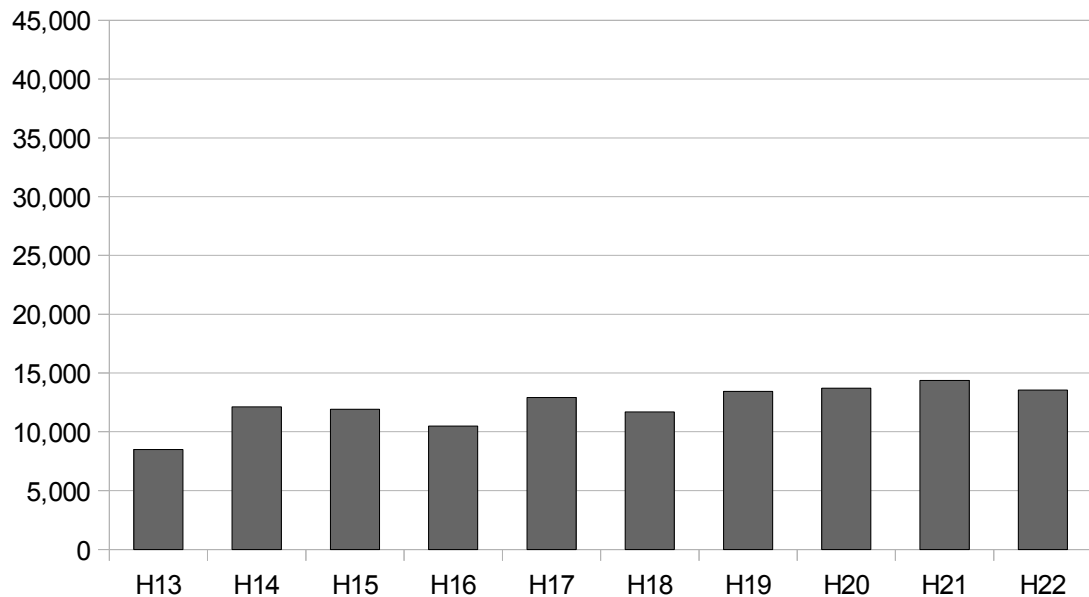
【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
1,339.2 万円	990.4 万円	150.5 万円	8.1 万円	0 万円	190.2 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

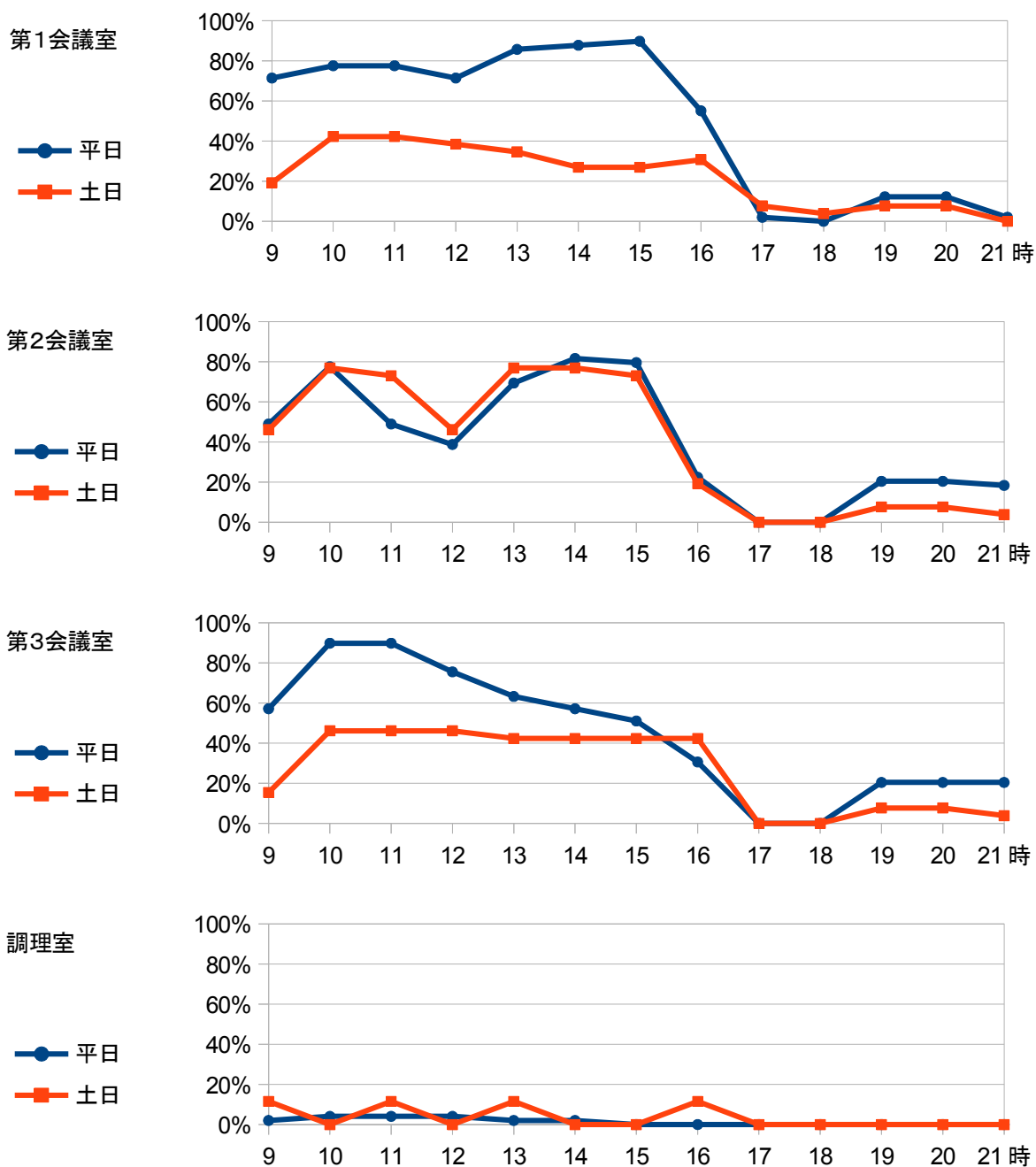
年間利用者数	一人当たりの管理運営費
13,550 人	989 円/人

【年間利用者の推移】



【1日の利用率の変化】

※グラフの横軸は利用開始時間を表している。（例：9時の軸⇒9～10時の利用率）



【早園地区センターの現状】

- ・ 早園地区センターは、中央公民館の分館として設置された施設です。
- ・ 5つの地区センターの中で最も古く、昭和41年度に建築されてから46年が経過しています。
- ・ また、5つの地区センターの中で最も利用者数が少なく、年間で1万4千人程度の利用に留まっています。
- ・ 3つある会議室は、平日の日中は利用率が80%を超える時間帯もありますが、土日や17時以降の夜間の利用は限られています。
- ・ 調理室は、1日を通じて利用率が低く、より需要のある機能への転用を考える必要があります。
- ・ 各部屋の大きさは次のとおりです。

	面積	収容人数
第1会議室	62.0m ²	50人
第2会議室	62.0m ²	50人
第3会議室	62.0m ²	50人
調理室	31.0m ²	10人

吉岡地区センター

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 42 年度	R C 1 階建	333㎡	2, 208㎡

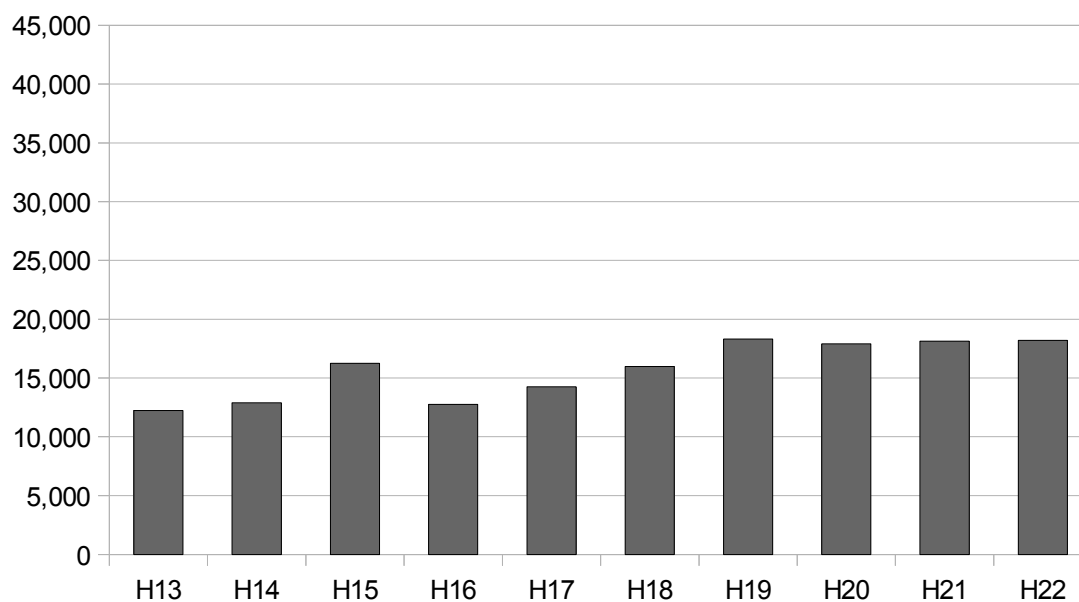
【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
1, 356. 3 万円	990. 4 万円	161. 0 万円	33. 2 万円	0 万円	171. 7 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

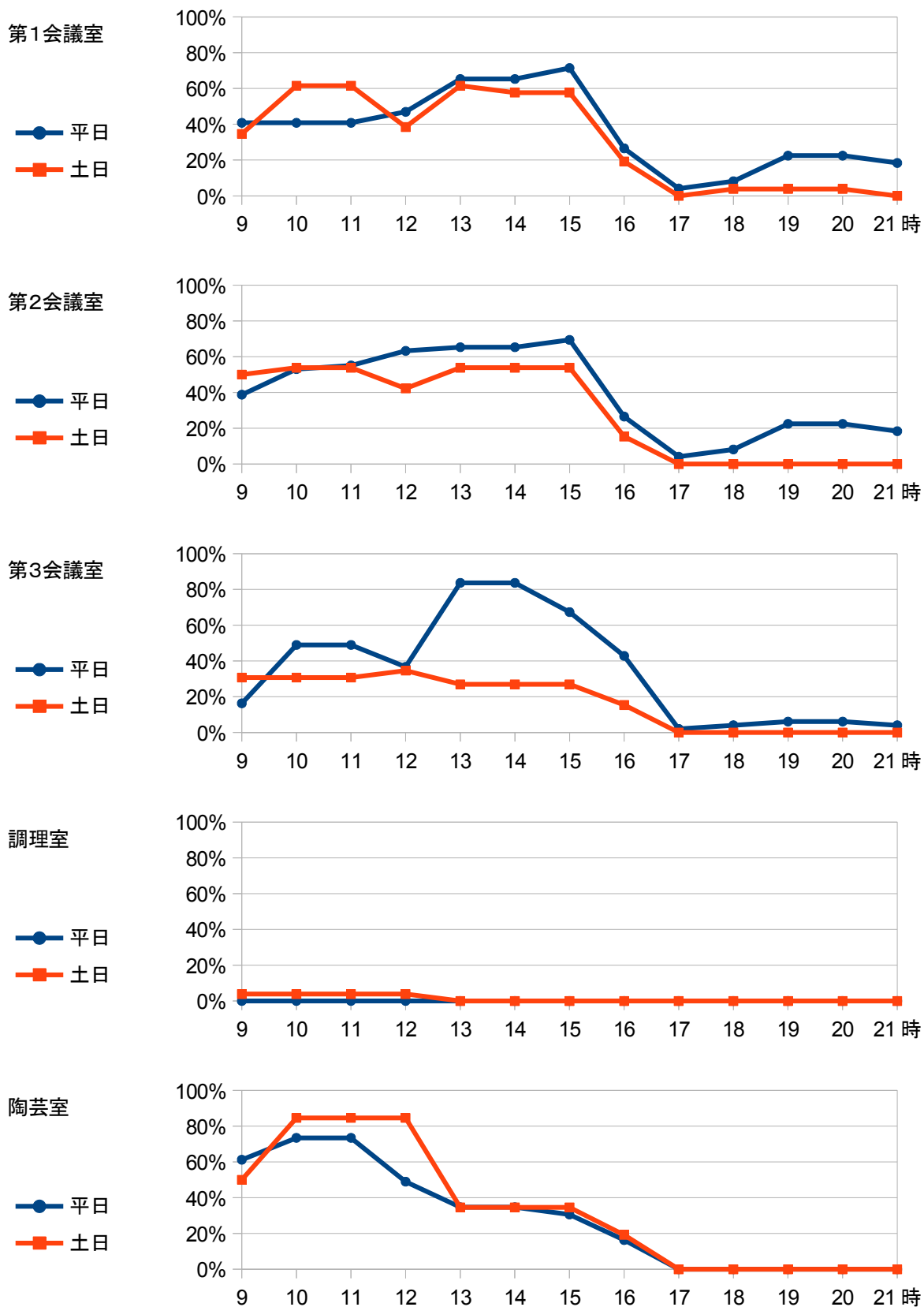
年間利用者数	一人当たりの管理運営費
18, 210 人	745 円/人

【年間利用者の推移】



【1日の利用率の変化】

※グラフの横軸は利用開始時間を表している。（例：9時の軸⇒9～10時の利用率）



【吉岡地区センターの現状】

- ・吉岡地区センターは、中央公民館の分館として設置された施設です。
- ・5つの地区センターの中では早園地区センターに次いで古く、昭和42年度に建築されてから45年が経過しています。
- ・また、利用者人数も早園地区センターに次いで少なく、年間で1万8千人程度の利用に留まっています。
- ・延床面積は5つの地区センターの中で最も小さい333㎡ですが、陶芸室が設置されているのは、吉岡地区センターだけです。
- ・第3会議室を除いて平日と土日の利用率の差は少ないですが、利用率が80%を超える時間帯は少なく、17時以降の夜間の利用はほとんどありません。
- ・調理室は、1日を通じて利用率が低く、より需要のある機能への転用を考える必要があります。
- ・各部屋の大きさは次のとおりです。

	面積	収容人数
第1会議室	56.0㎡	50人
第2会議室	56.0㎡	50人
第3会議室	56.0㎡	50人
調理室	16.0㎡	5人
陶芸室	28.0㎡	30人

綾南地区センター

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 51 年度	R C 2 階建	580m ²	873m ²

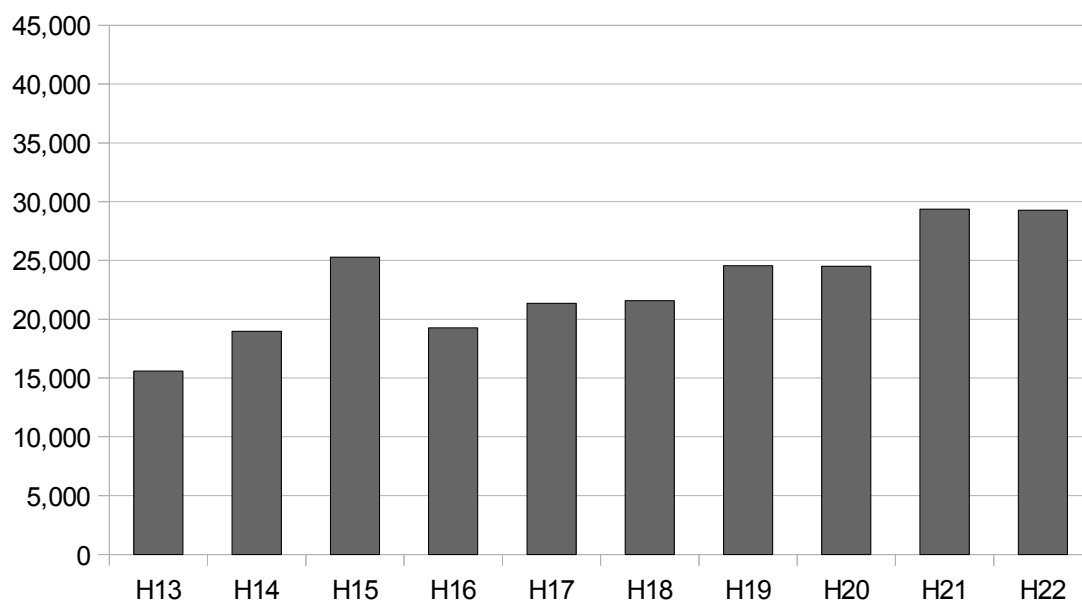
【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
1,802.3 万円	990.4 万円	207.9 万円	287.9 万円	0 万円	316.1 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

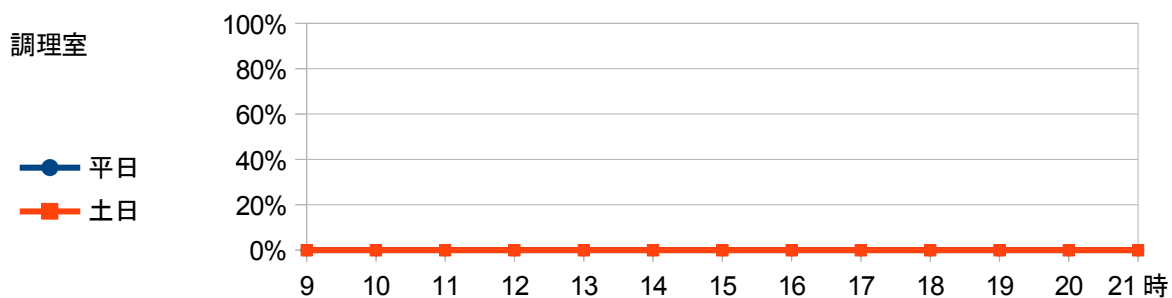
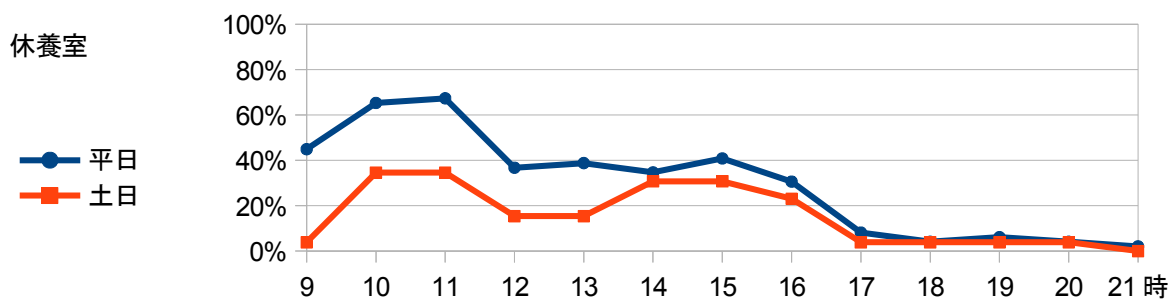
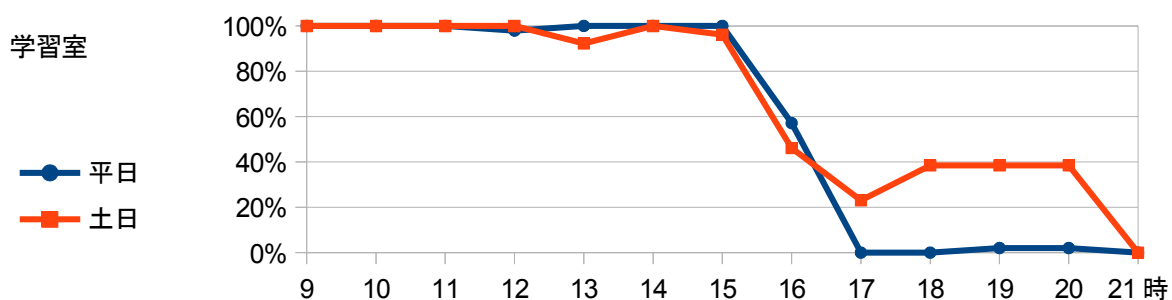
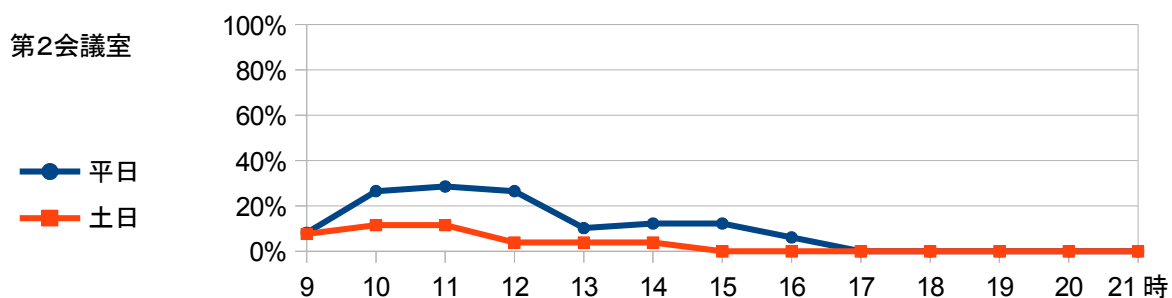
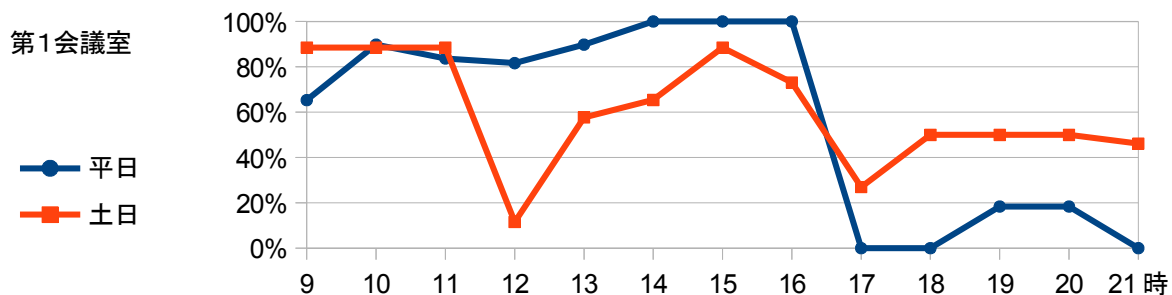
年間利用者数	一人当たりの管理運営費
29,279 人	616 円/人

【年間利用者の推移】



【1日の利用率の変化】

※グラフの横軸は利用開始時間を表している。（例：9時の軸⇒9～10時の利用率）



【綾南地区センターの現状】

- ・綾南地区センターは、中央公民館の分館として設置された施設です。
- ・昭和51年度に建築されてから36年が経過しています。
- ・第1会議室や学習室は、利用率が100%の時間帯もあります。他の地区センターと同様に17時以降の夜間の利用率は低下するものの、40～50%と比較的高い利用率を維持しています。
- ・一方、第2会議室や調理室は、1日を通じて利用率が低く、より需要のある機能への転用を考える必要があります。
- ・近隣には南部ふれあい会館や綾南会館が設置されています。施設の大規模改修や建替えにあたっては、統合を視野に入れた効率的な運用方法を検討する必要があります。
- ・各部屋の大きさは次のとおりです。

	面積	収容人数
第1会議室	114.0㎡	100人
第2会議室（和室）	44.0㎡	20人
学習室	48.0㎡	36人
休養室（和室）	44.0㎡	20人
調理室	25.0㎡	8人

北の台地区センター

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 52 年度	R C 1 階建	578m ²	885m ²

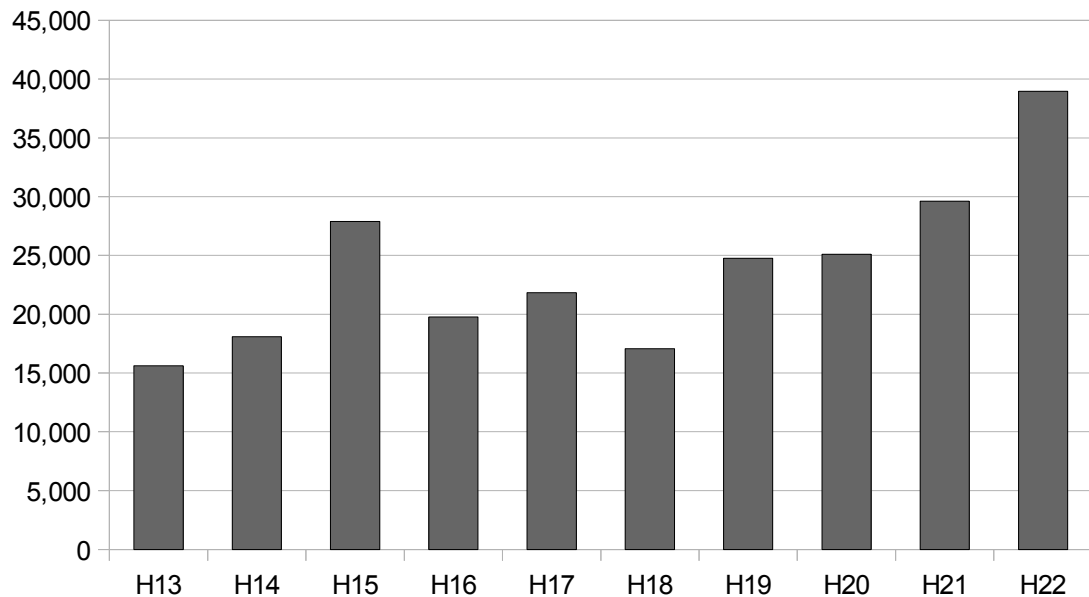
【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
1,540.3 万円	990.4 万円	202.3 万円	58.4 万円	0 万円	289.2 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

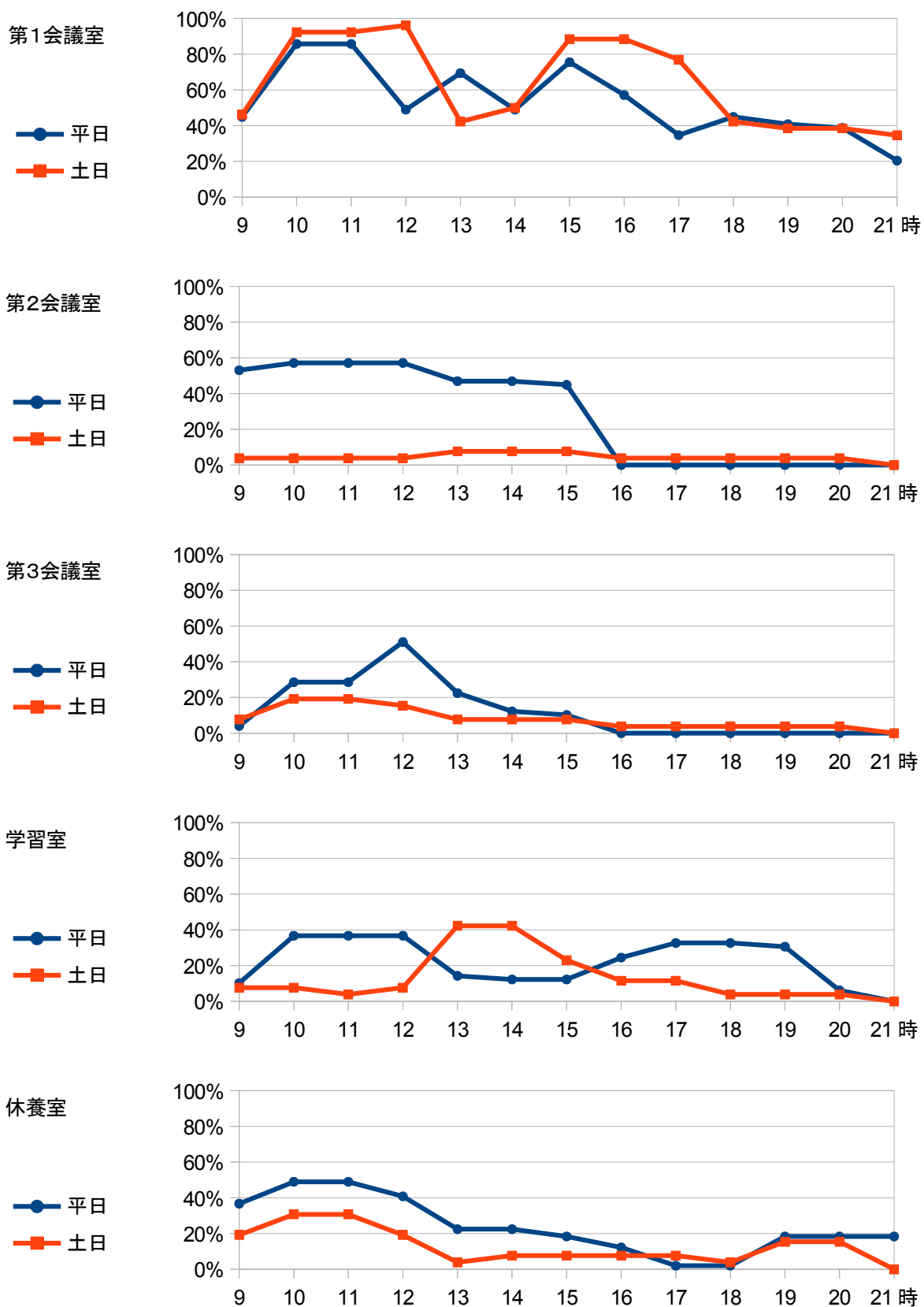
年間利用者数	一人当たりの管理運営費
38,967 人	396 円/人

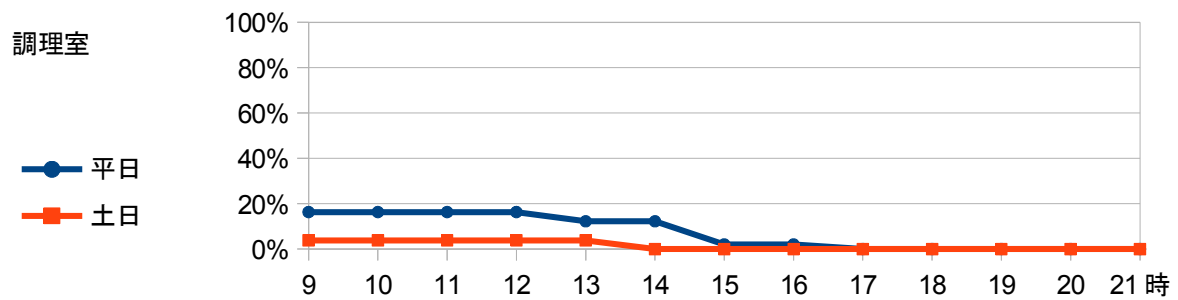
【年間利用者の推移】



【1日の利用率の変化】

※グラフの横軸は利用開始時間を表している。（例：9時の軸⇒9～10時の利用率）





【北の台地区センターの現状】

- ・北の台地区センターは、中央公民館の分館として設置された施設です。
- ・昭和 52 年度に建築されてから 35 年が経過しています。
- ・第 1 会議室の利用率が比較的高く、17 時以降の夜間も 40% 程度の利用率となっています。
- ・その他の部屋では、平日の日中の第 2 会議室を除いて全体的に利用が少なく、利用率が 40% を超える時間帯は限られています。
- ・施設全体の利用率が他の施設に比較して低くなっており、施設全体の在り方を見直し、より需要のある機能への転用を考える必要があります。
- ・各部屋の大きさは次のとおりです。

	面積	収容人数
第 1 会議室	123.0㎡	100 人
第 2 会議室	24.8㎡	15 人
第 3 会議室	25.8㎡	15 人
学習室	50.0㎡	30 人
休養室（和室）	46.0㎡	30 人
調理室	24.0㎡	20 人

（２）コミュニティセンター 寺尾いずみ会館

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
平成５年度	R C ２階建	1,248㎡	2,552㎡

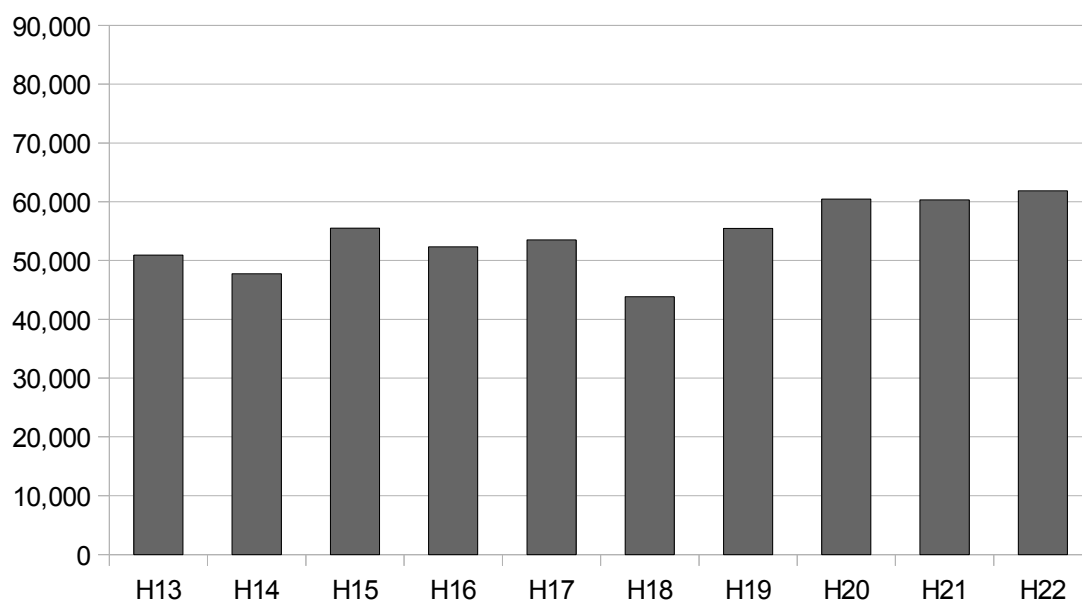
【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
4,677.0万円	1,919.9万円	760.7万円	26.1万円	862.5万円	1,107.8万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

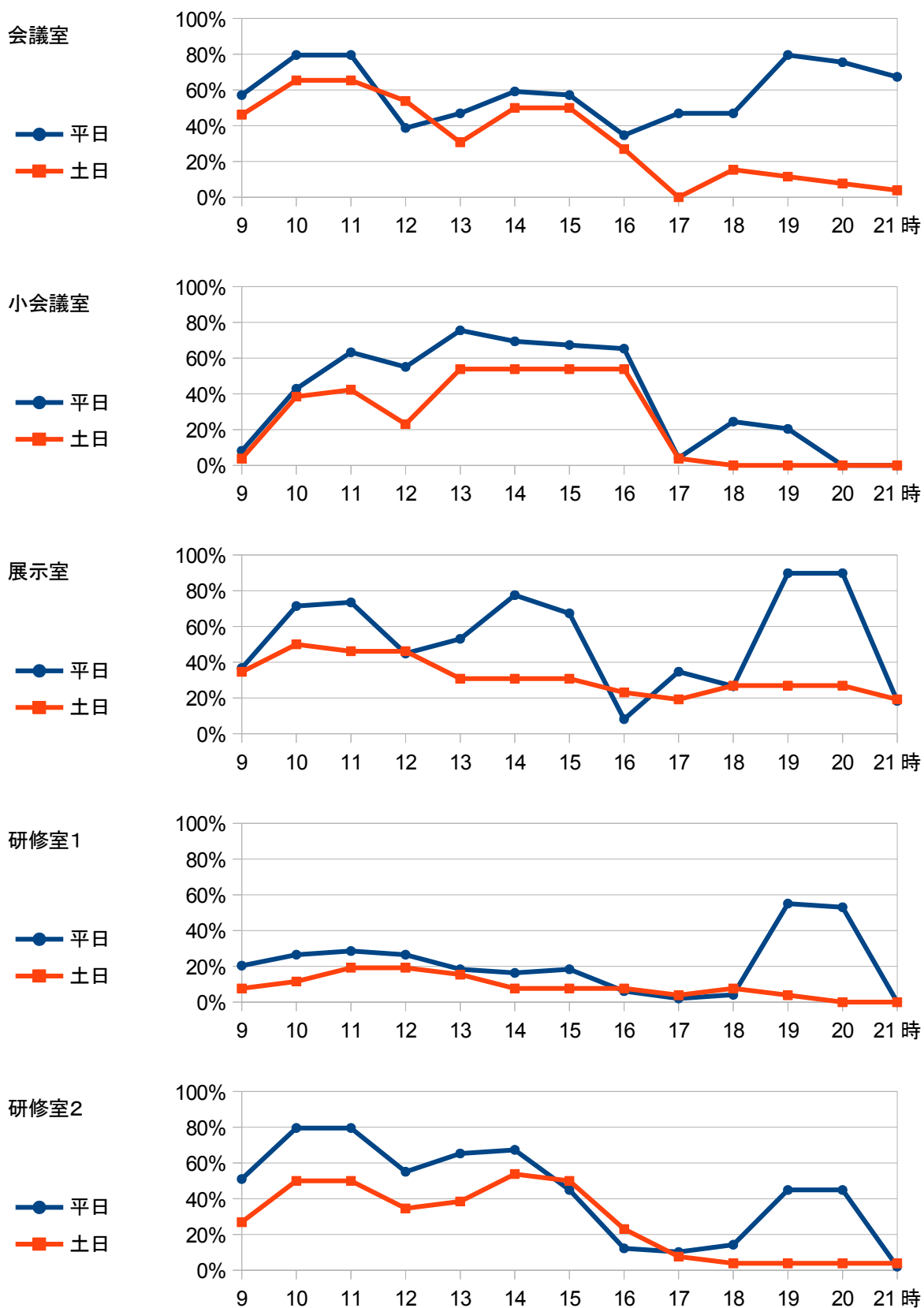
年間利用者数	一人当たりの管理運営費
61,875人	756円/人

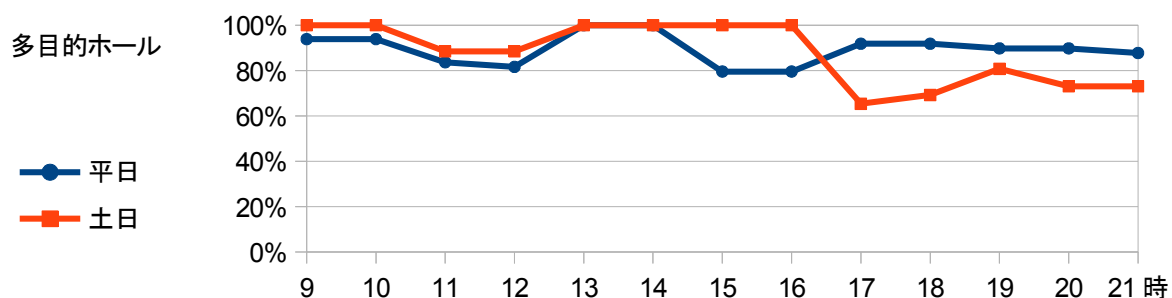
【年間利用者の推移】



【1日の利用率の変化】

※グラフの横軸は利用開始時間を表している。（例：9時の軸⇒9～10時の利用率）





【寺尾いずみ会館の現状】

- ・ 寺尾いずみ会館は、市民の自主的な活動の場として、相互交流と地域社会の形成を目指して設置された施設です。
- ・ 年度ごとに増減があるものの、年間利用者数は増加傾向にあります。
- ・ 延床面積は1,248㎡あり、地区センターの2～3倍の規模があります。その分、年間利用者数も多く、近年では年間6万人を超える市民に利用されています。
- ・ 研修室1を除き、どの部屋も平均的に高い利用率となっており、平日の日中の利用率は70%程度あります。特に多目的ホールの需要が高く、利用率が100%の時間帯もあります。
- ・ 寺尾いずみ会館の特徴として、平日17時以降の夜間利用が高いことが挙げられます。日中より夜間の利用率の方が高い部屋もあります。
- ・ 施設の更なる有効利用を検討するにあたっては、利用率の低い研修室の在り方を見直す必要があります。
- ・ 近隣には綾北福社会館が設置されています。施設の大規模改修や建替えにあたっては、統合を視野に入れた効率的な運用方法を検討する必要があります。
- ・ 各部屋の大きさは次のとおりです。

	面積	収容人数
会議室	42.0㎡	24 人
小会議室	27.3㎡	12 人
展示室	91.0㎡	50 人
研修室 1	41.9㎡	20 人
研修室 2	45.0㎡	25 人
多目的ホール	315.4㎡	200 人

南部ふれあい会館

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
平成 9 年度	R C 2 階建	1, 240㎡	2, 605㎡

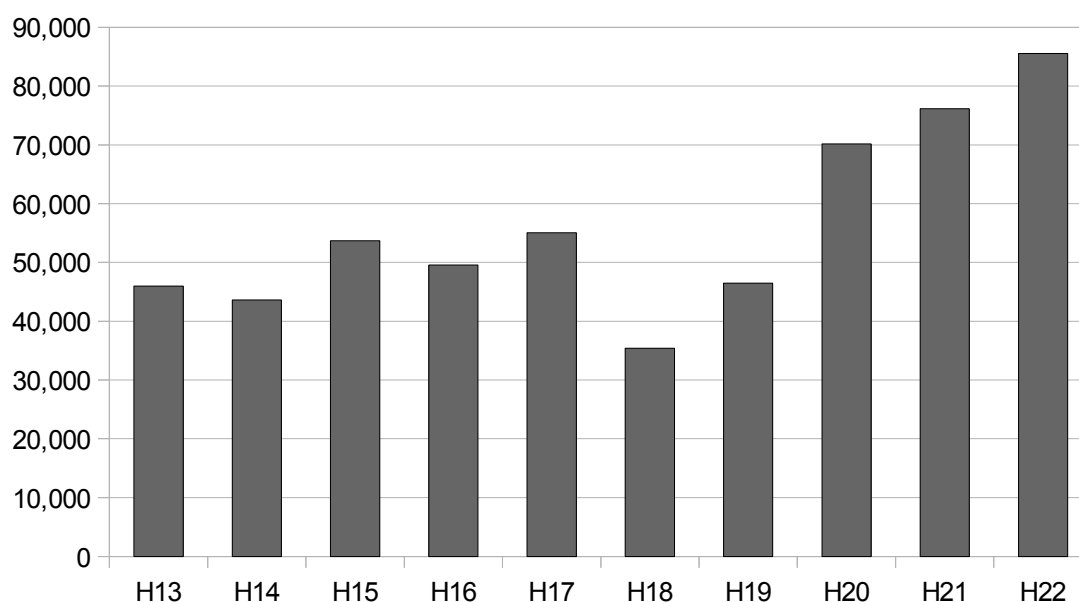
【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
4, 033. 9 万円	1, 919. 9 万円	892. 1 万円	125. 8 万円	0 万円	1, 096. 1 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

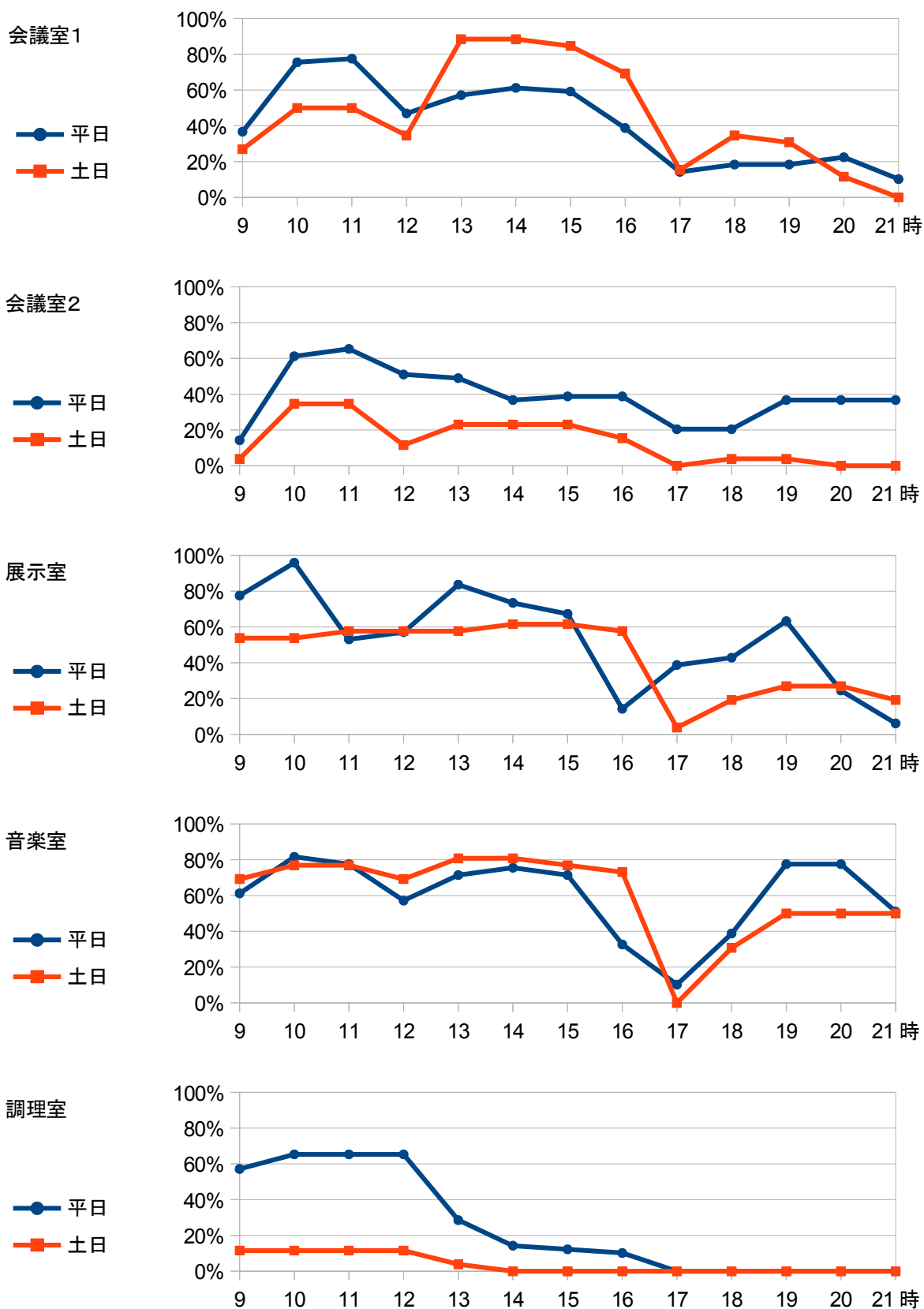
年間利用者数	一人当たりの管理運営費
85, 543 人	472 円/人

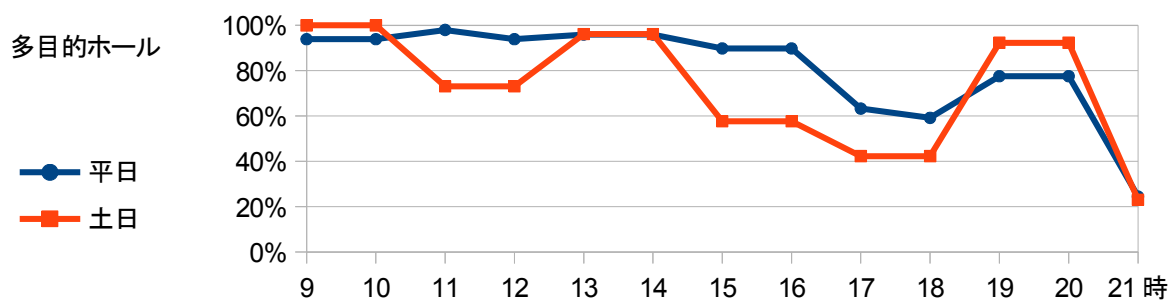
【年間利用者の推移】



【1日の利用率の変化】

※グラフの横軸は利用開始時間を表している。（例：9時の軸⇒9～10時の利用率）





【南部ふれあい会館の現状】

- ・南部ふれあい会館は、市民の自主的な活動の場として、相互交流と地域社会の形成を目指して設置された施設です。
- ・南部ふれあい会館の延床面積は1,240㎡あり、地区センターの2～3倍の規模があります。年間利用者数は5万人前後で推移していましたが、近年は顕著に増加し、平成22年度には8万人を超えました。
- ・平日と土日の利用率に差が見られますが、音楽室と多目的ホールは常に需要があり、夜間でも高い利用率となっています。
- ・一方、調理室は平日の午前中に利用があるものの、全体的な利用率は低く、より需要のある機能への転用を考える必要があります。
- ・近隣には綾南地区センターや綾南会館が設置されています。施設の大規模改修や建替えにあたっては、統合を視野に入れた効率的な運用方法を検討する必要があります。
- ・各部屋の大きさは次のとおりです。

	面積	収容人数
会議室 1	47.8㎡	30 人
会議室 2（和室）	46.6㎡	18 人
展示室	85.1㎡	50 人
音楽室	86.4㎡	40 人
調理室	62.5㎡	24 人
多目的ホール	174.5㎡	150 人

(3) 文化会館

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 55 年度	S R C 4 階建	6, 348m ²	17, 287m ² (文化センター全体)

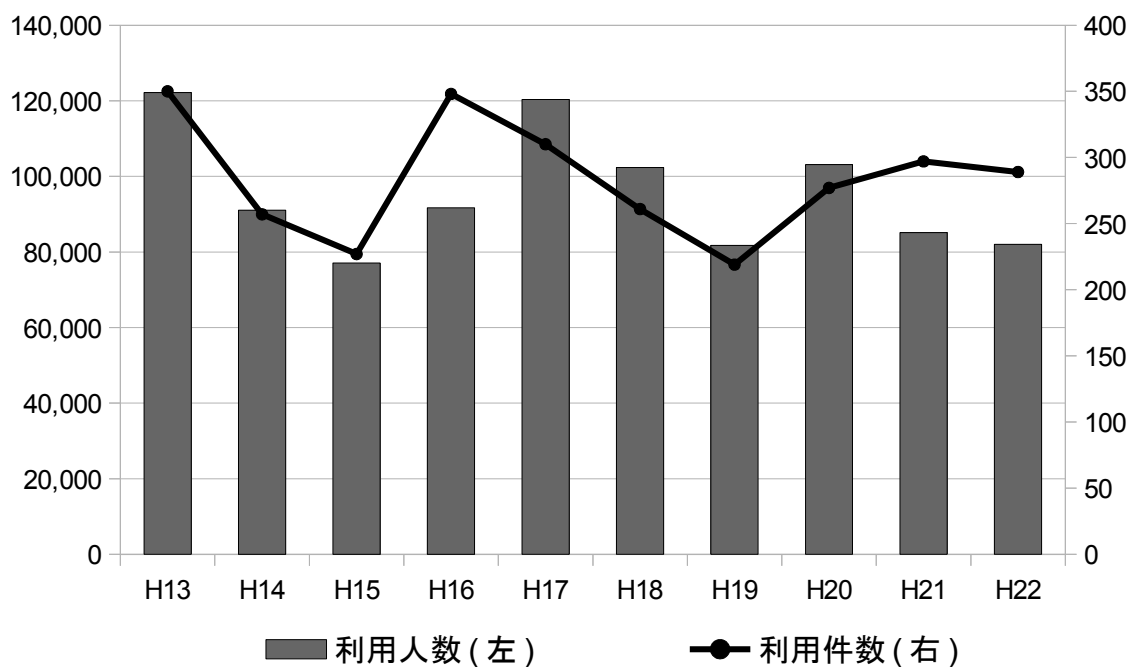
【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
2, 2370. 4 万円	3, 464. 2 万円	9, 170. 0 万円	1, 601. 6 万円	1, 094. 6 万円	7, 040. 0 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
82, 038 人	2, 727 円/人

【年間利用者の推移】



【文化会館の現状】

- ・文化会館は、市民の芸術文化の向上のために設置された施設です。
- ・昭和55年度に建築されてから32年が経過しています。
- ・施設の老朽化が進んでおり、外壁改修の必要性が高まっています。また、舞台装置などの内部設備の老朽化も課題になっています。
- ・8万人を超える市民に利用されていますが、施設の管理運営のために平成23年度は2億2千万円以上がかかっており、利用者一人当たりの管理運営費は3千円近くになります。
- ・一方、文化会館で実施される事業は利用料の減免を受けているケースも多く、施設を利用する市民と利用しない市民との負担の公平化を図るため、受益者負担の見直しが進められています。

(4) 図書館

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 55 年度	R C 2 階建	1,173m ²	17,287m ² (文化センター全体)

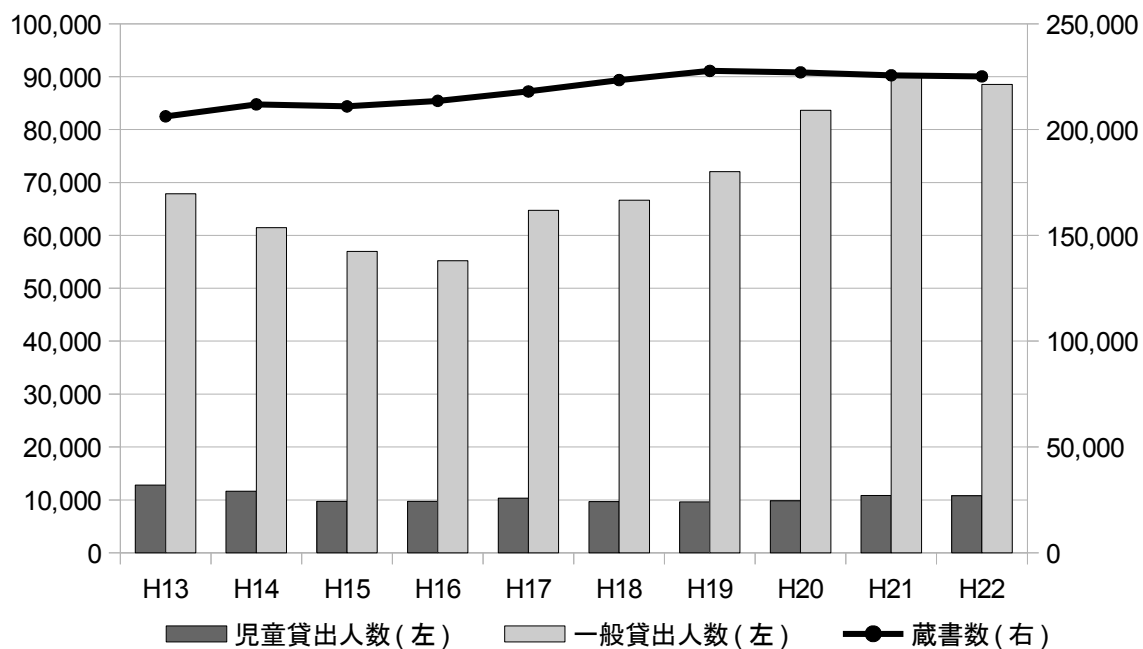
【管理運営費の内訳】

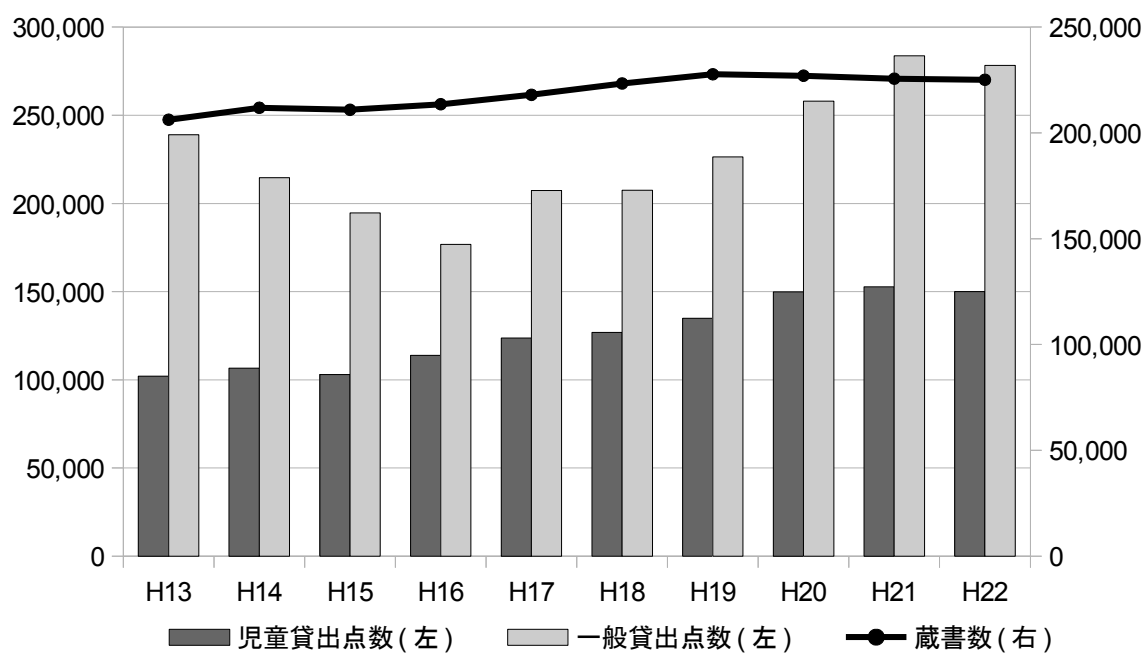
総額	指定管理料	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
10,943.8 万円	9,222.4 万円	7.6 万円	846.9 万円	203.4 万円	0 万円	663.5 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

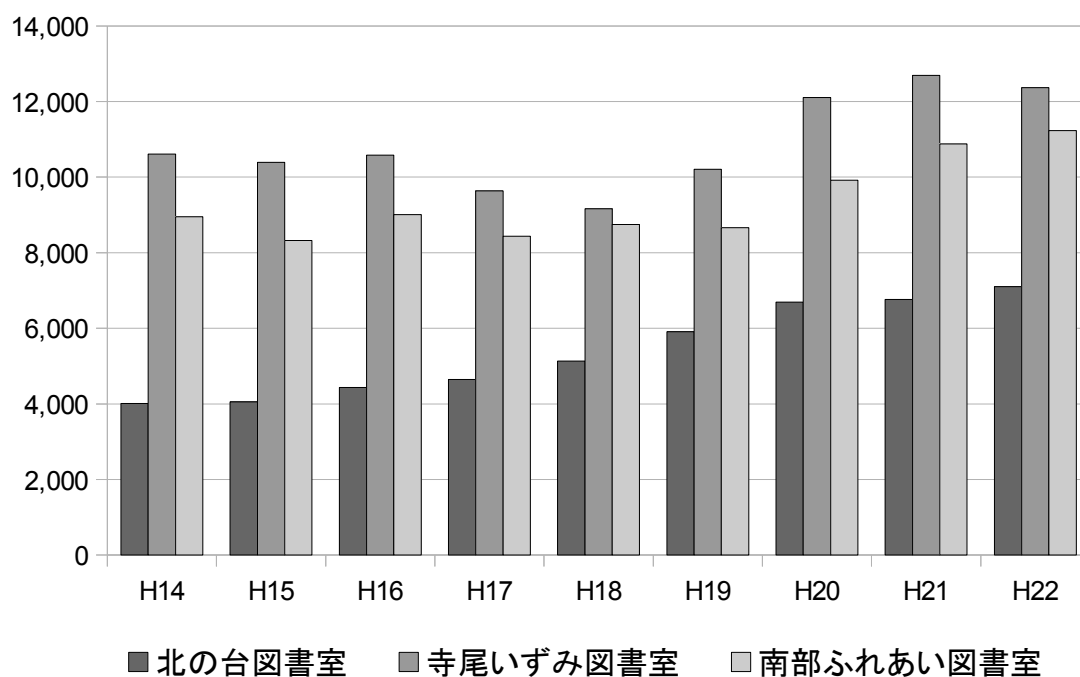
年間利用者数	一人当たりの管理運営費
99,282 人	1,103 円/人

【年間利用者の推移】





【図書室の貸出人数(児童・一般合計)】



【図書館の現状】

- ・図書館は、様々な資料を収集し、市民の教養、調査研究、レクリエーションなどに利用してもらうことを目的とした施設です。
- ・平成20年度から指定管理者制度を導入しています。
- ・本市の図書館蔵書数は22.5万冊ほどで推移していますが、近年の一般貸出人数には顕著な増加が見られます。また、貸出人数の増加に伴い貸出点数も増加しています。
- ・児童貸出人数には大きな増加は見られませんが、貸出点数は10年間で1.5倍ほどに増加しており、児童一人当たりの貸出点数が増えていることが分かります。
- ・北の台地区センター、寺尾いずみ会館、南部ふれあい会館には、図書館の分室が設置されています。
- ・平成22年度の貸出人数は、一般と児童を合わせて約10万人でしたが、そのうち約3万人は図書館分室を利用した人数です。
- ・寺尾いずみ図書室、南部ふれあい図書室の貸出人数が1万人を超えている一方、北の台図書室の貸出人数は約7千人と、やや少ない傾向にあります。

（５）文化財収蔵施設

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 51 年度	R C 2 階建	867㎡	1,775㎡

【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
1,553.8 万円	997.5 万円	66.9 万円	17.9 万円	0 万円	471.5 万円

【文化財収蔵施設の現状】

- ・文化財収蔵施設は、かつて第 2 学校給食センターとして使われていた施設を、出土した土器などの収蔵庫として利用しているものです。
- ・施設は昭和51年度に建築されており、文化財収蔵施設として利用するため、平成17年に大規模改修を行っています。

(6) スポーツ施設 市民スポーツセンター

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 57 年度	S R C 2 階建	7,973㎡	37,511㎡

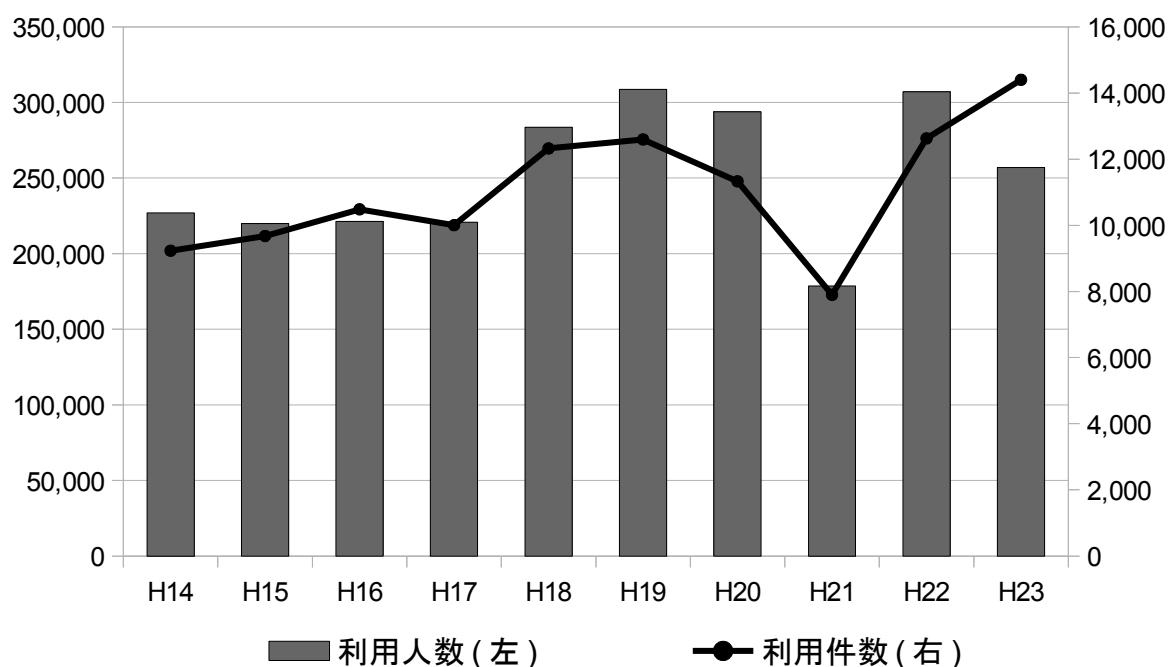
【管理運営費の内訳】

総額	指定管理料	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
9,308.0 万円	6,038.3 万円	0 万円	429.1 万円	0 万円	275.1 万円	2,565.5 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
256,906 人	363 円/人

【年間利用者の推移】



早川城山多目的広場

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
—	—	—	15,998㎡

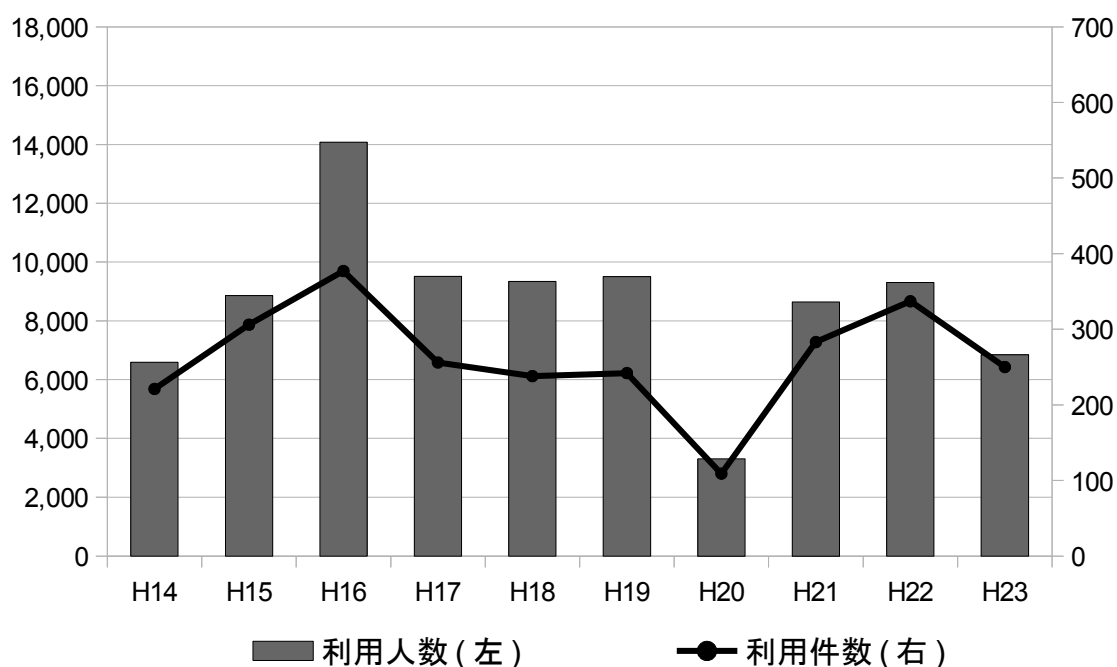
【管理運営費の内訳】

総額	指定管理料	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
168.1 万円	160.9 万円	0 万円	7.2 万円	0 万円	0 万円	—

【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
6,845 人	246 円/人

【年間利用者の推移】



本蓼川テニスコート

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
—	—	—	5,193m ²

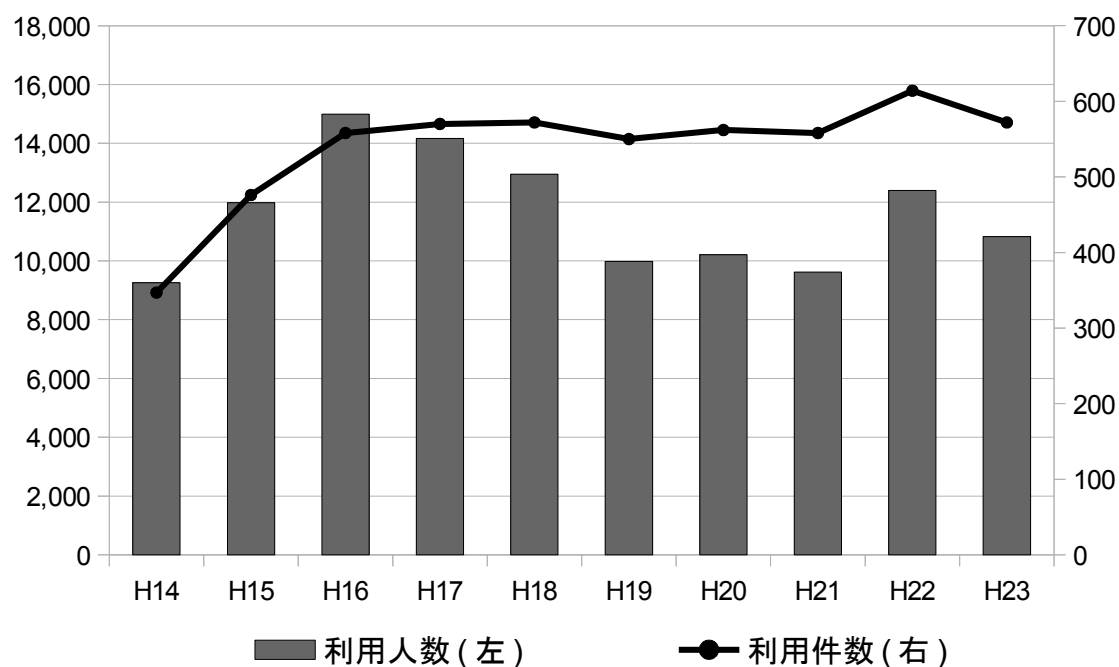
【管理運営費の内訳】

総額	指定管理料	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
266.0万円	254.6万円	0万円	11.4万円	0万円	0万円	—

【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
10,831人	246円／人

【年間利用者の推移】



蓼川スポーツ広場

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
—	—	—	9,108m ²

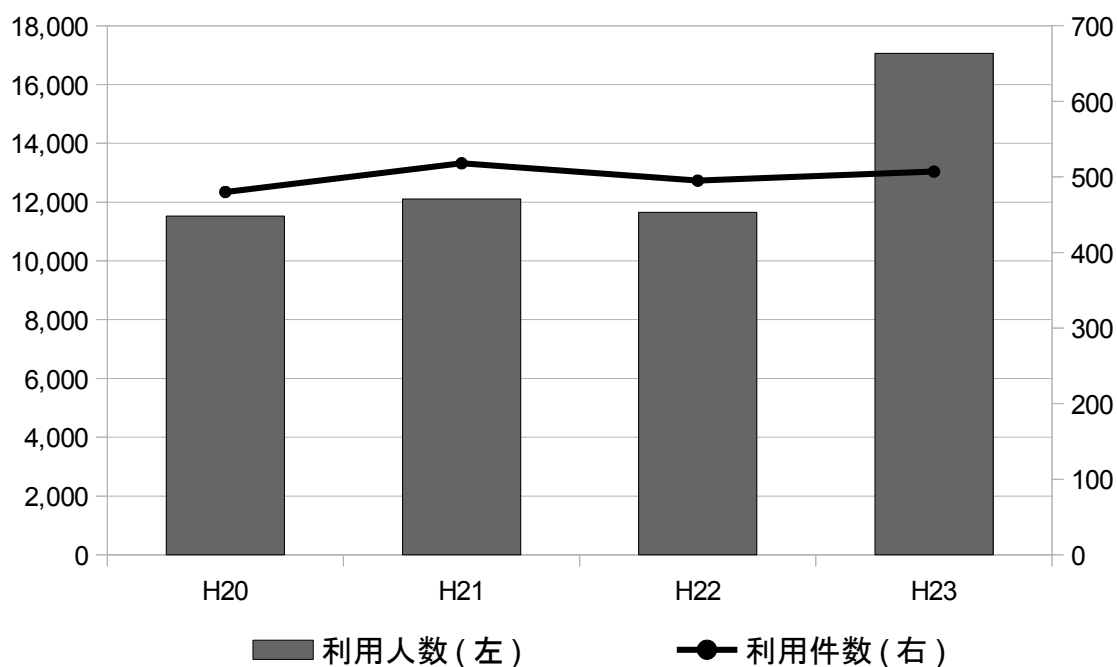
【管理運営費の内訳】

総額	指定管理料	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
419.0 万円	401.1 万円	0 万円	17.9 万円	0 万円	0 万円	—

【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
17,062 人	246 円／人

【年間利用者の推移】



【スポーツ施設の現状】

- ・スポーツ施設は、スポーツの振興を図り、市民の心身の健全な発達に寄与するために設置された施設です。
- ・平成18年度から指定管理者制度を導入しています。
- ・市民スポーツセンターの体育館は昭和57年度に建築されており、平成21年度に大規模改修を実施しています。
- ・市民スポーツセンターの年間利用者数は、近年では平成21年度を除いて25万人～30万人で推移しており、最も多くの市民に利用される施設となっています。
- ・本蓼川テニスコートと蓼川スポーツ広場は、国有地を無償で借りて設置しています。
- ・なお、光綾公園の野球場と綾瀬スポーツ公園の各種スポーツ施設は、市の条例上、公園として扱われます。

4 学校教育施設

(1) 小学校

【施設の概要】

学校名	建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積	建物コスト
綾瀬小学校	平成 22 年度	R C 4 階建	9,047m ²	19,708m ²	5,943.7 万円
綾北小学校	昭和 40 年度	R C 3 階建	6,882m ²	18,137m ²	2,958.8 万円
綾西小学校	昭和 44 年度	R C 3 階建	7,272m ²	20,387m ²	2,283.8 万円
早園小学校	昭和 46 年度	R C 3 階建	5,617m ²	20,967m ²	2,428.9 万円
綾南小学校	昭和 47 年度	R C 4 階建	5,548m ²	14,015m ²	2,206.7 万円
天台小学校	昭和 49 年度	R C 3 階建	6,382m ²	19,693m ²	2,553.1 万円
北の台小学校	昭和 50 年度	R C 3 階建	5,896m ²	18,057m ²	2,884.5 万円
落合小学校	昭和 51 年度	R C 4 階建	5,966m ²	17,242m ²	2,597.9 万円
土棚小学校	昭和 55 年度	R C 4 階建	6,566m ²	21,025m ²	3,140.1 万円
寺尾小学校	昭和 56 年度	R C 3 階建	6,593m ²	23,512m ²	3,850.6 万円

【管理運営費の内訳】※小学校10校の総額

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
94,502.3 万円 (9,450.3 万円/校)	12,195.4 万円	14,156.7 万円	37,272.1 万円	30.0 万円	30,848.1 万円

(2) 中学校

【施設の概要】

学校名	建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積	建物コスト
綾瀬中学校	平成 17 年度	R C 3 階建	9,190m ²	35,683m ²	4,839.6 万円
綾北中学校	昭和 47 年度	R C 2 階建	8,581m ²	33,334m ²	1,782.3 万円
城山中学校	昭和 51 年度	R C 4 階建	8,404m ²	25,563m ²	2,584.1 万円
北の台中学校	昭和 55 年度	R C 4 階建	7,967m ²	28,628m ²	2,765.1 万円
春日台中学校	昭和 59 年度	R C 4 階建	9,899m ²	29,665m ²	3,528.5 万円

【管理運営費の内訳】※中学校 5 校の総額

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
53,267.3 万円 (10,653.5 万円/校)	7,093.9 万円	8,291.7 万円	22,382.1 万円	0 万円	15,499.6 万円

【小学校・中学校の現状】

- ・小中学校の延床面積の合計は、全公共施設の5割以上を占めています。施設数が多いことに加え、1件当たりの規模が他の公共施設より圧倒的に大きいからです。
- ・昭和36年度に建築された綾瀬小学校の管理教室棟は平成22年度に、昭和40年度に建築された綾瀬中学校の管理教室棟は平成17年度に、それぞれ建て替えられています。
- ・その他の13校は、昭和40年度建築の綾北小学校から昭和59年度建築の春日台中学校まで、20年間に集中して建築されています。
- ・各小中学校は、児童生徒数の増加にあわせて、数回の増築を行っているため、大規模改修や建替えの実施時期、更新方法の検討も必要となってきます。
- ・児童生徒数は、昭和58年度の約13,900人をピークに減少に転じ、平成24年5月1日現在では約7,100人と、ほぼ半減しています。
- ・今後の少人数学級、少人数指導などへの取組みの状況により、必要となる教室数も変わってきますが、少子化の進行による児童生徒数の減少は今後も続くの見込まれることから、「綾瀬市立小学校及び中学校の通学区域等に関する基本方針」に基づき、学校の適正配置の検討が必要となってきます。
- ・将来、空き教室が生じた場合は、ニーズに応じた教育活動への活用が予想される一方、かつて校舎だった建物を地区センターに転用した例もあります。公共施設全体の合理化を進めるため、教育活動以外の用途への転用についても期待が寄せられます。

（３）学校給食センター

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
平成９年度	S 2階建	1,915㎡	4,113㎡

【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
25,974.9 万円	5,383.5 万円	18,171.0 万円	609.8 万円	0 万円	1,810.6 万円

【学校給食センターの現状】

- ・学校給食センターは、市内の小中学校15校へ完全給食を提供しています。
- ・社会の変化に伴い子供たちの食生活も変化し、偏食や朝食の欠食など食習慣の乱れがおきていることから、学校訪問による食育指導などにも取り組んでいます。また、地場産物を食材に使うなど、地産地消にも取り組んでいます。
- ・安全で安定した学校給食を提供できるよう、老朽化した施設・設備を計画的に更新していく必要があります。

(4) 適応指導教室

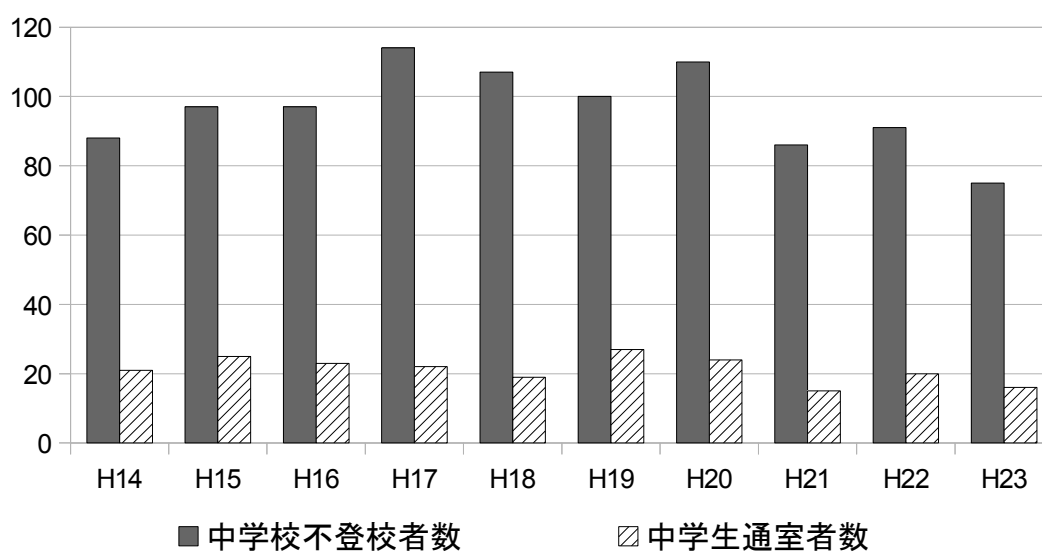
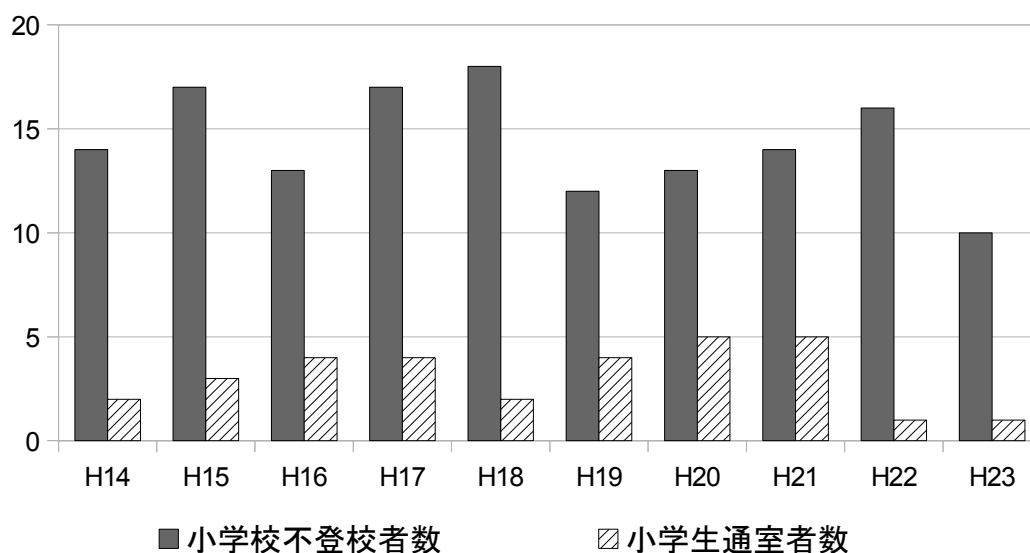
【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
平成9年度	S（軽量鉄骨） 2階建	144m ²	200m ²

【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
1,618.7万円	1,490.4万円	77.5万円	0万円	0万円	50.8万円

【年間利用者の推移】



【適応指導教室の現状】

- ・適応指導教室は、本市では「ルピナス教室」と呼ばれ、主に心因的な理由で不登校状態にある小中学生を、学校へ復帰させたり、社会的に自立させることを目的とした施設です。
- ・不登校者の割合は中学生の方が圧倒的に多く、適応指導教室の通室者の大半が中学生です。不登校状態の中学生のうち、およそ2～3割が適応指導教室に通っています。

5 その他の施設

(1) 市営住宅

蓼川住宅

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 63 年度	R C 3 階建	831m ²	834m ²

【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
627.9 万円	199.5 万円	10.6 万円	0 万円	0 万円	417.8 万円

【利用一世帯当たりの管理運営費】

年間利用世帯数	一世帯当たりの管理運営費
12 世帯（定員）	年額 52.4 万円/世帯

寺尾釜田住宅

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
平成9年度	R C 3階建	1,669m ²	2,204m ²

【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
984.6万円	199.5万円	26.6万円	65.3万円	0万円	693.2万円

【利用一世帯当たりの管理運営費】

年間利用世帯数	一世帯当たりの管理運営費
20世帯（定員）	年額 49.3万円/世帯

【市営住宅の現状】

- ・市営住宅は、住宅に困窮する低額所得者の方に低い家賃で賃貸するために、市が設置した住宅です。
- ・本市には、4団地357世帯（平成24年4月現在・募集停止分を含む）もの県営住宅が設置されているため、市営住宅の設置は2団地32世帯と多くはありません。
- ・平成23年度は両施設の管理運営費に約1千6百万円がかかりました。1世帯当たり年間約50万円かかった計算になります。この管理運営費の大半は人件費と建物コストが占めています。
- ・神奈川県緊急財政対策として、県営住宅も見直し対象とされており、今後の対応を注視していく必要があります。

(2) 公園

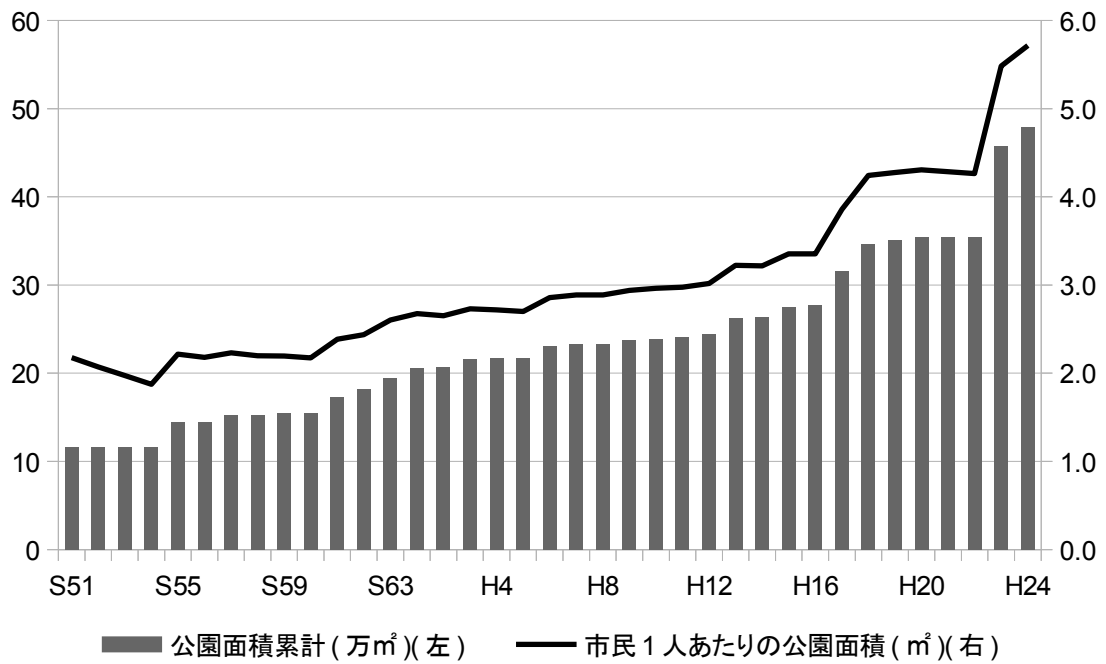
【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
—	—	—	478,509m ²

【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
34,287.2 万円	9,020.0 万円	15,130.0 万円	8,109.9 万円	2,027.3 万円	—

【公園面積の推移】



【公園の現状】

- ・市内には、124箇所の都市公園が整備されています。
- ・地域の共有財産として、美化活動や保全を行う地域のボランティア団体（公園愛護会）に協力いただき、63公園（平成24年12月現在）が管理されています。
- ・近年の市内人口に大きな変化がないため、公園面積の増加が、そのまま市民一人当たりの公園面積の増加につながっています。
- ・近年では、平成21年3月から順次進めている綾瀬スポーツ公園整備の進ちょくに伴い、市民一人当たりの公園面積が、大きな伸びを示しています。
- ・平成22年度に公園遊具の長寿命化計画を策定し、遊具の安全確保を計画的に進めています。
- ・公園の管理運営には多くの費用が必要になります。平成23年度の実績では、公園の維持管理に関わる職員の人件費を含め、3億4千万円以上かかっています。市民一人当たりに換算すると、約4千円になります。

（３）本蓼川墓園

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
—	—	—	8,700m ²

【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
1,185.3万円	498.8万円	685.4万円	1.1万円	0万円	—

【利用一基当たりの管理運営費】

年間利用数	一基当たりの管理運営費
1,025基（定員）	年額 1.2万円/基

【本蓼川墓園の現状】

- ・本蓼川墓園は、平成元年４月に市民の福祉増進を目的に設置されました。
- ・普通墓所（404基）、芝生墓所（208基）、普通納骨壇（77基）、合葬納骨壇（336基）が整備されています。
- ・神奈川県内では、本市のほかに、横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市、藤沢市、平塚市、小田原市、清川村に公営墓地が設置されています。

(4) 自治会館

【施設の概要】

会館名	建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積	建物コスト
大上 自治会館	昭和 54 年度	R C 1 階建	286㎡	990㎡	147.2 万円
蓼川 自治会館	昭和 52 年度	R C 1 階建	179㎡	463㎡	91.1 万円
寺尾北 自治会館	平成 18 年度	R C 1 階建	235㎡	434㎡	172.0 万円
寺尾天台 自治会館	平成 20 年度	R C 1 階建	235㎡	704㎡	194.7 万円
寺尾綾北 自治会館	昭和 54 年度	S 1 階建	298㎡	1,260㎡	192.3 万円
寺尾南 自治会館	平成 16 年度	R C 1 階建	231㎡	777㎡	140.0 万円
小園 自治会館	昭和 56 年度	R C 1 階建	232㎡	819㎡	171.4 万円
早川 自治会館	昭和 57 年度	R C 1 階建	209㎡	466㎡	151.5 万円
綾西 自治会館	昭和 56 年度	R C 1 階建	252㎡	1,932㎡	192.5 万円
吉岡 自治会館	昭和 59 年度	R C 1 階建	215㎡	572㎡	164.4 万円
上深谷 自治会館	昭和 55 年度	R C 1 階建	203㎡	929㎡	141.2 万円
中村 自治会館	昭和 57 年度	R C 1 階建	248㎡	420㎡	184.2 万円
上土棚 自治会館	昭和 55 年度	R C 1 階建	264㎡	827㎡	158.6 万円
落合 自治会館	昭和 53 年度	R C 1 階建	232㎡	896㎡	146.4 万円

【管理運営費の内訳】

総額	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
2,885.1 万円	0 万円	12.9 万円	624.7 万円	0 万円	2,247.5 万円

【平成23年度の年間利用者数】

会館名	利用者数	会館名	利用者数	会館名	利用者数
大上 自治会館	13,718 人	寺尾南 自治会館	10,305 人	上深谷 自治会館	7,469 人
蓼川 自治会館	6,712 人	小園 自治会館	11,852 人	中村 自治会館	7,620 人
寺尾北 自治会館	18,235 人	早川 自治会館	3,091 人	上土棚 自治会館	13,384 人
寺尾天台 自治会館	5,542 人	綾西 自治会館	19,393 人	落合 自治会館	5,764 人
寺尾綾北 自治会館	11,703 人	吉岡 自治会館	2,983 人	合計	137,771 人

※中村自治会館については平成20年度の実績を掲載しています。

【自治会館の現状】

- ・自治会館は、地域住民の活動拠点として設置された施設です。現在では市内14の自治会の全てに自治会館が設置されています。
- ・各自治会の加入者数に差があるため一概には比較できませんが、自治会館ごとに年間利用者数に大きな差が見られます。
- ・昭和50年代に11会館が建設されており、施設が古くなるにつれ維持補修費が増加するほか、今後一斉に更新年度を迎えることへの対策が求められます。

（５）地区会館

綾南会館

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 49 年度	R C 2 階建	207㎡	316㎡

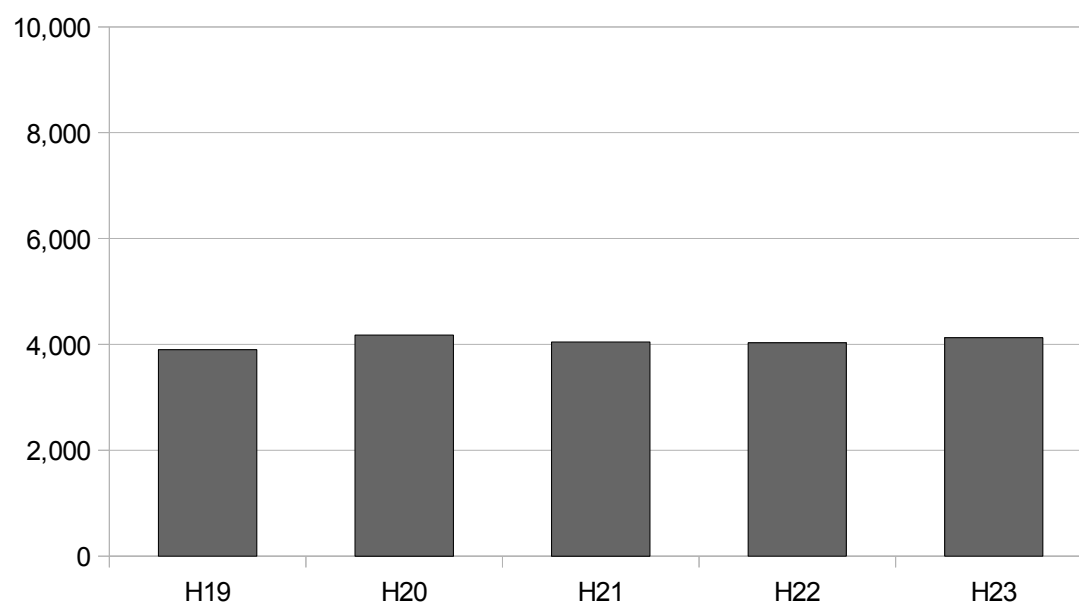
【管理運営費の内訳】

総額	指定管理料	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
403.9 万円	74.8 万円	0 万円	0.2 万円	231.7 万円	0 万円	97.2 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
4,123 人	980 円/人

【年間利用者の推移】



鶴島会館

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 59 年度	R C 1 階建	200m ²	399m ²

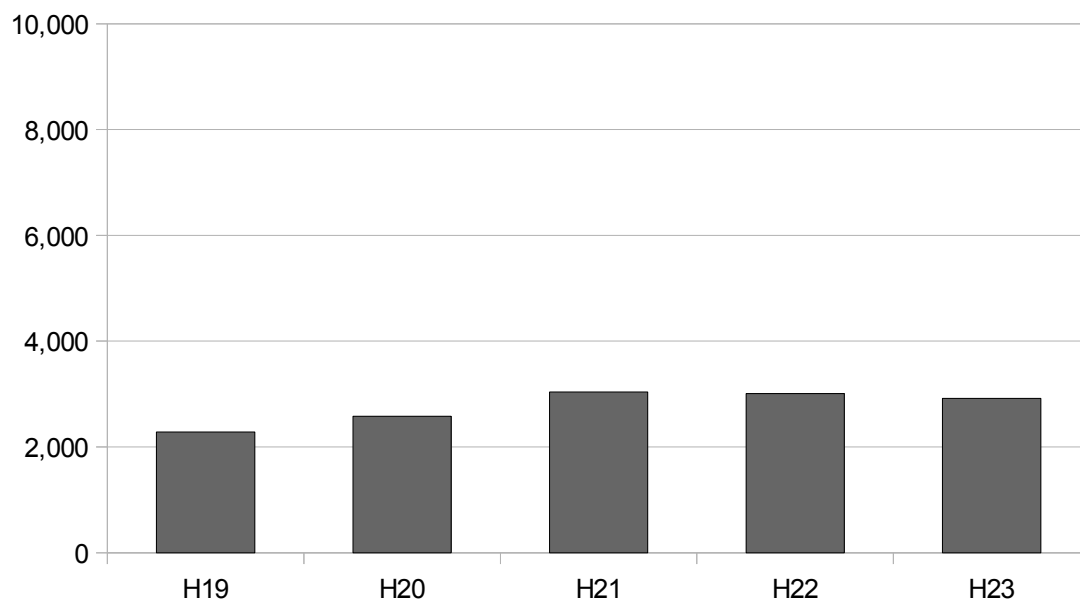
【管理運営費の内訳】

総額	指定管理料	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
226.8 万円	74.9 万円	0 万円	0.2 万円	10.0 万円	0 万円	141.7 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
2,917 人	778 円/人

【年間利用者の推移】



大上会館

【施設の概要】

建築年度	施設の構造	延床面積	敷地面積
昭和 63 年度	S 2 階建	219m ²	338m ²

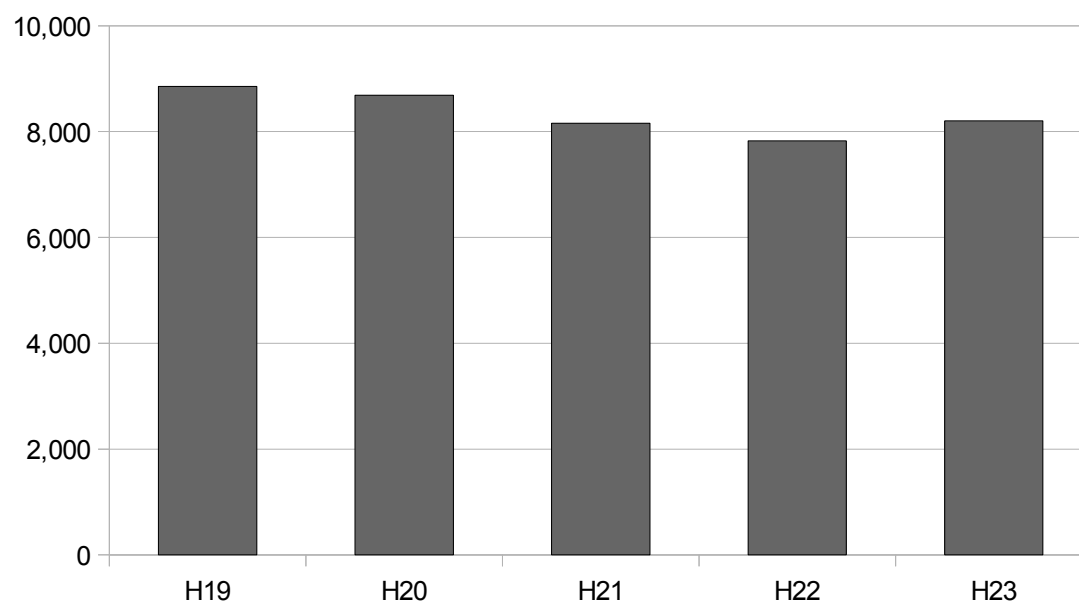
【管理運営費の内訳】

総額	指定管理料	人件費	運営費	維持補修費	借地料	建物コスト
282.2 万円	75.6 万円	0 万円	0.7 万円	43.2 万円	0 万円	162.7 万円

【利用者一人当たりの管理運営費】

年間利用者数	一人当たりの管理運営費
8,204 人	344 円/人

【年間利用者の推移】



【地区会館の現状】

- ・地区会館は、地域住民の交流活動と福祉増進のために設置された施設です。市民の誰もが利用可能ですが、実態としては自治会館と同様に、特定地域の住民にのみ利用される傾向にあります。
- ・大上会館の年間利用者数が8千人を超えているのに対し、綾南会館や鶴島会館の年間利用者数は3～4千人に留まっています。1日当たりの利用者が10人程度しかない計算になり、施設の存在意義が問われます。
- ・綾南会館は、綾南地区センターや南部ふれあい会館に近接しており、役割も重複しています。今後、大規模改修や建替えにあたっては、施設の統合を含めた検討が必要になります。
- ・大上会館は、大上自治会館に近接しています。平成23年度の大上自治会館の利用者数は約1万4千人であり、施設の大規模改修や建替えにあたっては、統合を含めた両会館の効率的な運営方法の検討が必要になります。

第 4 章

有効利用の方向性

第4章 有効利用の方向性

公共施設の有効利用を目指して、今後、次の方向性で見直しを進めていきます。

1 施設総量の削減

公共施設の建替え費用や維持補修費が増加する一方、扶助費の増加や、生産年齢人口の減少による税収減が予想され、全ての公共施設を維持していくことは極めて難しい状況です。

道路や下水道などのインフラ施設を今後も維持していくためには、綾瀬市全体の公共施設の総量を削減させる必要があります。

しかし「施設数の減少」＝「サービスの低下」と単純に結びつけず、利用者一人当たりのコストや将来的な必要性等を考慮しながら、規模縮小や機能転用に取り組み、サービス水準の維持を図ります。

2 多目的利用の推進

施設の数減らしながらサービスの水準を維持するためには、多様なサービスを一つの施設で提供する、多目的利用の推進が不可欠です。

従来の専用施設の考え方を改め、大規模改修や建替えを行う場合には、施設の複合化・多目的化を進めることを基本とします。

また、少子化の進行により、空き教室が生じると見込まれる学校教育施設についても、教育活動に支障のない範囲で、学校開放事業をはじめとする地域施設としての活用を推進します。

3 適正な受益者負担

施設の収益（利用料）が管理運営費を下回る場合、不足分は市民の税金で賄われます。施設を利用される方（受益者）と利用されない方との負担の公平化を図るため、適正な受益者負担を求めています。

4 施設の長寿命化

施設の長寿命化は、建替えより少ない費用で施設を維持し、単年度当たりのランニングコストを低減するために有効な手段です。

また、長期的かつ計画的な保全を行うことで、過去に集中して設置された公共施設の大規模改修や建替えの時期をコントロールし、各年度の財政支出を平準化させることができます。

平成18年3月に策定した「公共施設保全計画」を重視し、公共施設の計画的で適切な維持管理と、効率的かつ効果的な予防保全を推進していきます。

参考資料の出典

(6頁)

- ・【総人口の推移】 グラフ
 - ・【年齢階層別の人口推移】 グラフ
- ⇒綾瀬市『統計要覧』

(7頁)

- ・【年齢階層別の将来人口の見込み】 グラフ
- ⇒国立社会保障・人口問題研究所『日本の市区町村別将来推計人口（平成20年12月推計）』
(<http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson08/t-page.asp>)

(8頁)

- ・【財源別の一般会計歳入額】 グラフ
- ⇒綾瀬市『決算説明資料』

(9頁)

- ・【一般会計歳入の財源割合】 グラフ
 - ・【平成23年度市税収入の内訳】 グラフ
- ⇒綾瀬市『決算説明資料』

(10頁)

- ・【性質別の一般会計歳出額】 グラフ
- ⇒綾瀬市『決算説明資料』

(11頁)

- ・【一般会計歳出の性質割合】 グラフ
 - ・【市債の年度末残高の推移】 グラフ
- ⇒綾瀬市『決算説明資料』

(13頁)

- ・【公共施設の建築年度と延床面積】 グラフ
 - ・【公共施設の種類の面積割合】 グラフ
- ⇒総務省調査（平成23年度実施）への本市回答結果
（調査名称：『公共施設及びインフラ資産の将来の更新費用の比較分析に関する調査』）
⇒綾瀬市『公有財産現在高』

(14頁)

- ・【施設の更新費用の見込み】 グラフ
- ⇒総務省調査（平成23年度実施）への本市回答結果
（調査名称：『公共施設及びインフラ資産の将来の更新費用の比較分析に関する調査』）
⇒綾瀬市『公有財産現在高』

(17頁)

- ・【年齢階層別人口】 表
- ⇒綾瀬市『町丁・年齢別人口（住基ベース）』

取得価格に基づく建物コスト

- ・第3章に記載している建物コストは、建物の再調達価格に基づき算定しています。
- ・本表は、建築当時の取得価格に基づき算定した、建物コストの一覧表です。
また、取得価格から償却済みの価格を差し引いた額（未償却残高）も併せて記載しています。
- ・学校など複数の建物が集合している施設については、合計額を記載しています。

施設の名称	建築当時の取得価格	平成23年度 建物コスト	平成23年度末 未償却残高
本庁舎	458,190.0 万円	9,181.4 万円	320,469.7 万円
消防本部	37,569.0 万円	791.5 万円	12,786.9 万円
北分署	25,181.0 万円	506.2 万円	14,595.6 万円
南分署	34,144.0 万円	682.9 万円	23,900.8 万円
中央分団車庫	4,573.0 万円	91.5 万円	2,835.3 万円
綾北分団車庫	4,513.0 万円	90.3 万円	2,888.4 万円
寺尾分団車庫	2,566.0 万円	51.4 万円	1,437.0 万円
早園分団車庫	3,130.0 万円	62.6 万円	1,815.4 万円
綾西分団車庫	5,479.0 万円	109.6 万円	3,616.2 万円
綾南分団車庫	3,760.0 万円	75.2 万円	2,256.0 万円
リサイクルプラザ	73,391.0 万円	1,975.0 万円	49,691.6 万円
浄水管理センター	180,551.0 万円	3,997.7 万円	80,152.3 万円
保健医療センター	36,360.0 万円	727.2 万円	16,725.6 万円
大上保育園（建替後）	42,528.0 万円	904.9 万円	42,528.0 万円
綾南保育園	41,685.0 万円	887.0 万円	33,702.8 万円
ながぐつ児童館	14,656.0 万円	311.9 万円	9,043.1 万円
寺尾児童館	4,445.0 万円	81.7 万円	1,388.4 万円
小園児童館	2,463.0 万円	57.6 万円	0 万円
高齢者福祉会館	25,957.0 万円	591.5 万円	9,305.6 万円
綾西高齢者憩の家	4,540.0 万円	133.6 万円	2,937.7 万円
ばらの里	6,810.0 万円	200.3 万円	2,887.1 万円
希望の家	4,683.0 万円	173.5 万円	4,162.7 万円
もみの木園	6,791.0 万円	147.1 万円	2,093.0 万円
深谷大上ふれあいの家	1,425.0 万円	64.8 万円	1,166.0 万円
福祉会館	4,145.0 万円	81.2 万円	243.6 万円
綾北福祉会館	18,469.0 万円	393.0 万円	14,932.4 万円
中央公民館、	38,000.0 万円	760.0 万円	13,680.0 万円
中村地区センター	24,668.0 万円	493.4 万円	14,800.8 万円
早園地区センター	2,245.0 万円	47.4 万円	212.2 万円

施設の名称	建築当時の取得価格	平成23年度 建物コスト	平成23年度末 未償却残高
吉岡地区センター	3,238.0 万円	89.3 万円	1,314.2 万円
綾南地区センター	8,230.0 万円	164.6 万円	2,304.4 万円
北の台地区センター	7,650.0 万円	153.0 万円	2,295.0 万円
寺尾いずみ会館	55,388.0 万円	1,107.8 万円	36,556.1 万円
南部ふれあい会館	52,698.0 万円	1,054.0 万円	38,996.6 万円
文化会館	235,588.0 万円	5,012.6 万円	80,200.2 万円
図書館	23,360.0 万円	467.2 万円	8,876.8 万円
文化財収蔵施設	9,393.0 万円	247.2 万円	741.6 万円
市民スポーツセンター	101,602.0 万円	2,301.2 万円	36,464.8 万円
綾瀬小学校	237,309.0 万円	5,126.5 万円	197,947.0 万円
綾北小学校	52,532.0 万円	1,295.9 万円	7,106.7 万円
綾西小学校	58,137.0 万円	1,135.8 万円	12,155.6 万円
早園小学校	83,511.0 万円	1,686.3 万円	29,411.1 万円
綾南小学校	57,585.0 万円	1,129.5 万円	12,950.8 万円
天台小学校	67,473.0 万円	1,508.5 万円	16,723.1 万円
北の台小学校	78,149.0 万円	1,766.0 万円	20,145.7 万円
落合小学校	66,506.0 万円	1,546.2 万円	15,714.0 万円
土棚小学校	100,413.0 万円	2,305.3 万円	30,404.0 万円
寺尾小学校	123,919.0 万円	2,845.6 万円	40,057.1 万円
綾瀬中学校	194,506.0 万円	4,209.0 万円	120,813.7 万円
綾北中学校	83,237.0 万円	1,635.6 万円	20,530.2 万円
城山中学校	134,013.0 万円	2,893.4 万円	50,426.6 万円
北の台中学校	124,147.0 万円	2,760.6 万円	42,252.1 万円
春日台中学校	183,753.0 万円	4,092.3 万円	73,331.3 万円
学校給食センター	50,242.0 万円	1,620.8 万円	31,332.0 万円
適応指導教室	1,693.0 万円	49.8 万円	1,244.9 万円
蓼川住宅	15,692.0 万円	333.9 万円	8,346.8 万円
寺尾釜田住宅	29,020.0 万円	620.5 万円	20,954.0 万円
大上自治会館	4,614.0 万円	98.2 万円	1,472.6 万円
蓼川自治会館	2,313.0 万円	49.3 万円	639.8 万円
寺尾北自治会館	7,814.0 万円	166.3 万円	6,982.8 万円
寺尾天台自治会館	9,314.0 万円	198.2 万円	8,917.7 万円
寺尾綾北自治会館	5,108.0 万円	154.0 万円	598.7 万円
寺尾南自治会館	6,058.0 万円	128.9 万円	5,155.8 万円

施設の名称	建築当時の取得価格	平成23年度 建物コスト	平成 23 年度末 未償却残高
小園自治会館	5,371.0 万円	121.8 万円	2,159.0 万円
早川自治会館	4,813.0 万円	102.5 万円	3,789.0 万円
綾西自治会館	5,875.0 万円	139.3 万円	1,990.5 万円
吉岡自治会館	5,225.0 万円	111.2 万円	2,223.5 万円
上深谷自治会館	4,520.0 万円	96.2 万円	1,538.8 万円
中村自治会館	5,855.0 万円	124.6 万円	2,242.4 万円
上土棚自治会館	5,076.0 万円	108.0 万円	1,728.0 万円
落合自治会館	4,215.0 万円	105.7 万円	1,385.0 万円
綾南会館	2,277.0 万円	48.5 万円	484.5 万円
鶴島会館	4,567.0 万円	97.2 万円	1,749.1 万円
大上会館	4,596.0 万円	135.2 万円	1,351.8 万円

綾瀬市公共施設調査報告書

編集発行：綾瀬市企画部企画課

〒252-1192 綾瀬市早川550番地

電話 0467-70-5635（直通）